

授業コード	A4130		
授業科目名	アジア研究(後)		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	「アラブ現代史とポピュラー音楽」 アラブの音楽と言うと、どのようなイメージを抱くだろう？ダラブッカなどの伝統楽器による器楽演奏を思い浮かべる人もいれば、礼拝への呼びかけやコーランの朗読など宗教的なフレーズを聞いたことがある人もいるかもしれない。しかし、アラブ世界にも「歌謡曲」や「ポップス」は存在し、日本や他のアジア諸国ともそれほど変わらない若者文化の世界が広がっている。 この講義では、アラブ世界のポピュラー音楽を題材とし、それらの歌詞、曲調、ビデオクリップの映像等から、現代アラブ社会が抱えるさまざまな問題を抽出し、その歴史的背景とともに説明する。
到達目標	アラブ世界に住む人々の日常感覚を、ポピュラー音楽という題材を通し、私たちにも身近な物としてとらえ直し、彼らが直面している様々な問題について深く理解する。 また、日本はもちろん、韓国、台湾、中国、東南アジアなどのアジア諸国におけるポピュラー音楽との比較から、これら地域の特殊性、共通性を把握する。
講義方法	プリントと板書を併用するが、視聴覚資料も多く利用し、実際のアラブ音楽にできるかぎり触れてもらう。 毎回出席を兼ねたコメントシートを配布し、受講生の感想・意見を書いてもらう。 時間が許せば受講生による調査報告を行ってもらい、日本を含む様々な地域のポピュラー音楽との比較を行いたい。
準備学習	自分たちが日頃聴いている音楽は、どのようなジャンルの音楽だろうか。思いつく限りリストアップしてみよう。
成績評価	平常点と試験の点を総合して評価する。
講義構成	次のテーマをそれぞれ2～3回に分けて論じる。 1. ポピュラー音楽とは何か 2. 伝統的価値観とポピュラー音楽 3. ポピュラー音楽におけるアイドル・カリスマ・歌姫 4. ポピュラー音楽に見る政治的・社会的メッセージ 5. 国境を越えるポピュラー音楽
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	関口義人編『アラブ・ミュージック』東京堂出版、2008年 その他、講義中に指示する。
担当者から一言	アラブ・中東の文化に関心のある人、ワールド・ミュージックが好きな人はもちろんのこと、洋楽、Jポップなどなど、音楽に関心のある人の参加を待ちます。ただし、音楽や映像が流れると途端にうとうとしてしまうのは厳禁です。

授業コード	A4160		
授業科目名	アフリカ研究(前)		
担当者名	赤阪 賢(アカサカ マサル)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	異文化へのまなざしの問題を、わたしたちのアフリカ認識を事例にかんがえてみる。アフリカのイメージといえは、野生の王国など豊かな自然を思い浮かべる一方、旱魃、飢餓、内戦などの明暗、両極端である。こうしたステレオタイプはマスコミ報道などによって、たえず再生産されている。この講義はアフリカの歴史・文化にかかわるトピックをえらび、その実像に接近することをねらっている。
到達目標	アフリカは地理的にも歴史的にも、さらに心理的にも遠い存在といわれている。アフリカの歴史や文化・社会を学ぶことで、マス・メディアの情報に左右されず、アフリカへの理解と関心を深めることにつながる。

講義方法	講義形式をとるが、アフリカ認識を深めるためにVHSやDVDなどの映像資料を利用することがある。そのさい小さな用紙を配布して、質問・感想・意見・まとめ等の提出をもとめ、次回の講義に生かしたい。
準備学習	アフリカにたいする関心を深めるために、日頃から新聞・テレビ・映画・雑誌などにより情報の入手につとめること。また、授業で示した参考図書に眼を通すこと。
成績評価	レポート(60%)と、質問・感想等の用紙で示された授業への積極的態(40%)
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. アフリカ認識の問題・・・ステレオタイプの克服 2. アフリカ史から学ぶもの 3. アフリカ都市の二類型 4. 伝統的都市(1)スワヒリ都市とジンバブエ 5. 伝統的都市(2)サハラ南縁の歴史都市:トンプクツとジェンネ 6. 西アフリカの近代都市:ダカールとアビジャン 7. アフリカ王国の形成と諸類型 8. 伝統王国の復活:ガンダの事例 9. 外部世界との交流 10. イスラームのアフリカ 11. アフリカの多様性 12. 伝統的生活様式とその変化(1) 13. 伝統的生活様式とその変化(2) 14. 現代世界との交渉 15. 同時代のアフリカにたいする関心
教科書	使用しない
参考書・資料	福井勝義・赤阪賢・大塚和夫『アフリカの民族と社会』(世界の歴史24)中公文庫、2010年
講義関連事項	異文化あるいはアフリカへの共感をもってほしい
担当者から一言	ほかの授業と同様、私語の禁止や携帯電話のオフはいうまでもありません

授業コード	A4140		
授業科目名	アメリカ研究(前)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	アメリカは多様性と統一の国であるといわれている。複雑な現代のアメリカ社会の実態を把握するためにはこの多様性と統一の国として発展を遂げてきたアメリカ社会の歴史的事情についての基礎知識がなければならない。こうした観点から過去から現在を展望し、現在から過去を振り返るという姿勢でいくつかのトピックをあげ、アメリカ社会と文化について考える。
到達目標	アメリカの社会と文化についてその概要を把握する。
講義方法	あらかじめMyKONANを通して配布する資料に基づいて講義形式で進める。
準備学習	授業の進行に応じて指摘する資料や映画などを読んだり、観たりしておくこと。
成績評価	定期試験と平常点(小テスト)の成績を基に、定期試験60%、平常点40%の基準で評価する。
講義構成	<p>講義は次のトピックを中心に進める。ただし順不同。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移民の歴史とパターン。 ・西武開拓とアメリカの国民性 ・奴隷制と南北戦争 ・アングロサクソン文化と同化理論 ・英語公用語化運動と同化理論 ・公民権運動 ・カウンターカルチャー ・日系アメリカ人 ・宗教国家アメリカ

教科書	プリント
参考書・資料	必要に応じてして指示する。

授業コード	A5320		
授業科目名	イメージと文化 (前)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	金曜 12時30分～13時		

講義の内容	<p>現代社会は、さまざまなイメージに取り囲まれている。イメージには、多様性があり、言語的表現、絵画から映画・マンガにいたる映像的表現、コンピュータの作り出すサイバースペース、自然や都市の景観、人間の心や意識は、すべてイメージの領域にふくまれる。</p> <p>文化の枠組の中でイメージが果たしている役割は、強力なもので、私たちが個性だと認識しているものは、既成の価値観のコピーにすぎない可能性がある。</p> <p>表現としてのイメージ、社会の表象としてのイメージが、文化のなかでどのように機能しているかについて、具体的な事例(映画、広告、写真、アイコンなど)を分析することによって、イメージがもっている力について考察したい。</p> <p>イメージとしての文化を解説する方法(メディア・リテラシー)の初歩を学んでほしいと考えている。</p>
到達目標	社会から与えられるイメージについて批判的に判断する分析能力を身につける。
講義方法	テーマごとに編集されたリーフレット形式の配布プリントによって講義を進める。視聴覚資料を使用する。各テーマごとに、1～2回の講義を行う。
準備学習	講義で学んだことを、日常世界に応用することができるか確認する習慣を身につけてほしい。講義時に、学生向きのもとして推薦する書籍は、ぜひ読んでほしい。
成績評価	期末試験、出席等によって行う。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 イメージ環境とメディア・リテラシー 2 映画の表現Ⅰ エイゼンシュテインとモンタージュ理論 3 映画の表現Ⅱ ヒッチコックの映像技法 4 映像と政治の問題Ⅰ ヒトラーとリーフェンシュタール 5 映像と政治の問題Ⅱ ボスニア紛争と広告産業 6 イメージの二重の意味 記号学入門 7 現代のプロパガンダ チョムスキーの思想 8 広告の記号論Ⅰ J・ウィリアムソンの分析 9 広告の記号論Ⅱ 広告とサブリミナルテクニク 10 写真と文化的コード 11 写真と虚構 12 イメージと社会 都市と景観イメージ 13 まとめ メディアリテラシーについて <p>* 各項目について1, 2回の講義を行う。都合で順序を変更することがある。</p>
教科書	リーフレット形式のプリントをテーマごとに配布する。
参考書・資料	講義時、プリント等によって指示する。
担当者から一言	受講学生は、一回目の授業には必ず出席すること。配布されたテキストプリントは、毎回、講義時に持参すること。

授業コード	A7230		
授業科目名	癒しの諸相 (前)		
担当者名	中川 晶(ナカガワ アキラ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
講義の内容	前半は我々の生活に深く関わるストレスについて、医学・心理学・文化人類学など様々な視座からの知見を紹介する。後半は医療にターゲットを絞って治療の構造について解説する。		
到達目標	医療について、広い視野から考えることが出来るようになること。		
講義方法	質疑応答を含む講義であり、現在の医療や癒しについてレポートをその場で求めることもある。臨場感のある講義としたい。		
準備学習	普段から医療についてのニュースに注意を向けておくこと。		
成績評価	レポートと出席による。		
講義構成	各回に下記のようなテーマを設定し講義し、質問を混ぜながら議論を進める。 第1回「癒し」とは何か 第2回 身体と心(1) 第3回 身体と心(2) 第4回 生命科学と医学(1) 第5回 生命科学と医学(2) 第6回 医者と癒し人(ヒーラー) 第7回 心身医療(1) 第8回 心身医療(2) 第9回 救急医療(1) 第10回 救急医療(2) 第11回 終末医療(1)代替医療から統合医療へ 第12回 終末医療(2) 第13回 代替医療から統合医療へ 第14回 医療の原点		
教科書	なし		
参考書・資料	毎回プリント配布		
講義関連事項	特になし		
担当者から一言	特になし		

授業コード	A4150		
授業科目名	オセアニア研究(後)		
担当者名	倉田 誠(クラタ マコト)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
講義の内容	近年、私たちは「環太平洋」という言葉を耳にするようになってきている。しかし、「環太平洋」の「環」のなかに広がる世界を知る人は、まだ限られている。この「環」のなかに広がるオセアニア世界でも、古くから人類の生活が営まれてきた。オーストラリア大陸には、5万年前からアボリジニの人々が定住し、大洋に拡散する島々には、我われと同じモンゴロイドたちが4千年前から大海を渡って進出していった。 オセアニアの人びとは、西欧人と出会うまで、農耕を営み、複雑な社会を編成し、石や貝を道具に豊かな文化を築いていた。ところが、西欧文明との接触は、人びとに急激な社会変容や命や土地を奪われるという悲惨な歴史体験をもたらした。現在、オセアニアの人びとは、グローバル化の波にさらされながらも、ときにそれを利用し、また、ときに自らの「祖先のやり方」を尊重することで、独自の社会や国家を創生することに取り組んでいる。「環太平洋」の「環」のなかに広がるこのような世界を覗き見ることによって、我々は何を学びとれるであろうか？本講義では、オセアニアの人びとの歴史経験や現在の暮らしを、日本社会や自分のあり方と比べながら考えてみよう。		
到達目標	オセアニア地域で生起する現在の諸問題を、その歴史的・社会的背景に遡って理解できるようになる。		
講義方法	通常の講義。必要に応じてグループ・ワークなども取り入れます。		
準備学習	オセアニア地域に関する概説書を読み、オセアニア各国の位置関係や概略を把握し、「講義構成」にある諸テーマについての基礎的な知識を入れておくこと。		

成績評価	論述テスト70点、出席30点(コメント・ペーパーやグループ・ワークなどの内容も加味して評価します)。
講義構成	I部 海を渡ったモンゴロイド 1. オーストロネシアンの移住 2. 島世界に生きる知識と技術 II部 島世界の民族誌 1. 伝統社会のしくみ 2. 島と島の結びつき 3. 植民地経験と国家建設 III部 現代に生きる課題 1. 先住民の権利回復運動 2. グローバル化のなかの生活戦略
教科書	なし
参考書・資料	必要資料は講義当日に配付します。また、参考文献は、テーマごとに数点紹介しますので、受講生は興味のあるテーマに関してより知見を深めてください。
講義関連事項	なし
担当者から一言	なし
その他	なし
ホームページタイトル	必要があれば、講義時に発表します

授業コード	A1330		
授業科目名	化学(前)		
担当者名	池田能幸(イケダ ヨシユキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	化学は物質の学問である。身の回りを取り巻くものはすべて何らかの物質からできており、より良く生きるためには物質に関心を持ちこれを理解することが大切である。本講義では、身の回りで見慣れている物質や諸現象を取り上げ、化学とのかかわりについて概説する。
到達目標	化学物質の性質がどのような場面で生かされているのか、また、その根幹に横たわる基本的な考え方は何かについて学ぶ。
講義方法	主としてプロジェクトによる講義が、必要に応じてプリントを配布し、これに則って講述する。
準備学習	化学は現代社会において人類の生活と活動を支える大切な要素である。従って、社会状況ともかかわる部分が多いので、新聞などをよく読んでおくこと。
成績評価	基本的には期末試験の結果により評価するが、場合によっては出席状況およびレポートの結果も加味する。
講義構成	第1回 はじめに 物質と元素 第2回 水 - 構造と性質 第3回 水 - 溶解性 第4回 水 - 水資源の現状 第5回 火 - 発火、燃焼 第6回 火 - エネルギー資源 第7回 土 - 土と日常生活 第8回 衣 - 天然繊維(絹) 第9回 衣 - 天然繊維(羊毛) 第10回 洗う - コロイド、界面活性剤 第11回 住 - セメント 第12回 住 - プラスチック 第13回 くっつく - 接着と接着剤 第14回 環境と化学 第15回 まとめおよび試験
教科書	教科書は使用しない。必要な事項はプリントを配布する。

担当者から一言	ここに取り上げた事項は化学だけでなく、物理や生物とも深く関わり、しかもかなり高度な知識と結びついてい
---------	--

	る。なるべく分かりやすく解説するが、事実を断片的に記憶するのではなく一連の流れの中に位置づけて把握してほしい。
--	---

授業コード	A6110		
授業科目名	核と環境 (前)		
担当者名	山県民穂(ヤマガタ タミオ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	水 午後1ー2時30分		

講義の内容	人工放射性原子核による環境への深刻な問題は大きく分けて二つある。一つは、核爆弾の使用による大規模破壊および全世界的な放射能汚染と核技術の拡散である。もう一つは、原子力発電の安全性と使用に伴い大量に発生する放射性廃棄物処理の問題である。 この講義では、(I) 第二次大戦下での核分裂の発見から核爆弾製造と投下に至る経緯について、冷戦時代の水素爆弾の開発と全世界的な放射能汚染について、核兵器削減に向けた取り組み(II) 原子核と放射線の基礎について、放射線の危険性と効用について、(III) 原子力発電の原理、過去の事故例と安全性について、さらに大量の放射性廃棄物による環境汚染の危険性の解決が緊急課題であることを解説する。
到達目標	放射能に関する基本的知識。核兵器削減に向けた世界の流れ、エネルギー問題と原子力発電の問題に対する考察
講義方法	出席して講義(映画を含む)を聴くことが大切な科目である。理解を助けるための図をスクリーンに投影して説明する。ガイガーカウンターで放射線を実際に計測したり、金属ナトリウムと水の反応実験を行う。
準備学習	各講義の記録をMyKonanに載せておくのでよく読んで、次の講義にのぞんでほしい。
成績評価	出席点(映画の感想文及び小テストを含む)が約20%、学期末試験(電卓を含めて持込み自由)が約80%として成績評価を行う。
講義構成	前期 I. 広島、長崎への原爆投下 第1回 :U爆弾Pu爆弾と原爆の被害 第2回 :放射線, X線, 宇宙線の発見 :映画「人間をかえせ」「予言」 第3回 :核分裂の発見と核爆弾の開発 第4回 :核爆弾投下時の国際情勢と科学者の責任 第5回 :水爆開発競争と全世界的放射能汚染 II. 原子核, 放射線, 放射能 第6回 :元素, 原子と原子核 第7回 :放射性元素の半減期と放射能の強さ 第8回 :放射線量の単位と透過力 第9回 :放射線の利用と人体への影響 III. 核エネルギーの利用 第10回 :原子核のエネルギーと核分裂 第11回 :連鎖反応と核爆弾 第12回 :原子炉と原子力発電 第13回 :原子力発電の安全性と環境への影響 第14回 :高速増殖炉と核燃料再処理及び最終処理 映画「チェルノブイリ事故20年」 第15回 試験
教科書	プリントを配布する。
参考書・資料	「原発と放射能」安齋育郎(かがわ出版 1994年) 「原発(増補版)」安齋育郎(かがわ出版 1994年) 「プルトニウム」友清裕昭(講談社ブルーバックス 1995年)
講義関連事項	講義資料の大部分はプリントして I、II、IIIを纏めたものが第3回目の講義前に配布される。
担当者から一言	21世紀に生きる学生諸君は、核の問題を避けることはできない。

	いざと言う時にどう対処すれば良いかを考えつつ、講義を聴いて基礎知識を身につけてもらいたい。
ホームページタイトル	{「核と環境(前)」ホームページ, http://www.syllabus.konan-u.ac.jp/customer/01/index.jsp?toc=3112 }

授業コード	A7320		
授業科目名	家族関係論(前)		
担当者名	春日井典子(カスガイ ノリコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	講義終了時。		

講義の内容	近年、わが国の家族は急速に変化しつつあるといわれている。家族はもはや制度や規範によって拘束を受ける集団ではなく、個々人にとって主体的に選択され、構築される関係性へと変化してきているといえる。この授業では、高度産業化・情報化および少子化・高齢化といったマクロな社会変動と連動して、夫婦や親子などの家族関係に何が起きているのかを、今日関心の高まっている「高齢者介護」という社会問題を通して明らかにする。
到達目標	個々人が無意識のうちに自明視している家族像を再構築することとおして、家族変動についての理解を深めることを目標とする。
講義方法	講義方式。
準備学習	「高齢者介護」に関する情報を、日頃から新聞や書物などを通じて入手しておくこと。
成績評価	定期試験の評価(8割)、および授業中に課する小レポートの提出状況(2割)で総合評価する。授業の進行の妨げとなる行為(私語など)をおこなう者には、厳重なペナルティを課す。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回 家族とは何か (1)家族の定義再考:人類学の視点から 第3回 (2)家族の定義再考:歴史社会学の視点から 第4回 家族とケア 第5回 介護の社会史(1) 第6回 介護の社会史(2) 第7回 現代の高齢者 第8回 介護の長期化と介護ライフスタイル 第9回 個人化の進行 ビデオ視聴 第10回 介護ライフスタイルという視点 第11回 介護者の動機からみる介護ライフスタイル 第12回 介護の長期化と介護ライフスタイル 第13回 介護ライフスタイルの課題と展望 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「介護ライフスタイルの社会学」春日井典子著(世界思想社 2004年)
参考書・資料	参考書:授業中、必要に応じて指示する。 資料:随時配布する。

担当者から一言	授業中の私語厳禁。
---------	-----------

授業コード	A6230		
授業科目名	環境法学(後)		
担当者名	島田 茂(シマダ シゲル)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

オフィスアワー	毎回、講義終了後、質問を受け付ける。
講義の内容	講義は3部に分かれる。第1部は、公害訴訟法を対象にして、被害住民、加害企業、国や自治体などの公的機関が、それぞれ、自らの立場の正当性を、法的言語を用いて、どのように主張するかを見ることにする。第2部では「都市環境の法的保護」と題して、有名な「国立高層マンション建設反対事件」を起点として、自治体や地域住民が、自らの地域環境を守るために、どのような法的手段が与えられているかを検討する。第3部では、自治体の環境法政策、自治体と住民との協力関係を構築するための法的枠組みについて検討していくことにする。
到達目標	個人の健康・生命や住環境を守るために法がどのように使われるかを認識する。
講義方法	通常の講義方式で行う。
準備学習	事前に配布された資料を読んで出席すること
成績評価	学期末試験で判定する。
講義構成	<p>第1部 公害訴訟の法理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国における公害訴訟の歴史 2. 公害訴訟における争点 3. 不法行為と企業責任 4. 不法行為と国・自治体の責任 <p>第2部 都市環境の法的保護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国立高層マンション建設反対事件 2. 行政法的手法の意義と限界 3. 民事法的手法の意義と限界 <p>第3部 自治体の環境法政策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自治体条例の意義と限界 2. 地方分権改革と新たな法政策の可能性 3. ローカルルール形成と地域環境の保護
教科書	未定
参考書・資料	未定
担当者から一言	講義中の私語は禁止する。

授業コード	A6350		
授業科目名	環境教育の実践I(前)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、太田雅久(オオタ マサヒサ)、西 欣也(ニシ キンヤ)、今井佐金吾(イマイ サキンゴ)、浅野能昭(アサノ ヨシアキ)、中野友博(ナカノ トモヒロ)、大久保規子(オオクボ ノリコ)、小島夏彦(コジマ ナツヒコ)、中井達郎(ナカイ タツオ)、高阪 薫(タカサカ カオル)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜3限 土曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。 隔週で開講するので注意すること。		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	環境教育のベースは自然環境にある。この授業では、教室での講義による環境についての知識を学んだ上で、それを実際に身体を使って体験するため、甲南大学環境教育野外施設(広野グランド)でのフィールド活動を行う。虫や植物の観察・地理調査、また自分たちが植えた野菜や米を世話することによって生命に触れながら、環境問題解決のための能力を身につける。なお、本講義では高大連携の科目でもあるので、フィールドでは教育実習的効果もねらっている。 (実習費:要、雨天決行く各自で雨具の用意をしてきてください。>)
到達目標	フィールドにおける感性の覚醒。
講義方法	<ol style="list-style-type: none"> ①本校舎での講義 ②環境教育野外施設における環境教育の実践(フィールドワーク) ③環境教育野外施設へはバスでの移動(一時間)があるため、12:40正門前集合 13:00大学出発(予定)
準備学習	フィールドワークの前日までに、テーマに応じた資料を自ら準備して眼を通しておく。
成績評価	土曜の午後の授業のためと農作業などのフィールドワークがあるので時間が不規則になるが、理由のないフィールドの不参加は認めない。評価はレポートと出席点。レポート課題は、次回の講義の前日(金曜日、午後4時)までに10号館6階文学部人間科学科共同図書室前のレポートボックスに提出。

講義構成	<p>※この講義は隔週で開講するので、講義日に注意すること。</p> <p>(第01回)オリエンテーション:「環境教育実践Ⅰ」が目指すもの(本校舎)【谷口】</p> <p>(第02回)キャンパス環境と規律(本校舎)【高阪】</p> <p>(第03回)キャンプ入門(環境教育野外施設)【中野・谷口】</p> <p>(第04回)夏野菜の苗付(環境教育野外施設)【谷口・中野】</p> <p>(第05回)地球環境とエネルギー危機(本校舎)【太田】</p> <p>(第06回)エネルギー消費の実習(本校舎)【太田】</p> <p>(第07回)日本の環境法(本校舎)【谷口・浅野・大久保】</p> <p>(第08回)日本の環境行政と政策(本校舎)【浅野・大久保・谷口】</p> <p>(第09回)田植え／ビオトープ(環境教育野外施設)【谷口・西】</p> <p>(第10回)田植え／ビオトープ(環境教育野外施設)【谷口・西】</p> <p>(第11回)地球環境と有害化学物質(本校舎)【今井】</p> <p>(第12回)保全生物学と生物多様性(本校舎)【小島】</p> <p>(第13回)自然観察の方法と夏野菜の収穫と手入れ(環境教育野外施設)【谷口・中井】</p> <p>(第14回)自然観察の方法と夏野菜の収穫と手入れ(環境教育野外施設)【谷口・中井】</p> <p>(第15回)予備日</p>
教科書	適宜紹介する
参考書・資料	<p>学内イントラネットe-Learningコンテンツ「人間と環境」</p> <p>谷口文章『環境教育の哲学－環境教育学序説－』(ミネルヴァ書房)</p> <p>鳥越皓之編『環境とライフスタイル』(有斐閣アルマ)</p>
講義関連事項	環境教育の実践Ⅱ／環境倫理学／環境学基礎論／国際環境教育ネットワーク／国内環境教育ネットワーク
担当者から一言	講義での「知識 knowledge」の修得に加えて、フィールドでの「知恵 wisdom」の獲得を目指しています。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室,http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/}
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	A6360		
授業科目名	環境教育の実践Ⅱ(後)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、茶山健二(チャヤマ ケンジ)、西 欣也(ニシ キンヤ)、鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)、浅野能昭(アサノ ヨシアキ)、中野友博(ナカノ トモヒロ)、大久保規子(オオクボ ノリコ)、小島夏彦(コジマ ナツヒコ)、中井達郎(ナカイ タツオ)、高阪 薫(タカサカ カオル)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜3限 土曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。 隔週で開講するので注意すること。		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	<p>環境教育のベースは体験学習にある。この授業では、教室での講義によって環境についての知識を学んだ上で、それを実際に身体を使って体験するため、甲南大学環境教育野外施設(広野グラウンド)でのフィールド活動を行なう。「環境教育の実践Ⅰ」の授業で育てている野菜や米の手入れ、そして収穫を行う。それとともに土作りと、冬野菜の苗つけも体験する。フィールドで野菜の網焼きなど有機農業の恵みを味わう。調理も経験することで生命の循環、生命に感謝する心を養う。なお、本講義では高大連携の科目でもあるので、フィールドでは、教育実習的な効果もねらっている。(実習費:要,雨天決行<各自で雨具の用意をしてきてください>)</p>
到達目標	フィールドにおける感性の覚醒。収穫祭を通じて通過儀礼の意味を実感する。
講義方法	<p>①本校舎での講義</p> <p>②環境教育野外施設における環境教育の実践(フィールド実習)</p> <p>③初回の講義は野外での実習になりますので、掲示板を注意して確認しておいてください。</p> <p>④あいな里山国営公園・環境教育野外施設へはバスでの移動(一時間)があるため、12:40正門前集合 13:00 大学出発(予定)</p>
準備学習	フィールドワークの前日までに、テーマに応じた資料を自ら準備して眼を通しておく。
成績評価	土曜の午後の授業のためと農作業などのフィールドワークが加わることがあるので時間が不規則になるが、理由のないフィールドの不参加は認めない。評価はレポート、出席点。レポート課題は、次回の講義の前日(金曜日、午後4時)までに10号館6階文学部人間科学科共同図書室レポートボックスまで提出。
講義構成	※この講義は隔週で開講するので、講義日に注意すること。

	(第01回)オリエンテーション:「環境教育の実践Ⅱ」が目指すもの(あいな里山国営公園)【谷口・ゲスト】 (第02回)里山復元と自然観察(あいな里山国営公園)【谷口・ゲスト】 (第03回)稲刈り・アウトドア教育(環境教育野外施設)【谷口・中野】 (第04回)稲刈り・竹林間伐・クラフト体験(環境教育野外施設)【谷口・中野】 (第05回)河川生態系と河川管理(環境教育野外施設)【小島】 (第06回)脱穀(環境教育野外施設)【谷口・小島】 (第07回)さんご礁と地球温暖化(本校舎)【中井】 (第08回)古地図から読み解く環境の変化(本校舎)【鳴海】 (第09回)環境ホルモンの測定(本校舎)【茶山】 (第10回)文学と心の環境(本校舎)【高阪】 (第11回)環境保全活動と環境教育推進法(本校舎)【大久保・浅野】 (第12回)シンポジウム「パートナーシップによる環境教育の展開」(本校舎)【浅野・大久保】 (第13回)収穫祭:餅つき大会(環境教育野外施設)【谷口・西】 (第14回)収穫祭:餅つき大会(環境教育野外施設)【谷口・西】 (第15回)予備日
教科書	適宜紹介する。
参考書・資料	谷口文章『環境教育の哲学—環境教育学序説—』(ミネルヴァ書房) 鳥越皓之編『環境とライフスタイル』(有斐閣アルマ)
講義関連事項	環境教育の実践Ⅰ／環境倫理学／環境学基礎論／国際環境教育ネットワーク／国内環境教育ネットワーク
担当者から一言	前期「環境教育の実践Ⅰ」の体験学習に引き続き、収穫祭も楽しんで下さい。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室,http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/}
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	A6240		
授業科目名	環境行政(後)		
担当者名	岡森識晃(オカモリ シアキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	水曜5限		

講義の内容	1990年代以降、我が国の環境行政は急速な発展を見ている。環境基本法、容器包装リサイクル法、環境影響評価法、ダイオキシン対策法などが制定され、環境省も設置されるに至った。しかしながら、現在も、地球規模で環境の悪化は進行しており、持続可能な社会を形成するためには、今後、環境行政のさらなる発展が期待されるところである。この講義では、我が国における環境行政の現状を検討するとともに、その課題を浮き彫りにする。
到達目標	環境問題及び環境法に関する基礎的な知識を習得することができる。
講義方法	講義形式で行う。
準備学習	環境問題及び環境法に対する問題意識をもって受講することが望ましい。
成績評価	期末試験の成績で評点する。出欠をとることもある。
講義構成	1. はじめに 2. 公害・環境問題の起源 3. 我が国における公害・環境問題の展開 4. 環境法の体系と環境権 5. 環境アセスメントの手続と課題 6. 環境リスク管理の手法と仕組み 7. 環境汚染を規制する法 8. 環境の保全と再生のための法 9. 循環型社会形成のための法 10. 経済的手法による環境の保全と創造 11. 民事公害損害賠償訴訟 12. 環境阻害行為の民事差止訴訟 13. 環境行政訴訟 14. 行政機関による環境紛争処理

	15. まとめ
教科書	南博方・大久保規子『要説環境法(第4版)』(有斐閣・2009年)。
参考書・資料	大塚直『環境法』(有斐閣・2006年)。 阿部泰隆・淡路剛久編『環境法(第3版補訂版)』(有斐閣・2006年)。 その他の文献については、講義の折に適宜指示する。

授業コード	A6260		
授業科目名	環境経済学(前)		
担当者名	柘植隆宏(ツゲ タカヒロ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	環境と社会・経済の関係について入門的な講義を行う。近年、環境税や排出量取引といった、いわゆる「市場メカニズムを利用した環境政策」が注目を集めている。環境政策を巡る現在の議論を理解するためには、経済学の知識が不可欠であるといっても過言ではない。そこで、本講義では、地球温暖化、廃棄物問題、企業の環境対策、資源・エネルギー問題などのトピックを取り上げ、初歩的な経済学の知識を用いて、社会・経済の観点からその発生原因や有効な対策を検討する。
到達目標	この授業の目標は、環境問題に対する経済学的な視点を学ぶことで、環境政策を巡る現在の議論を理解できるようになることである。
講義方法	板書による講義形式。
準備学習	・経済学の予備知識は必要としない。必要最小限の経済理論は、講義の中で解説を行う。 ・新聞等を読み、現実の環境問題の動向を把握しておくこと。参考書の該当部分を事前に読んでおくと、授業の内容が理解しやすい。
成績評価	期末試験の結果により評価する。平常点を加点することがある。
講義構成	1.経済発展と環境問題 2.日本の環境政策 3.環境経済学の基礎 4.環境政策の経済理論1 5.環境政策の経済理論2 6.地球温暖化対策1 7.地球温暖化対策2 8.地球温暖化対策3 9.廃棄物政策1 10.廃棄物政策2 11.廃棄物政策3 12.企業と環境1 13.企業と環境2 14.資源・エネルギー問題1 15.資源・エネルギー問題2
教科書	教科書は使用しない。レジュメをMy KONANIにアップロードするので、各自印刷して持参すること。
参考書・資料	参考書として以下の文献を挙げる。この他については、講義中に適宜紹介する。 栗山浩一著(2008)『図解入門ビジネス 最新 環境経済学の基本と仕組みがよ〜くわかる本』秀和システム 栗山浩一・馬奈木俊介著(2008)『環境経済学をつかむ』有斐閣

授業コード	A6210		
授業科目名	環境社会学(後)		
担当者名	湯川宗紀(ユカワ ムネキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限

特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。
講義の内容	この講義は「環境」をどこか遠くの話、誰かの特別な話として捉えるのでもありません。また、自然や伝統を過剰に賛美したり、環境危機や保護活動を声高に訴えかけたりするものでもありません。 「環境」とはなんなのか、「環境」がどう創られ、「環境」がどのように用いられているのか。「環境」を社会的に問い、都市の大学に通う「わたし」の普段の生活と「環境」がどう関わっているのか、「わたし」と「環境」について考えることを目的とします。 具体的には、環境社会学が対象とする「環境」、これまでの環境社会学の展開を紹介し、「環境」の用途から「わたし」が置かれた位置を探っていきます。
到達目標	自分で考え、判断出来るようになることが最大の目標
講義方法	用意された「答え」を覚えて貰うのではなく、提示する様々な情報(映像、音楽、画像など)から受講生の皆さんに「環境」について考えてもらうこととなります。 質問、異論、反論が数多く出ることを求めます。
準備学習	普段の自分の生活と講義内容の往復運動を頭の中で行ってください。
成績評価	レポート試験によって評価します。
講義構成	はじめに 環境と社会学 「環境」を社会学はどう捉えてきたか 1. 「公害」と「環境」 公害と社会状況 公害から環境へ 2. 環境社会学の展開 「環境の社会学」と「環境問題の社会学」 「環境」の用途 「環境」の政治性 「環境」とイデオロギー 3. 対立から商品へ 「環境」と資本主義 「環境」の商品化 「環境」と観光
教科書	特に指定しません。
参考書・資料	随時紹介します。
担当者から一言	目に余る行為(雑談など)は授業妨害と見なして退席して貰います。

授業コード	A6340		
授業科目名	環境と文学(後)		
担当者名	澤田由紀子(サワダ ユキコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	講義後30分 非常勤講師室談話室にて		

講義の内容	環境問題の核心は、実は私達人間の心の中にある。現代の環境問題の解決にむけての技術的発展と社会構造の改革の核心も、人間に委ねられているものだ。なのに、私達は、自分の心の奥底をのぞき込んでいるだろうか。環境問題に対する自分の心の中の問題と対峙すること、それが本講義の目的でもある。 そのために、一人の人間がその生きる時代の中で発信した言葉から、私達が環境にどのように向かい合っていくべきか、その英知を共に学び、今の時代にどのように生かしていくのかを考えよう。現代に引き継ぐべき思想をもった作家の作品の中から、現代の環境思想につながる考え方を見いだしてゆく。今年度はトピックを基にジャンルも多種にわたる作品に触れつつ講義を進めるつもりである。現代の環境問題に対する各自の切り口を見つけるつもりで参加してほしい。
到達目標	現代の環境問題に繋がる意識を持って作品を発表した作家の作品を詳細に読み込む作業を通じて、従来の環境問題の知識だけでは浮かび上がらない人間の内面の葛藤や、問題解決に至る為の深みを学び取ることができる。

講義方法	講義形式。毎時間出席確認を兼ねたミニレポートを科す。
準備学習	講義では、取り上げる作品の内容を詳しく取り扱うので、受講生は指定された作品を必ず講義前に読んで講義にのぞむこと。読む本の量は多いので、事前に告知し読む時間をとるようにしている。対象作品の講義までに必ず読み終えるよう、各自努力してほしい。本を読了していないと講義の内容は理解できない。学生諸氏は教科書を準備し、積極的に講義ノートをとることががのぞましい。講義内容は必ず試験に反映するようにしている。 講義においては、指定された教科書、教室で配布するテキストプリント、そしてスライドや映像資料等を使用する。講義で使ったスライドは、著作権に抵触しない範囲で、MY KONAN の講義資料に提供するので、各自でダウンロードして講義の復習などに使用してほしい。
成績評価	出席点と期末試験の合点によって評価する。 期末試験を受けないものについては成績評価をしない。期末試験は出席を講義回数の3分の1以上の出席を受験資格の条件とする。 また、講義進行状況に応じては中間試験を課する場合もある。その際はその点数も合点に加えて評価する。
講義構成	I 生命への警鐘～人間の過ちからの気付き ～レイチェル・カーソンから石牟礼道子へ <取りあげる作品> ・レイチェル・カーソン『沈黙の春』『センス・オブ・ワンダー』 ・石牟礼道子『苦海浄土』 II 自然と人間の共生に向けて～現代環境思想と作家の想像力 アルド・レオポルドと宮沢賢治、そして現代の作家へ引き継がれていく思想 <取りあげる作品> ・宮沢賢治「注文の多い料理店」「烏の北斗七星」「なめとこ山の熊」「フランドン農学校の豚」 ・幸田文、星野道夫、山尾三省の作品 ・アルド・レオポルド「山の身になって考える」 ・ゲーリー・スナイダー の詩と道元の思想
教科書	レイチェル・カーソン著／青樹築一訳『沈黙の春』（新潮文庫、2004.6改版） 宮沢賢治『注文の多い料理店』（新潮文庫、1990.6） 石牟礼道子『新装版 苦海浄土 わが水俣病』（講談社文庫 2004.7）
参考書・資料	レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』（新潮社、1996.7） 『新校本 宮沢賢治全集』（筑摩書房、1995.5～2009.3） 『石牟礼道子全集 不知火』（藤原書店、2004.9～） 『田中正造文集』（一）（二）（岩波文庫、（一）2004.11、（二）2005.2） 大鹿卓『谷中村事件—ある野人の記録・田中正造伝』（新泉社、2009.11） 幸田文『木』（新潮文庫、1995.11） 『星野道夫著作集』1～5巻（新潮社、2003.4～8） アルド・レオポルド著／新島義昭訳『野生のうたが聞こえる』（講談社学術文庫、1997.10） ゲーリー・スナイダー著／重松宗育・原 成吉訳『野生の実践』（山と溪谷社、2000.6） ゲーリー・スナイダー著／山里勝己・田中泰賢・赤嶺玲子訳『惑星の未来を想像する者たちへ』（山と溪谷社、2000.10） 財団法人水俣病センター相思社編『絵で見る水俣病[改訂版]』（世織書房、2004.7） 文学・環境学会編『たのしく読めるネイチャーライティング』（ミネルヴァ書房、2000.10）
担当者から一言	本講義は全学部対象であるが、文学作品を読む講義であるため、普段読書や文章に親しんでいない学生はたくさん読み、たくさん書く覚悟をしてのぞんで欲しい。毎時間、ミニレポートを提出してもらう予定である。

授業コード	A6330		
授業科目名	環境人間学(後)		
担当者名	清水芳久(シミズ ヨシヒサ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
講義の内容	地球上では、さまざまな人間活動と自然のサイクルが相互に関係し、微妙なバランスを保っている。環境問題を理解し人間活動との関係を解明するには、環境問題を全体としてとらえつつ個別の問題の現象や課題の特徴をとらえることが重要である。本講義では、地域環境問題のメカニズムと課題、現象の把握や対策に活かされている技術を概観する。		

到達目標	日本と地球の環境問題についての科学的知識の一端を習得すること。
講義方法	通常の講義を実施すると共に、人間と環境の望ましい関わりを考えるため、持続可能性(sustainability)等について、グループに分かれて討議とプレゼンテーションを実施する。
準備学習	新聞、ラジオ、テレビ等で情報を収集しておくこと。
成績評価	試験ないしはレポート、討議とプレゼンテーションへの参加と成果、および出席率を総合して評価する。
講義構成	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・地域環境問題とは？ ・環境汚染の現状と課題 ・日本の公害対策と環境の現状 ・地域環境問題の取り組み ・Sustainabilityとは？ ・まとめ
教科書	特になし
参考書・資料	随時資料を配付する。また映像資料も活用する
担当者から一言	講義中は大いに明るく躊躇せずに発言して下さい。

授業コード	A6150		
授業科目名	環境の医学(前)		
担当者名	山本千恵(ヤマモト チエ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	環境問題というのは最終的には人間の健康の問題ということになる。つまりは環境が問題になるのは、人々の健康に害のあるかどうか重要だからである。そして人々の健康に最も大きい影響力をもつ学問が医学といえる。医療や医学は社会との繋がりを切り離しては考えられない。そこで、本講義では、環境を人間社会の側面から捉えて、医療や医学に対して社会学的なアプローチを試みようと考えている。
到達目標	人の健康と環境との関連を、理解する。
講義方法	一般的な講義形式
準備学習	公衆衛生に関する本を読んでおく方が、より講義を理解できるため、望ましい。
成績評価	レポートと出席による。
講義構成	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション 健康のとらえ方(1) 第2回 健康のとらえ方(2) 第3回 感染症(HIV/AIDS、新型SARS、抗生剤耐性菌など) 第4回 生活習慣病(がん、高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病) 第5回 ウェイトコントロール(やせ、肥満) 第6回 生活リズム(概日リズム、食事&睡眠) 第7回 喫煙と健康 第8回 飲酒と健康 第9回 薬物乱用 第10回 環境の変化と健康被害(1) 第11回 環境の変化と健康被害(2) 第12回 現代社会とメンタルヘルスケア 第13回 コンピューターの利活用と健康 第14回 健康福祉体制の再構築 第15回 まとめ
教科書	特になし
参考書・資料	毎回、プリント資料を配布 参考図書などは授業のなかで紹介
講義関連事項	特になし
担当者から一言	特になし

その他	特になし
-----	------

授業コード	A6120		
授業科目名	環境の化学(後)		
担当者名	脇田慎一(ワキダ シンイチ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	環境分野の歴史は浅く、現在も新しい科学的知見が国際機関に集約され、将来を予測しつつ有効な対策を講じる科学的な根拠となっている。中でも、化学の果たす役割は大きく、計測化学による原因解明、生命化学による環境影響が明らかにされ、環境問題の多くは分子レベルで理解されることが多い。 本講義では、変遷する環境問題の化学的な理解と対策技術をできるだけ体系化して解説する。講義対象は、①公害問題(地域環境)、②地球環境問題(地球環境)、③新しい環境問題(生活環境)、④今後、取り組むべき環境問題とする。
到達目標	本講義により、新しく生じる環境問題に対して、その本質を冷静に化学的に洞察できる基本的な考え方を身につけるために、最新の環境化学の講義内容を理解することを目標とする。
講義方法	講義はプロジェクターを使用したパワーポイント講義を行う。重要な内容は必ずノートに筆記して理解して欲しい。必要に応じて補助的なパワーポイント資料を事前にアップしますので印刷し講義に備えて下さい。また、講義後に重要なパワーポイント講義スライドの概要をアップします。
準備学習	事前にアップされたパワーポイント講義資料を印刷して講義に持参して下さい。
成績評価	期末試験の成績(60%)及び出席・小テスト(40%)により評価する。
講義構成	第1回 変遷する環境問題、環境の化学的な理解と解決 第2回 公害(地域環境)問題の現状 第3回 公害(地域環境)問題の対策 第4回 大気、水質、土壌汚染の現状と対策 第5回 地球環境問題の現状 第6回 地球環境問題の対策 第7回 新しい環境問題(生活環境)の現状 第8回 新しい環境問題(生活環境)の対策 第9回 物質の生体毒性(環境毒性学序論) 第10回 環境と健康(環境医学序論) 第11回 環境ストレスと生体影響(ストレス学序論) 第12回 環境リスクとマネジメント(環境リスク序論) 第13回 食糧問題とエネルギー問題(新しい地球環境問題) 第14回 環境と化学のまとめ 第15回 期末試験
教科書	特に指定しない
参考書・資料	環境 化学同人(2008) 環境化学概論 第2版 丸善(2006) 環境科学 実教出版(2006) 生活と環境 東京数学社(1999) 変化する環境と健康 三共出版(2007)
担当者から一言	従来の環境常識には全くとらわれない環境化学の最前線をできるだけ分かりやすく講義する。疑問点があればすぐに参考書などで補足して理解して欲しい。

授業コード	A6221		
授業科目名	環境倫理学(1クラス)(前)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。 この科目は高大連携科目の為、60名に人数制限します。受講希望者は先着順登録を行うこと。
オフィスアワー	授業の前後1時間
講義の内容	21世紀になって、地球環境破壊がますます進行しつつある。環境を復元するとともに、環境の保全を実行する必要性に迫られている。環境問題は、人間関係を中心とする従来の抽象的な倫理学では対応しきれない。環境問題の解決のためには、すべての生命との相互関係や世代間の倫理を含んだ広い具体的な枠組が要請されると同時に、理論的な規範を示す環境倫理学が必要とされている。本講では、種々の分野や学問における環境モラルを統括する「環境倫理学」を考察していきたい。なお、この科目は高大連携の科目でもある。
到達目標	環境問題を倫理的に扱う方法とライフサイクルにおける環境マナーの大切さを自覚すること。
講義方法	ノート講義が中心であるが、下記のテキストも併用する。
準備学習	テキストの各章をテーマに応じて一読しておく。
成績評価	テストと出席点
講義構成	第1回 地球環境問題と現状 第2回 伝統的倫理学でどこまでカバーできるか 第3回 環境倫理「学」の要請 第4回 地球環境問題の解決のためにⅠ－動物・植物・自然物の権利と人間の義務－ 第5回 地球環境問題の解決のためにⅡ－世代間倫理、公平な配分の正義－ 第6回 環境倫理にもとづいた環境教育の展開 第7回 ライフスタイルは変えられるか 第8回 「ライフ」の三つの次元の環境認識 第9回 生命の環境－衣・食・住をめぐって－ 第10回 生活の環境－衣・食・住をめぐって－ 第11回 人生の環境－衣・食・住をめぐって－ 第12回 環境倫理にもとづいた環境教育の実践 第13回 環境倫理にもとづいた環境教育のネットワーク化 第14回 環境倫理による価値観の転換 第15回 予備日
教科書	鳥越皓之編『環境とライフスタイル』(有斐閣アルマ)
参考書・資料	谷口文章『環境教育の哲学－環境教育学序説－』(ミネルヴァ書房)【印刷中】
講義関連事項	広域副専攻環境学コース:「環境教育の実践Ⅰ・Ⅱ」/人間科学科専門科目:「環境学基礎論」「国際環境教育ネットワーク」「国内環境教育ネットワーク」/学内イントラネット:「人間と環境」
担当者から一言	環境倫理学をめぐって、身近な地域環境の改善から、国際的な環境問題の解決にまで取り組んでいきたいと考えています。インターネット(遠隔講義)を使用することもあるので、人数制限があります。ご留意ください。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室,http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/}
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	A6222		
授業科目名	環境倫理学(2クラス)(後)		
担当者名	河村 厚(カワムラ コウ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
講義の内容	哲学や倫理学は二千数百年も前から延々と営まれてきた学問ですが、現代においては、高度の科学技術の発達や、それが社会や地球環境におよぼす影響によって、人類は新たな問題に直面しています。それらの問題を解決するために、1970年代に入ると、「応用倫理学」と呼ばれる新たな倫理学が誕生し、これまでアメリカを中心に発展してきました。環境倫理学は、生命倫理学と並ぶ、応用倫理学の二大分野です。 この講義では、応用倫理学が誕生するまでの歴史的(思想的)背景を学んだうえで、まず環境倫理学をその基本三主張を中心に学習します。そして、現在の自然(環境)保護において学問的に問題となっているいくつかの重要なトピックスについて、環境倫理学からの見方を提示します。		
到達目標	①環境問題について、歴史的な背景を踏まえて、かつ多角的な観点から、自分の考えを述べるようになることを目標とする。		

	②なぜ自然(環境)を保護するのか(保護しないといけないのか)について、環境倫理学の立場からの説明ができるようになることを目標とする。
講義方法	配布プリントを用いた説明・講義とそれへの質疑応答。
準備学習	普段から新聞や雑誌、テレビなどの「環境問題」に関する記事や特集を注意して見ておいて下さい。
成績評価	定期試験は行わず、数回実施する平常レポート(40%)と最後の講義の際に実施する「総復習テスト」(60%)を総合して評価する。
講義構成	第1回 イントロダクション 第2回 応用倫理学の誕生とその背景①「古代ギリシアから現代までの倫理学の歴史の中での環境倫理学の位置づけ」 第3回 応用倫理学の誕生とその背景②「応用倫理学の諸分野とそこにおける環境倫理学の位置づけ」 第4回 環境倫理学の基本三主張①「自然の生存権」 第5回 環境倫理学の基本三主張②「世代間倫理」 第6回 環境倫理学の基本三主張③「地球全体主義(地球有限主義)」 第7回 「自然の価値」論－自然の「道具的価値」と「内在的価値」 第8回 二つの自然保護－自然の「保全」と「保存」 第9回 自然保護における「個体主義」的立場と「全体論主義」(ホーリズム)的立場① 第10回 自然保護における「個体主義」的立場と「全体論主義」(ホーリズム)的立場② 第11回 環境正義と環境プラグマティズムの主張① 第12回 環境正義と環境プラグマティズムの主張② 第13回 「予防原則」と「持続可能な発展」について 第14回 総復習(総まとめ)のテスト
教科書	教科書は使わず、ほぼ毎回プリントを配布するので、それを順にファイルして講義の際には必ず持参してください。
参考書・資料	加藤尚武『環境倫理学のすすめ』(丸善ライブラリー) 加藤尚武編『環境と倫理－自然と人間の共生を求めて』(有斐閣) 鬼頭秀一・福永真弓編『環境倫理学』(東京大学出版会) 鬼頭秀一『自然保護を問いなおす－環境倫理とネットワーク』(ちくま新書) ジョゼフ・R・デ・ジャルダン『環境倫理学－環境哲学入門』(人間の科学新社)
担当者から一言	毎回 真面目に出席しきちんとノートを取り復習した人がいい成績をとれるような評価を行います。講義後に自由に質問に来てください。
その他	講義中に携帯電話を触っている(操作している)者や飲食をしている者、私語がうるさい者は教室の外に退出していただきます。

授業コード	A5130		
授業科目名	感性情報(後)		
担当者名	林 秀彦(ハヤシ ヒデヒコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	感性に関する研究課題は、情報学、心理学、生理学、脳科学、認知科学、社会学、経済学、工学、技術、芸術、教育、倫理等の多岐に及ぶ専門分野と関連する横断型分野としての属性を有している。本講義では、これらの分野との複眼的な視座に立つことで、人生を豊かにする感性について多角的に理解を深める。また、これらの分野に含まれる感性情報を人間情報処理の枠組みにおいて体験的に理解する。そのため、受講者が自ら課題を作成し、その課題解決を図る実践的な取り組みが求められる。
到達目標	感性情報を理解する。
講義方法	パワーポイントのスライドを活用して講義を行う。また、授業の後半では受講者がコンピュータを操作することによって感性情報処理を実践的に習熟する。
準備学習	抽象性の高いテーマを基に具体性のある回答を求めることがあるため、それができる思考訓練をしておく、授業に参加しやすい。
成績評価	出席点30%、小テスト30%、課題レポート40%程度の割合で総合的に評価する。
講義構成	第1回 イントロダクション 第2回 情報の性質・分類

	第3回 感性と情報処理 第4回 人間の情報処理プロセスと知覚・感性 第5回 心理学と感性 第6回 言語学と感性 第7回 脳科学と感性 第8回 情報科学・工学と感性 第9回 感性情報の計測・分析 第10回 感性情報の分析・評価 第11回 ものづくりと感性価値 第12回 ヒューマンインタフェース・デザイン 第13回 感性を育む教育 第14回 感性情報と倫理 第15回 まとめ
教科書	多岐に渡る内容を扱うため、特定の教科書は用いない。必要に応じて参考資料を適宜紹介する。
参考書・資料	福田(監):増補版 人間工学ガイド -感性を科学する方法, サイエントリスト社, 2009 三浦:心理学入門コース1 知覚と感性の心理学, 岩波書店, 2007 宮原:感性のテクノロジー入門, アスキー, 2005 中易, 坪野, 松村, 前川:情報科学(ヒューマン編), 共立出版, 2002 行場, 箱田:知性と感性の心理 -認知心理学入門, 福村出版, 2000 中森:感性データ解析 -感性情報処理のためのファジィ数量分析手法, 森北出版, 2000 辻:感性の科学 -感性情報処理へのアプローチ, サイエンス社, 1997
担当者から一言	積極的な議論・質問によって授業に参画し、感性を感じたり考えることで、心を豊かにしてほしい。
その他	受講人数の規模や利用できる教室設備等の状況に応じて、コンピュータの活用等のシラバス内容を変更することがある。

授業コード	A5230		
授業科目名	企業と情報(後)		
担当者名	長坂悦敬(ナガサカ ヨシユキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	インターネットを中心とした情報インフラの整備、携帯電話(端末)の普及、高性能パソコンの低価格化、さまざまなパッケージソフトウェアの発達などここ数年でのIT関連分野の変化は激しい。この変化は、企業活動にも大きな影響を与えている。ここでは、ITとビジネスに関わる最新事情について学習する。
到達目標	企業における情報の重要性について説明できる。ビジネスモデルについて説明できる。
講義方法	講義、DVD鑑賞、考察、討論、小課題を行う。
準備学習	ビジネスに関する新聞記事をよく読んでおくこと。
成績評価	授業中の練習問題の提出状況(30%)と期末試験(70%)で評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度情報化社会への変化 2. インターネット / イン트라ネット 3. コンピュータリテラシーと情報リテラシー 4. エンドユーザコンピューティング 5. eコマースとビジネスモデル 6. ITとマーケティング 7. 製造業のIT戦略 8. ITと流通、ロジスティクス 9. 意思決定システム 10. 会計情報システム 11. 情報資源管理とデータベース 12. データマイニング 13. 知的資産管理とナレッジマネジメント 14. 企業における先端情報システム 15. まとめ

教科書	ホームページからレジメを各自ダウンロード印刷して持参しておくこと。
参考書・資料	長坂悦敬 「経営情報処理－基礎－」 学術図書出版社、(1998)
担当者から一言	ITとビジネスのかかわりについて、身近な事例から、いろいろな視点で学びましょう。
URL	http://homepage2.nifty.com/nagasaka/

授業コード	A2150		
授業科目名	技術の歴史(後)		
担当者名	重松利彦(シゲマツ トシヒコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	明治以降日本が近代的な技術を受容し、発展させてきた過程を、近代科学や工学の進展と関係付けながら解説する。その中で、日本がなぜ「低開発の開発」の道から免れることが出来たかについて考えてみる。また、このようにして発展してきた科学・技術がどこに向かおうとしているのかについても簡単に触れる。
到達目標	近代技術とはいかなるものか、また、日本はいかにして近代技術を受容できたかについて、具体的に説明できる。
講義方法	通常の講義形式で行う。必要に応じプリントを配布する。
準備学習	近代史の知識を必要としているので、授業で示した参考図書を読むこと。
成績評価	期末試験で評価する。
講義構成	第1回 技術と技能、近代科学と近代技術 第2回 産業革命以前の科学 第3回 産業革命以前の技術 第4回 近代科学の形成と産業革命の発展 第4回 産業革命期の技術1-木綿工業 第5回 産業革命期の技術2-蒸気機関 第6回 幕末期の科学・技術の状況1-農学、蘭学 第7回 幕末期の科学・技術の状況2-技術の軍事化 第8回 日本の近代化と科学・技術-明治維新と工部省事業 第9回 日本の近代化と科学・技術-機械紡績業の興隆 第10回 日本の近代化と科学・技術-近代造船業の形成1 第11回 日本の近代化と科学・技術-近代造船業の形成2 第12回 日本近代技術の到達点 第13回 近代技術から現代技術へ 第14回 科学・技術はどこへ向かうのか 第15回 まとめと試験
教科書	授業中に参考文献等を紹介する。
参考書・資料	日本近代技術の形成 〈伝統〉と〈近代〉のダイナミクス 中岡哲郎 朝日選書809

授業コード	A1240		
授業科目名	経営学(前)		
担当者名	上林憲雄(カンバヤシ ノリオ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	初めて「経営学」を学ぼうとする初学者が理解できるように、経営学の基本を平易に概説します。この講義を最後まで受講すれば、経営学とはどのような学問領域で、経営学を学ぶことがどのような意味を持ち、どのようなよう
-------	--

	に役立つかが理解できるようになっているはずですが。
到達目標	本稿を通じ、学問としての経営学の体系と内容を学習し、他の学問領域との関係を理解できるようになることが目標です。
講義方法	教科書に沿って説明していきます。適宜ノートをとりながら受講するようにしてください。
準備学習	教科書で、指示する章を事前に読んでくるようにしてください。
成績評価	期末試験の成績によって評価します。
講義構成	<p>授業の概要は概ね以下の順に講述する予定ですが、状況を見て変更する場合があります。経営学について何も未だ知らない皆さんを念頭に置きつつ、経営学の基本的理解にとって必須の章を特に重点的に学習することになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会社の経営とはどんなことか（企業経営入門） 2. 会社はどのようにして社会に役立っているのか（企業） 3. 会社は誰が動かしているのか（コーポレート・ガバナンス） 4. 会社はどのような方針で動いているのか（経営理念と戦略） 5. 会社はどんな仕組みで動いているのか（組織形態） 6. 会社は他の会社とどのように協力しているのか（組織間関係） 7. 会社はどのようにしてものを作るのか（生産管理） 8. 社員は仕事をどのように分担しているのか（組織構造と職務設計） 9. 社員は何故働くのか（モチベーションとリーダーシップ） 10. 社員はなぜ組織に留まろうとするのか（雇用システム） 11. 社員はどのような報酬を求めているのか（報酬システム） 12. 社員はどのようにして育てられるのか（人材育成制度） 13. 会社はどのようにしてものを売っているのか（マーケティング） 14. 会社は海外でどのように経営しているのか（国際経営） 15. 会社の儲けはどのようにして測定するのか（会計制度） 16. 経営学とはどのような学問かー各分野への橋渡しー（学問論）
教科書	上林憲雄ほか『経験から学ぶ経営学入門』2007年、有斐閣。
講義関連事項	経営学部開講の「経営学総論」(上林担当、1年生向き入門科目)を既に履修済みの皆さんには、部分的に内容が重複しますが、よりアドバンスな内容を含みますので、復習の意味で受講してもらって結構です。
担当者から一言	教科書のタイトルにあるように、この講義の最大の特徴は、受講生の皆さんの「経験」を基礎にして説明を使用とすることです。大学生レベルでの皆さんの「経験」をベースにしながら、日常生活と経営学を結びつけながら講義をしたいと思っています。真剣に授業に参加すれば、必ず経営学のおもしろさが実感でき、理解ができるようになるはずですが。

授業コード	A1230		
授業科目名	経済学(後)		
担当者名	草野正裕(クサノ マサヒロ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	われわれの住む社会は、資本主義社会と呼ばれる。 ここでは「もの」の値段は売り手と買い手のせり合いによって決められる。本講義ではこのことから始めて基礎的な経済理論を紹介する予定である。さらにこれを手がかりとして現在われわれが直面する現実の経済問題について考えてみたい。
到達目標	講義レジュメに基礎的な論述問題をつけています。これらの問題に6～8割程度答えられることを到達目標にしたいと思います。
講義方法	プロジェクター等を使います。随時小テストを行ったり、感想を提出していただいたりといったことも考えています。なお、My KONAN に毎回のレジュメをアップ・ロードします。それを、ダウンロード、プリントアウトして、教室に持参してください。あるいは、ダウンロードしたパソコンを持ち込んでいただいてもかまいません。無線が使える場合は、教室で受信していただいても結構です。
準備学習	授業の前に、ダウンロードしたレジュメを一読されることをおすすめします。
成績評価	平常点と期末テストの点数で評価します。

講義構成	<p>第1章 ミクロ経済学の基礎(Ⅰ)</p> <p>§1 需要と供給による価格の決定</p> <p>§2 需要または供給の移動</p> <p>§3 Summary</p> <p>第2章 ミクロ経済学の基礎(Ⅱ)</p> <p>§1 さまざまの費用概念</p> <p>§2 利潤最大化(価格＝限界費用)</p> <p>§3 練習問題</p> <p>第3章 マクロ経済学の基礎(Ⅰ)</p> <p>§1 貯蓄と投資による所得の決定</p> <p>§2 乗数理論</p> <p>§3 練習問題</p> <p>第4章 マクロ経済学の基礎(Ⅱ)</p> <p>§1 完全雇用GDP</p> <p>§2 財政政策と金融政策</p> <p>§3 練習問題</p>
教科書	なし
参考書・資料	ダウンロードしたレジュメ。
担当者から一言	経済学を学ぶと多くの経済の知識が得られ、さらには経済現象を論理的、体系的に考えることができるようになります。お望みなら結果として、日常の経済活動をうまくやってゆくのに多少はお役に立つでしょう。

授業コード	A2360		
授業科目名	芸術史(前)		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	<p><美術館をめぐる言説></p> <p>例えば、なんでもない日用品でも堂々と美術館の中に展示されていたら、人はそれを「芸術作品」とみなして眺めてしまうのではないだろうか。美術館、それは「芸術とは何か」を決する「制度」そのものであると言えるかもしれない。</p> <p>そしてまた、「美術館」をめぐる様々な思想家たちの言説を検討することで、「近代(モダン)」という時代が見えてくる。「モダン」から「ポスト・モダン」への思想の移行を、「美術館」をめぐる言説の中から読み解いていこう。</p> <p>授業では、「美術館」の成立過程を概観した後、「美術館」をめぐる様々な言説を検討し、現代のアート・シーンでの「美術館」の役割、その可能性も検証したい。</p>
到達目標	「美術館」をキーワードにして、時代を、社会を、考察する。
講義方法	PCプロジェクター、ビデオ、DVDなど、AV機器を用いながら講義を進める。
準備学習	甲南大の近隣にも、沢山の美術館がある。「美術館に行ったことがない」などという状態では、この授業の内容を理解することは難しいかと思う。各自、積極的に様々な美術館に足を運んで欲しい。
成績評価	<p>学期末にペーパー試験を行う。授業のノートや配布資料など持込可。</p> <p>(注)授業時配布資料を持っている、ということを、この授業に出席していた証拠とみなします。配布資料は試験当日まで紛失などしないように気をつけて下さい。なお、上記の理由から、授業終了後には、いかなる理由があろうと資料の再配布はしません。</p>
講義構成	<ul style="list-style-type: none"> ・(導入)マルセル・デュシャンの<泉>からの考察 ・「美術館」の始まり(ルーヴルの場合) ・「一般公開」の理念と市民革命 ・「ホワイト・キューブ」と「モダン・アート」 ・「オフ・ミュージアム」の動き ・「モダニズム」「ポスト・モダニズム」

	<p>……等々。</p> <p>(授業で参照・検討するテキスト例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルセル・ブルースト「花咲く乙女たちのかげに(『失われた時を求めて』より、1913-1927年)」 ・ポール・ヴァレリー「美術館の問題(1936年)」 ・ヴァルター・ベンヤミン「複製技術時代における芸術作品(1936年)」 ・アンドレ・マルロー「空想の美術館」(1948) ・小林秀雄「骨董(1948年)」 ・テオドール・アドルノ「ヴァレリー・ブルースト・美術館(1955年)」 ・アラン・カブロー「美術館の中での死(1967年)」 ・ロバート・スミッソン「美術館に関する空虚な考え(1967年)」 ・ブライアン・オドハーティ「ホワイト・キューブの中(1976年)」 ・ダグラス・クリンプ「美術館の廃墟に(1980年)」 ・ジャン・ボードリヤール「ボール効果—内破と抑止(1981年)」 ・ロザリンド・クラウス「ポスト・モダンの、壁の無い美術館(1986年)」
教科書	<p>テキストを適宜プリントで配布する。</p> <p>学期末試験に、配布プリントを必ず持参すること。</p> <p>なお、プリントは、いかなる事情があろうと再配布はしない。</p>
参考書・資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュヌヴィエーヴ・ブレスク『ルーヴル美術館の歴史』創元社、2004年。 ・小島英熙『ルーヴル・美と権力の物語』丸善、1994年。 ・ダグラス・クリンプ「美術館の廃墟に」、ハル・フォスター編『反美学』所収、1987年。 ・建畠哲「ホワイトキューブの神話」、小林康夫・松浦寿輝編『メディア：表象のポリティクス』、東京大学出版会、2000年。 ・暮沢 剛巳『美術館はどこへ?—ミュージアムの過去・現在・未来』廣済堂出版、2002年。 ・川田都樹子「美術批評と展覧会—美術館の在り方をめぐって」、原田平作・神林恒道・岩城見一編『芸術学の射程(芸術学フォーラム第2巻)』勁草書房、1995年。
講義関連事項	折にふれて、各地の美術館や、開催中の展覧会の紹介なども交えたいと思う。各自、足を運んでみてほしい。
担当者から一言	<p>プロジェクター使用中の入室・退室は禁止する(明かりが入るとスクリーンが見づらいので)。</p> <p>授業中に配付するプリントは、学期末の試験のときに必要になる。失くさないように。</p> <p>シラバスの内容は、授業の進行状況にあわせて随時、変更する可能性がある。</p>
その他	<p>プロジェクター使用時は部屋を暗くするので、教室設備によっては、ノートを取るために各自で手元あかり(ペンライトなど)を用意することが必要となる可能性がある。初回授業時に教室設備を確認したうえで、改めて指示をだすことにする。</p>

授業コード	A3210		
授業科目名	現代思想(後)		
担当者名	里見軍之(サトミ グンシ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	<p>現代思想を取り上げる場合、よく知られている思想の類型別に、例えば、プラグマティズム、実存主義などについて順番に見ていく方式が多いが、今学期は、現代に生きるわれわれがぜひとも考えておかなければならない重要な、緊急の課題について、問題別に思想の面からアプローチしていきたい。前半では現代思想の一般的特徴を、特に「解釈学」を代表例として検討していく。続いて、個別の問題、つまり、科学技術、環境、消費社会の問題について順次考えていきたい。</p>
到達目標	<p>ここで取り上げる個々の問題は報道機関でも絶えず取り上げられているように、現代に生きる我々のぜひとも考えておかなければならない重要な課題である。かりに今あまり関心がなくても、授業を通じて次第に関心を深めていってもらいたい。各自が考えるためのかなりの材料やヒントは必ず提供するので、ついてきてもらいたい。</p>
講義方法	<p>講義方式だが、質問、要望、意見、感想などは大歓迎。出席表の裏にそれを書いてもらえば、次の時間の初めに紹介し、答えます。授業終了後の直接の質疑応答も歓迎。ときにはこちらから、教室内をまわり、意見を求めることもあり。積極的な参加を請う。ときどき資料を配布する(ただし、その時間に出席している人に限る)。</p>
準備学習	<p>教科書は必要部分しか使用しない。使う箇所はシラバスに明記してあるので、そのページの前後を予習、復習で目を通しておいてもらいたい。そうすれば理解がいつそうすすむはずです。</p>
成績評価	<p>基本は筆記試験。欠席が2回以下の場合は優遇(加点)。出席が半分以下の場合は、素点のまま。</p>

講義構成	<p>第1回 思想とは？ 現代とは？ 第2回 思想のうち、芸術、宗教、哲学、科学の関係 第3回 現代思想の代表例としての解釈学。その来歴 第4回 解釈学の技法 第5回 解釈の現代性 第6回 科学と科学技術とは違う 第7回 科学技術と生活世界 第8回 環境問題の現状 第9回 環境問題の歴史的経過 第10回 自然と共生 第11回 大衆社会の成立 第12回 消費社会への展開 第13回 消費社会の行く末 第14回 まとめ 第15回 期末試験</p> <p>第3回～第5回 61～68ページ(教科書の) 第6回～第7回 105～119ページ 第8回～第10回 139～153ページ 第11回～第13回 180～195</p>
教科書	『現代哲学の潮流』 里見軍之、谷口文章編 ミネルヴァ書房
参考書・資料	教室にて指示。ときどき資料配布
担当者から一言	こちらからの質問、問い合わせに対して積極的な応答をお願いしたい

授業コード	A3160		
授業科目名	現代社会と企業(前)		
担当者名	植田宏文(ウエダ ヒロフミ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	<p>金融機関の行動と経済活動は密接な関係を有しており、マクロ経済の動向を認識するためには様々な経済的事象に直面した場合、銀行を中心とした金融仲介機関がどのような行動をし、またその結果どのような経路を通じて経済全体に影響を及ぼすのかを理解する必要がある。</p> <p>本講義では上記の問題意識に基づき、金融機関の行動の特徴を明らかにするとともに、それがマクロ経済活動に与える影響を論理的に考察することを目的とする。また、企業の資金調達活動・ポートフォリオ行動についても詳しく解説する。</p> <p>更に、不良債権問題や金融制度改革等の時事トピックスを随時取り上げ、その背景と展望について検討する。とりわけ金融不安定性理論の展開を行い、金融システムがいかなるメカニズムを通じてマクロ経済活動全体に影響を与えるのかを考察する。</p>
到達目標	本講義内容を正確に理解することによって、現実の経済活動で生じている要因およびその背景を捉えることができるようになることを目的としている。そのために、理論的側面だけでなく現実的な側面にも焦点を充て紹介し、講義で開設した内容とどのように関連しているのかを明らかにする。
講義方法	講義は、すべてパワーポイントを用いて展開する。また、必要に応じて講義時間中に質問時間を設けるので、講義内容の確認等に活用してもらいたい。
準備学習	特別に予習する必要はないが、常に新聞やテレビ等で経済・社会問題に触れてもらいたい。講義後は、復習した上でニュース等の内容を講義内容と関連させて考えることをすすめる。
成績評価	レポートと期末試験で成績評価点を与える。評価のウェイトは、レポート30%、期末試験70%とする。なお、レポートは講義の前半部分が終了した頃に実施する。
講義構成	<p>1 金融の自由化 金融業務規制と利益相反、規模の利益と範囲の経済</p> <p>2 情報の非対称性と信用市場 信用割当、逆選択とモラルハザード</p> <p>3 信用創造のメカニズム マネーサプライの外生性と内生性、貨幣数量説</p>

	4 金融不安定性理論の展開 金融仲介機関の貸出行動とマクロ経済活動の関係 自己資本比率規制の功罪、不良債権問題への対応 5 貯蓄と投資の生成メカニズムおよび実証分析 6 企業の資金調達手段 直接金融と間接金融の特徴 7 BIS規制、証券化 8 国際通貨制度と金融の不安定性
教科書	特になし

授業コード	A3110		
授業科目名	現代社会論(後)		
担当者名	永井純一(ナガイ ジュンイチ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	<p>「現代社会」とはいったいどのような社会なのか。「現代社会は『〇〇社会』である」という文言を、私たちはしばしば耳にする。みなさんなら「〇〇」の部分にどんな言葉を当てはめるだろうか。個人が伝統と共同体に依拠していたのが前近代、そこから解放された個人が社会と新たな関係を編み続けるのが近代だとして、我々の住む現代は初期の近代から多くの点で様変わりしている。</p> <p>本講義では「都市」、「メディア」、「消費」、「わたし」などといったキーワードを中心として、研究動向や文献を紹介しつつ、身近な問題を通じてこうした日本社会の「いま」について考える。</p>
到達目標	身近なテーマから社会について考える、想像する力を身につける。
講義方法	講義形式。必要に応じて音源・映像資料を適宜用いる。
準備学習	授業で扱った内容に関して理解を深めること。
成績評価	期末テストによる評価。
講義構成	<p>以下のテーマを中心に、それぞれ数回にわたって講義をおこなう予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアと社会的リアリティ ・消費社会論(流行・ファッション、自然志向・スローライフ) ・オタク文化とデータベース消費 ・監視社会と自由 ・ディズニーランド化する社会
教科書	使用しない。
参考書・資料	適宜指示する。

授業コード	A3320		
授業科目名	現代生活と化学(前)		
担当者名	酒井 宏(サカイ ヒロシ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	<p>現代社会に生きる我々は、何らかの形で常に放射線の影響を受けている。宇宙からの放射線や地殻からの放射線は人類が太古から浴び続けているし、毎日摂る食物中にも放射性物質は含まれている。さらには、健康診断のときに行う胸部X線撮影など、良きにつけ悪きにつけ、我々は放射線から逃れるすべはない。最近では原子力発電所の水漏れ事故など、新聞を賑わせている。一方、放射線は医学、薬学、農学、理工学のみならずさまざまな分野で利用されている。現代社会において、我々は放射線について正しい認識を持たなければならない。本講義は理科系の学生はもとより、文科系の学生にとっても放射線について正しく理解できるよう解説する。</p>
-------	--

到達目標	① 原子力発電における原子炉のしくみを理解し、説明することができる。 ② 放射線が現代医療、生物・農業、および工業の各分野にどのように利用されているか説明できる。
講義方法	主に板書により説明する。必要に応じてプリントを配布する。
準備学習	日頃から新聞の科学欄に興味を持って読み、不明な事柄はインターネットなどを駆使して調べるようにしましょう。
成績評価	基本的には期末試験の結果によって評価するが、レポートの提出の有無、内容についても加味する。
講義構成	第1回 講義の説明 第2回 放射線とは 第3回 原子および原子核、核変換 第4回 天然放射能と人工放射能 第5回 放射線の単位 第6回 放射線の性質 第6回 放射線と物質の相互作用 第7回 核分裂 第8回 原子炉のしくみ 第9回 原子力発電のしくみ 第10回 放射線の考古学への利用 第11回 放射線の医療への利用 第12回 放射線の農業への利用 第13回 放射線の工業への利用 第14回 放射線の化学への利用 第15回 まとめおよび試験
教科書	特に用いない。
参考書・資料	「やさしい放射線とアイソトープ」(3版)日本アイソトープ協会(丸善、2001年) 「原子力発電のはなし」村主 進 著 (日刊工業新聞社、1997年)
講義関連事項	高校で習った化学の知識があれば望ましい。高校で化学を履修していなくても、詳しく説明するので興味を持って授業に出てもらいたい。
担当者から一言	文科系の学生にもわかりやすく講義するつもりであるので、積極的に授業に参加してもらいたい。

授業コード	A3350		
授業科目名	現代生活と最先端科学(後)		
担当者名	遠藤玉樹(エンドウ タマキ)、長門石 暁(ナガトイシ サトル)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	現代生活は科学技術の進歩によって大きく変化しており、文系・理系の学生を問わず、最先端科学の動向を知ることが現代の社会生活を理解するのに不可欠である。本講義は、現代生活に関係する最先端の科学的技術背景を理解するのに必要な基礎事項から説明を行う。
到達目標	現代生活に関係する最先端の技術とその問題点を科学の視点から理解することを目的とする。
講義方法	プロジェクターによる映写・板書による。
準備学習	特筆すべき準備学習はなし。
成績評価	期末試験の結果で評価する。
講義構成	1. 体の成り立ち(細胞と遺伝子)(遠藤) 2. 病気の解明とその治療1(細胞増殖と癌)(遠藤) 3. 病気の解明とその治療2(ウイルス感染と疾患)(遠藤) 4. 病気の解明とその治療3(免疫とアレルギー)(遠藤) 5. 遺伝子解読とタンパク質工学(遠藤) 6. 光とバイオテクノロジー(遠藤) 7. 生命進化と分子進化(遠藤) 8. 遺伝子組み換え食品の科学1(長門石) 9. 遺伝子組み換え食品の科学2(長門石) 10. 狂牛病の科学1(長門石)

	11, 狂牛病の科学2(長門石) 12, 医療における最先端科学(長門石) 13, 情報の最先端科学1(長門石) 14, 情報の最先端科学2(長門石)
教科書	なし
参考書・資料	随時紹介する。

授業コード	A3340		
授業科目名	現代生活と数理科学 (前)		
担当者名	馬場則夫(ババ ノリオ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	近年における科学技術の発展は目覚しく、それに伴って我々人間社会は複雑化・多様化の一途をたどってきた。そうした時代の流れと共に、職種や立場の異なる人間同士のコミュニケーションはますます困難な状況が生じてきている。しかしながら、我々人間社会の周囲には、お互いが協力して早急に解決しなければ取り返しがつかなくなるような重要問題(例えば、酸性雨問題、温室効果等々)が山積している。それ故、職種や立場が異なり考え方が全く違うような人間同士のコミュニケーションを円滑に行い、その上で直面する重要問題の解決策を見出してゆくことが大切になってくる。ゲーミングは、こうした要求にこたえ得る唯一ともいべき手法である。本講義では、ゲーミングの歴史から最近のコンピュータ技術や知能化技術を活用したゲーミングシステムに渡って話す。更に、数理科学の重要な学問分野である自動制御、数理計画法、信頼性工学、並びに知能化技術の基礎について、簡単に触れる。
到達目標	ゲーミングの有用性、ゲーミングとゲーム理論の関係、システムの信頼性を高めるための工夫等、現代人間社会において特に重要な問題の基礎知識を深めることを目標とあする。
講義方法	講義は、OHP、プロジェクター、黒板を使って行なう。 又、ゲーミングの理解を深めるため、何回かゲームプレーイングの実体験を行なっていただく。
準備学習	特に準備学習はいらない。出来るだけ講義に出席し、真剣な態度で聴講すると共に、講義の後半でしばしば行われるゲーミングにも積極的に参加し、抗議で行った内容の理解を深めてもらいたいと思っている。
成績評価	期末試験の成績並びに出席日数による総合評価。授業時間中にゲームプレーイングを何度か行なうので、その際の理解度やかかわり方も参考資料とする。
講義構成	第1回: ゲーミングとは 第2回: 今までに作られた様々なゲーム 第3回: パソコンを活用した様々なゲーミングシステム 第4回: ゲーム理論の紹介1 - 2人零和ゲームを中心として 第5回: ゲーム理論の紹介2 - 協力n人ゲームを中心として 第6回: スウェーデンゲームの実体験 第7回: 英単語並べ合わせゲーム(SCRABBLE GAME)の実体験 第8回: パソコンを活用したSCRABBLE GAME並びに環境ゲームの実体験 第9回: パソコンを活用したモンスゲーム並びにモノポリーゲーム等の実体験 第10回: 現代生活を豊かにしている様々な知能化技術その1 第11回: 現代生活を豊かにしている様々な知能化技術その2 第12回: ゲーミングに知能化技術を活用することによってゲームプレーイングを更に興味深いものとする新たな試み 第13回: 信頼性工学、システム工学、並びに、数理計画法の基礎 第14回: これまでの講義のまとめ 第15回: 試験
教科書	馬場他、コンピュータ情報処理の基礎と応用、共立出版
参考書・資料	1) 授業は、ゲーミング並びにゲーム理論を中心として行なう。(約12回) 教科書は、次のものを使用する。 馬場他、コンピュータ情報処理の基礎と応用、共立出版、2010。 2) ニューラルネットや信頼性工学に関しては、必要に応じて資料を授業中に配る。(2～3回)
講義関連事項	本科目は、社会科学とも関連の深いゲーミングについて、十分時間をかけて講義すると共に、数理科学の基礎

	を紹介することを目的としている。
担当者から一言	講義の進行に関して: 上で示した講義構成案に従って行なうが、都合により、順序を若干変更することがある。(出来るだけ多くの学生諸君にゲームプレーイングに参加していただくため、第6回～第9回の授業においては、様々なゲームを同時に行うことも視野に入れている。)

授業コード	A3330		
授業科目名	現代生活と生物学(後)		
担当者名	清水 勇(シミズ イサム)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	毎日、新聞やマスコミで話題になっている地球環境問題、生物多様性の危機、遺伝子組み換え、万能細胞、臓器移植などについては、それに関する生物学的知識や判断が、今後、社会人として要求されるようになる。さらに、我々自身の身体の仕組みや働きを知っておく事は、健康な暮らしを送るために必要なことである。本講義では、これらのトピックスや話題について、生物学の立場から分かりやすく概論していく。
到達目標	理系文系を問わず今後、市民として常識的で必要な生物学的知識を得る。
講義方法	パワーポイントを使用し、そのプリントコピーをそのつど配布する。
準備学習	新聞や雑誌に載った環境・自然・生物を取り扱った記事に日頃、よく眼を通しておく。
成績評価	講義の出欠状況と期末試験の結果から総合的に判断する。
講義構成	01 講義ガイダンス 02 地球温暖化と生物の行方 03 生物多様性問題について 04 環境ホルモンとは何か？ 05 鳥インフルエンザウイルスと感染爆発 06 HIVと後天性免疫不全症候群 07 ホルモンとホメオスタシス 08 遺伝と遺伝子 09 分子生物学の驚異的發展 10 遺伝子組み換えと食品 11 万能細胞と臓器移植について 12 癌のメカニズムと予防 13 老化のメカニズム 14 現代生活での精神衛生 15 期末試験
教科書	とくに使用しない
参考書・資料	講義時に随時紹介し参考資料はそのつど配付する
講義関連事項	ときどきミニテストを実施する。

授業コード	A3310		
授業科目名	現代生活と物理学(前)		
担当者名	川手剛雄(カワテ ヨシオ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	パソコン、インターネット、携帯電話、自動車、飛行機など、現代では高度技術、先端技術の成果に取り囲まれて生活を営んでいます。しかし、私達は、利用しているそれらの技術の原理や仕組みに対する理解は十分といえないようです。 この講義では、広範な物理学の中から、身の回りで見られる自然現象、特に音、電波、光など波動に関する物
-------	--

	理現象が私達の生活にどのように関わっているのかを考え、理解を深めることを目的とします。
到達目標	現代生活で活用している音、電波、光を応用した機器の原理を学び、物理学の大きな要素である「波動現象」の基礎を理解する。
講義方法	講義はプロジェクターを中心に用い、補助的に板書も用います。 また、講義出席者には講義毎に「授業プリント」を配布します。
準備学習	授業毎に配布する「授業プリント」の復習を十分に行うこと。
成績評価	期末試験の成績だけではなく、特に出席状況も重視します。 また、講義中に行う演習、レポートなども考慮して総合的に評価します。 標準的には 期末試験成績+演習、レポート(60%)、出席評価(40%) で評価します。 なお、期末試験を欠席した場合や演習問題、レポートを提出せず著しく欠席が多くて履修を放棄したと見なす場合には「欠席」と評価します。
講義構成	1回目 現代社会と波動の関わり 2回目 波動と音波の基礎 3回目 高機能な音波－超音波の特徴と発生 4回目 超音波の応用 5回目 電磁波とは？ 6回目 電波の種類 7回目 日常生活での電波の活用1(放送、通信) 8回目 日常生活での電波の活用2(カーナビ、電子レンジなど) 9回目 アナログからデジタルへ(コンピュータ社会の必須) 10回目 デジタル通信(携帯電話はどうして繋がる？) 11回目 光とは？(光の性質) 12回目 蛍光灯、発光ダイオードはなぜ光る？ 13回目 レーザーとは何か？ その応用は？ 14回目 光は波動か、粒子か？ 15回目 期末試験
教科書	特定の教科書は使用しません。講義内容の「授業プリント」を講義出席者に講義毎に配布します。

授業コード	A3150		
授業科目名	現代政治論(後)		
担当者名	飯田文雄(イイダ フミオ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	この講義は、現代政治理論・社会理論の領域で、1970年代以降今日に至るまで、アメリカの政治哲学者ジョン・ロールズを中心に活発に展開される、自由と正義に関する諸論争の内容を手がかりとして、現代政治を分析するための理論的視角を養うことを目的とする。具体的に問題にも可能な限りふれるが、あくまでもそれらを理論的に理解することが目標である。
到達目標	①政治学の基本的文献について、授業での説明を手がかりに一定程度理解することが出来ること。 ②それらを応用しながら現実の政策や政治の変化について関心を持って文献・新聞等を読めること。
講義方法	大教室での講義形式で授業を進める。質問は適宜授業に受け付ける。
準備学習	政治学あるいは社会科学関係の授業を事前に受講しておけば授業の理解はより効率的である。
成績評価	期末試験の成績による予定だが、受講人数により、出席点等も考慮する場合がある。こうした成績評価の具体的な基準等、授業の進め方に関する重要事項を、初回の授業において長い時間を使い伝達する。この説明は大変重要だが複雑であり、間違い等を防ぐため、後日再度繰り返すことはどのような理由があっても不可能であるので、受講希望者は必ず出席のこと。
講義構成	1)本講義の目的 2)正義論の歴史的・理論的前提 3)批判対象としての功利主義 4)正義の原理(1):その基本構造 5)正義の原理(2):原初状態からの推論 6)70年代の批判(1):功利主義 7)70年代の批判(2):ロバート・ノジック

	8)80年代の批判:共同体論 9)90年代の批判:多文化主義 10)90年代の批判:フェミニズム 11)ロールズ理論の新展開 12)まとめ 以上各項目を各々1-2時間程度で講義する予定である。
教科書	教科書:川崎修・杉田敦編『現代政治理論』(有斐閣、2006年) 川本隆史『ロールズ:正義の原理』(講談社、1997年)
参考書・資料	参考書:井上達夫『共生の作法:会話としての正義』(創文社、1986年)、渡辺幹雄『ロールズ正義論の行方:その全体系の批判的考察(増補新装版)』(春秋社 2000年)他。 また文献リスト等の資料を必要に応じて配付する予定である。
担当者から一言	授業の進め方に関する重要事項等、注意事項をよく守って履修して下さい。

授業コード	A3260		
授業科目名	現代都市論(後)		
担当者名	速水奈名子(ハヤミ ナナコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	講義題目:現代都市と身体 本講義においては、まず、都市社会学の系譜を概観することを通じて、都市を社会的に分析する諸観点を確認する。次に、それらを踏まえつつ、現代社会における都市のあり方、またそれを通じて形成される自己のあり方を検討していく。ここでは特に、現代都市と身体とのかかわりについて考察を深める。身体とは欲望の場であると同時に、規律の対象でもある。都市に投企されたこの身体という存在に注目することで、現代社会における秩序、欲望の形式、そして自己形成のメカニズムを解明していく。
到達目標	本講義の内容は、1. 都市の捉え方が時代とともにいかに変容してきたのか分析すること、2. 都市生活と自己形成の関係性を分析すること、3. 身体社会学の観点から都市を分析することにあるが、ここではこれら3つの分析観点を融合させ、「現代都市」の特徴を明確にすることが目指される。
講義方法	各テーマに沿って講義を行う。イメージを提示するために、DVDやプロジェクターを使用する場合もある。
準備学習	以下で指示した参考書・資料を、授業前に前もって確認すること(授業ごとに、次の授業で扱うテーマに適した参考書を提示する)。
成績評価	出席と小テスト(40%)と定期試験(60%)を通じて評価する。
講義構成	1.イントロダクション 2.都市と社会学:社会学的分析観点 3.都市社会学の古典I:まなざしの都市社会学 4.都市社会学の古典II:構造の都市社会学 5.近代からポスト近代へ:時間・空間の移行 6.都市・自己・身体 7.ドラマトウルギカル・アプローチ 8.公共の場における身体統制I:礼儀作法・マナー・エチケット 9.公共の場における身体統制II:ファッション 10.コミュニケーション形式の変容:対面からメディアへ 11.相互行為儀礼の変容 12.現代社会をよむ:オタクが創る街「秋葉原」 13.現代社会をよむ:ショッピングと癒しの街「銀座・六本木・表参道」 14.まとめ
教科書	授業では毎回、配布資料をこちらで準備する。
参考書・資料	バウマン、Z.『リキッド・モダニティ』(2000). ベンヤミン、W.『パサーージュ論』(1983). ゴッフマン、E.『行為と演技』(1959),『スティグマ』(1963), 『集まりの構造』(1963),『儀礼としての相互行為』(1967),『フレームアナリシス』(1974). 倉沢進・町村敬志編『都市社会学のフロンティア』(1992). 町村敬志・西澤晃彦編『都市の社会学』(2000).

	中野正大・宝月誠編、『シカゴ学派の社会学』(2003). NTT出版株式会社、『インターコミュニケーション』(1992ー). 大野道邦・油井清光・竹中克久編、『身体の社会学』(2005). 吉見俊哉、『都市のドラマトウルギー』(1987).
--	---

担当者から一言	授業を通じて、自らが都市とどのように関わっているのか、考えてもらえればと思います。質問がある人は、授業の後で受け付けます。
---------	---

授業コード	A3140		
授業科目名	現代の経済 (前)		
担当者名	杉村芳美(スギムラ ヨシミ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	授業時間のあと		

講義の内容	みなさんのほとんどが生まれたのは平成のはじめ、1990年代のはじめ頃ですが、この講義ではそのみなさんが生まれ生きてきた時代の日本そして世界の経済の出来事を取り上げます。すなわち、みなさんにとっての「現代」「同時代」の経済について考えます。この期間は、実は世界そして日本の経済が大きく変化を遂げた時代です。どんな出来事があり、どんな変化があって今日のような経済状況が生じるようになったのか、考えていきたいと思います。
到達目標	自分たちの生きてきた時代、生きている世界の経済について、しっかりした像を描くことができるようになること。
講義方法	プリント、板書を中心に、パワーポイントなども用いた講義
準備学習	授業ごとに指示する作業を行ってください
成績評価	学期末試験の得点による
講義構成	1 私たちの時代 2 東西冷戦の終結 3 グローバル化の始動 4 IT革命 5 中国とロシアの登場 6 バブルの崩壊 7 不良債権 8 借金財政 9 構造改革 10 グローバル競争へ 11 終身雇用制の崩壊 12 グローバルマネー 13 時代の課題 14 まとめ 15 試験
教科書	特定のものを使用しない。

担当者から一言	自分の生きている世界、生きてきた時代に関心をもとう
---------	---------------------------

授業コード	A3250		
授業科目名	現代の芸術 (前)		
担当者名	小林留美(コバヤシ ルミ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	“人間”の姿はおそらく、“芸術”にとって永遠のテーマ・モチーフのひとつでしょう。
-------	--

	それは、19世紀半ばまでにヨーロッパで発明されたとされる“写真”にとっても同じであり、1840年代には既に多くの肖像写真館が開設していました。今年度の本講義では、その、写真をメディアとして写し取られ、表現されてきた“人間”の姿を、撮る者と撮られる者との関係性を一つのポイントにしなが、20世紀後半から現在にかけての、何人かの写真家・美術家の活動や作品を通して見ていきたいと思ひます。
到達目標	日常的に最も身近でありながら、それ故に普段省みられることの少ない、写真表現の現代における芸術としての魅力の一端を知ることができるようになるでしょう。
講義方法	ビデオ・DVDや図版をできるだけ使い、具体的な作品を見ながら、講義を進め、随時コメントを提出してもらいます。
準備学習	写真に限らなくとも、視覚的な芸術表現に関心がある、あるいは人間の外見のイメージに興味があることが望ましいでしょう。
成績評価	期末のレポートに、授業中随時提出してもらったコメントを加味して評価します。
講義構成	取り上げる予定の写真家・美術家は次の通りです。 一人につき講義2回分を予定しています。 ただし、授業の進行具合により、変更があるかもしれません。 リチャード・アヴェドン、ロバート・メイプルソープ、アンディ・ウォーホル、荒木経惟、石内都、森村泰昌、やなぎみわなど
教科書	使用しません。
参考書・資料	随時資料を配付します。
担当者から一言	単位取得希望者は、できれば最初の授業に出席し、必ず期末のレポートを提出して下さい。

授業コード	A3230		
授業科目名	現代の文学(前)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	現代の文学作品を映画などと比較しながらその特徴を考え、広く現代という時代について理解を深めたいと思ひます。
到達目標	上の内容について、一定の理解を持つこと。
講義方法	ビデオや作品の一部などを使いながら、作品の特徴や担当者が現代の文学の傾向だと思ひものについて説明していきます。
準備学習	課題作品があるときは、それに目を通す。
成績評価	レポートによって評価する。出席は参考にする程度。授業中に私語・内職等こちらの思考を妨害する行為を行った場合は、大きなマイナス評価がつくので注意してください。
講義構成	以下のようなテーマで話す予定ですが、内容や順序は一部変わることがあります。 1.イントロダクション 2.ロマン主義と狂気 3.エドガー・アラン・ポーとゴシック 4.シュルレアリスムと内的対象 5.安部公房の『砂の女』 6.脱出の文学、さらには現代漫画の閉塞感について 7.妄想分裂的なイメージの意味 8.宮部みゆき作品の特徴 9.スティーブン・キング、デビッド・リンチなど 10.家族もの 重松清など 11.村上春樹作品の特徴 12.その他
教科書	特になし

授業コード	A4340		
授業科目名	国際化と情報ネットワーク(後)		
担当者名	喜田昌樹(キダ マサキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	本講義では、人工知能および認知科学の応用であるナレッジマネジメントやその手法の一つであるデータマイニングの基本的な知識と実例(=利用法)を習得する。ナレッジマネジメントとは、企業が競争優位を確立するために企業内の知識を管理することである。データマイニングとは、企業内に蓄積されたデータよりビジネス上の仮説を発見する方法である。このような手法は現在多くの企業で導入されており、国際的な企業(デル、アマゾン等)においてもその動向は同じである。そこで、本講義では、企業での実例とともにその利用法を説明する。
到達目標	国際化と情報化の最も影響を受けているビジネスに対しての視野を開く。 また、経営戦略の基礎を学ぶ。
講義方法	講義形式
準備学習	参考文献や講義配布資料を読む。
成績評価	期末の最終レポートによって評価する。 出席点はありません。
講義構成	1)ガイダンス 2)イントロダクション 3)情報化による市場環境と企業の変化 4),5)ナレッジマネジメントの基礎 6)データマイニングの活用領域(顧客関係管理について) 7)マイニングの基礎1(データマイニングの流れ) 8)マイニングの基礎2(モデルの概論) 9)ニューロンを用いた事例1;ニューラルネットワークの概論 10)ニューロンを用いた事例2:不良債権の予測 11)決定木を用いた事例1;決定木の概論 12)決定木を用いた事例2;途中解約者の予測 13)アソシエーションの事例1;アソシエーションの概論 14)アソシエーションの事例2;マーケット・バスケット分析 15)アソシエーションの事例3;レコメンドシステムの構築
教科書	9月ごろに指示する。
参考書・資料	クリス・アンダーソン『ロングテール:「売れない商品」を宝の山に帰る新戦略』早川書房 ジグムント・バウマン『リキッド・モダニティ:液状化する社会』大月書店 喜田昌樹(2008)『テキストマイニング入門:経営研究での活用法』白桃書房 喜田昌樹(2007)『組織革新の認知的研究:認知変化・知識の可視化と組織科学へのテキストマイニングの導入』白桃書房 配布資料については、本ページからダウンロードすることになります。

URL	http://www.spss.co.jp/product/clementine/cle.html
-----	---

授業コード	A4250		
授業科目名	国際関係論(前)		
担当者名	簗原俊洋(ミノハラ トシヒロ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	毎週、講義終了直後。		

講義の内容	日米安保改定から50周年に当たる今年、普天間基地問題をめぐって日米関係が揺らいでいる。同盟の礎は堅固であるものの、両国関係の将来に少なからず不安が広がっているのである。このように、「中国の世紀」となる様相を示している時代においても、未だなお日米関係は日本外交の要であり、安全保障のみならず、外交・経済の領域においても最も重要なパートナーシップとして存在する。 以上を踏まえ、本講義では、国際政治史の文脈から戦前・戦後の日米関係を総合的に考察することを主目的とする。そのため、まず日本外交、次いでアメリカ外交に対する基本的な理解を習得し養い、最終的には両国の二国間関係に関する知識を深めることを狙う。こうした「過去」の日米関係に関する知見をもとに、受講者には現在そして将来の日米関係について考えてもらい、日本外交の進むべき道を共に検討する。
到達目標	本講義の履修者は、日米関係に関する総合的・包括的知識を習得することができる。 くわえて、多面的・重層的に日米関係を捉えることにより、両国間の歴史のダイナミクスを理解することが可能となる。
講義方法	想定しているのは、通常の大講義形式。ただし、パワポ、DVD、ビデオ等のAVを講義の中に適宜織り交ぜる。
準備学習	毎回、講義に臨む前に指定されたリーディングをこなしてください。
成績評価	出席を含む平常点、小テスト、そして期末試験を総合的に評価する。
講義構成	・第1回：はじめに(講義に関する全体説明＝出席必須！) ・第2～3回：ペリー来航と19世紀の日米関係 ・第4回：総括＋小テスト① ・第5～6回：日米台頭とワシントン体制の時代 ・第7回：総括＋小テスト② ・第8～11回：1930年代と「太平洋戦争」 ・第12回：総括＋小テスト③ ・第13～14回：終戦、復興、そして戦後世界での日米関係 ・第15：期末試験
教科書	五百旗頭真編著『日米関係史』(有斐閣、2008年)[第3刷、2009年]。
参考書・資料	適宜、紹介する。
担当者から一言	「理論」を扱う講義ではなく、「政治外交史」が中心となります。

授業コード	A4240		
授業科目名	国際経営(後)		
担当者名	藤沢武史(フジサワ タケシ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	海外事業を営む企業(＝多国籍企業)の中でもサービス産業に焦点を当てて、なぜ国際展開を図るのか、またどういった参入方式を取るのがベストなのか、などを明らかにするのが、本講義の目的である。サービス業界ならではの特性や日本企業の国際競争力によって、海外進出など国際展開の方向性やその進捗度に、製造業と比較して違いがあることにふれるとともに、サービス業界内でも業種によってそれらが異なることを毎回力説する。具体的な企業をケースに取り挙げて、国際展開の決定因が何であるかを明示する。受講されれば、サービス産業企業の国際ビジネスモデルを理解することが可能になる。
到達目標	事前に講義で扱うテキストの章を自宅などで読み(予習)、授業を受けてから、どの程度テキストの内容への正しい理解が深まったか、を把握し、それを「授業効果」というように判断されたい。受講後の理解の進捗度こそが履修することの意義であり、その意義が「学習到達目標」に一致すると考えていただきたい。
講義方法	毎回授業開始前に、テキストの各章の内容をまとめた概要資料を配布し、テキストに沿って平易に口述する。
準備学習	次回の授業で扱う関係章を事前に読むことが準備学習に欠かせない。
成績評価	定期試験結果80%＋レポート成果20%
講義構成	1) サービス企業の国際化 2) 小売サービスの国際展開 3) 外航海運業における船舶管理と船員戦略 4) 航空輸送サービスの国際展開 5) 総合商社の国際展開 6) プロフェッショナル・サービスの国際展開

	7)コンサルティング・サービスの国際展開 8)高度専門的知識サービスの伝承と組織哲学 9)ソフト開発企業の国際化の分析フレームと理論 10)語学ビジネスの国際展開 11)コンテンツ・ビジネスの国際展開; ディズニーとポケモンの比較
教科書	江夏健一・大藤和武司・藤澤武史編著『サービス産業の国際展開』中央経済社、2008年。
参考書・資料	授業中に適宜、参考文献を紹介したい。
講義関連事項	経営の発想ができるような講義も併せて受講されると理解が深まるであろう。
担当者から一言	国際化路線を歩んでいるようなサービス産業企業に就職を希望される方には本講義が役立つであろう。企業経営の国際化に関心を持てるよう、平素から日経新聞の企業経営・経済欄に目を通しておくことを勧めたい。

授業コード	A4210		
授業科目名	国際経済(前)		
担当者名	金 俊行(キム ジュネン)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	グローバル資本主義の現状と課題を考えます。グローバリゼーションというのは地球規模での国際分業を意味しますが、それは多様な資本主義の相互依存関係発展の結果です。しかしグローバリゼーションは1990年代に驚異的な加速を経験し、私たちの暮らしに様々な問題を提起しています。まずは戦後世界経済の変遷を解説します。そして東西冷戦崩壊以降「米国型システムの普遍化」(担当教員はこれをグローバリズムと呼んでいます)という圧力が強まりますが、これがさうとう怪しいという考え方を紹介します。私たちの所得や貯蓄が国際経済の変化と密接に関連しているという実感と、それを表現するための方法を少し身につけましょう。
到達目標	①戦後世界経済の変遷をながれとして理解します。 ②戦後世界経済におけるエポックな出来事(ニクソンショック、オイルショック、プラザ合意など)の意味を簡単に説明できるようになりましょう。 ③自由化(構造改革、規制緩和)、貿易摩擦、証券化(資産効果)などの意味を考えた経験を表現できるようになりましょう。
講義方法	授業プリントを中心に、板書で補います。
準備学習	広域副専攻科目ということですからいろいろな学部の学生が受講するでしょうから履修条件はもちろん、準備学習のまったくない学生を対象にしているという意識で講義します。
成績評価	出席点を50%、期末試験を50%の割合で評価します。 出席点というのは、毎回配付されるコミュニケーションペーパーに、今回理解できたこと、質問、講義を受けて考えたことを記入したものの枚数と内容です。
講義構成	1. 資本主義は初めから世界システムです。 2. 世界経済の分裂が第二次世界大戦の反省です。 3. 戦後世界経済は米国経済の圧倒的な力で再建されました。 4. 1960年代の高度成長は米国経済の地位を低下させました。 5. 変動相場制とオイルショックは世界経済を混乱させます。 6. 1980年代前半はドル高・高金利がポイントです。 7. 1980年代後半は円高・低金利がポイントです。 8. 東西冷戦崩壊とともに米国は唯一の超大国になりました。 9. NY株価の高騰は世界に構造改革を要求します。 10. 東アジアは世界の成長センターでした。 11. 東アジア通貨危機の背景は何だったのでしょうか。 12. 実は米国は世界中から借金をしています。 13. 米国型システムは特殊でありスタンダードではありません。 14. 2008年金融危機の背景と課題を考えます。
教科書	使いません。
参考書・資料	読んで欲しい関連文献は授業中に紹介します。
講義関連事項	経済学についての知識がほとんど無い受講生を対象にします。国際経済に関する基本的な理論も必要に応じて解説します。

担当者から一言	静かで集中しやすい教室環境に協力してください。
---------	-------------------------

授業コード	A4330		
授業科目名	国際社会における現代生物学 (前)		
担当者名	道之前允直(ミチノマエ マサナオ)、園部治之(ソノベ ハルユキ)、田中 修(タナカ オサム)、石黒順平(イシグロ ジュンペイ)、今井博之(イマイ ヒロユキ)、本多大輔(ホンダ ダイスケ)、渡辺洋平(ワタナベ ヨウヘイ)、向 正則(ムカイ マサノリ)、日下部岳広(クサカベ タケヒロ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	近年の生物学では、分子生物学の進歩によって遺伝子の理解が進み、遺伝子操作や胚操作が可能になり、形づくりのメカニズムや進化までもが遺伝子で説明できるようになってきた。それらは、遺伝子治療や遺伝子組換え食物として我々の生活に直接関わっており、ゲノム情報、生命倫理などの問題点も浮かび上がってきている。また地球環境の保全、生物の種の保存、生物資源の開発など、地球規模での生物学上の問題が国際問題と深く関わっている。さらに、宇宙ステーションでの生命維持や食物生産など、宇宙規模での生物学の必要性も生じてきた。このように、あらゆるレベルで現代生活と密接に結びついた生物学の概要を把握してもらうことを目的としている。我々をとりかこむ様々な事例を具体的に解りやすく解説していくことで、現代国際社会における最新の生物学の実像を浮き彫りにしていく。
到達目標	現代の国際社会における最新の生物学の実像を理解すること。
講義方法	複数の担当者が変わるリレー方式
準備学習	復習に力を入れること
成績評価	期末試験を行う。試験は、各担当教官がそれぞれの講義内容に沿った問題を出題し、その中から複数題を選択して解答する形式で行う。
講義構成	第1回(4月9日)世界の食糧生産と植物のバイオテクノロジー 担当者(田 中) 第2回(4月16日)国際大会とドーピング 担当者(園 部) 第3回(4月23日)エイズとは？理解と対策 担当者(石 黒) 第4回(4月30日)発生学と遺伝子操作 担当者(日下部) 第5回(5月7日)地球環境問題と植物科学 担当者(今 井) 第6回(5月14日)地球環境問題と植物科学 担当者(今 井) 第7回(5月21日)ヒトの起源を求めて 担当者(本 多) 第8回(5月28日)深海の生物から地球外生命体を考える 担当者(本 多) 第9回(6月4日)BSE(いわゆる狂牛病)について 担当者(道之前) 第10回(6月11日)BSE(いわゆる狂牛病)について 担当者(道之前) 第11回(6月18日)現代社会における生化学の役割 担当者(渡 辺) 第12回(6月25日)現代社会における生化学の役割 担当者(渡 辺) 第13回(7月2日)私たちの暮らしと遺伝 担当者(向) 第14回(7月9日)生殖細胞研究から分かること 担当者(向) 第15回 試験期間
教科書	使用しない。
参考書・資料	講義時に紹介する。

授業コード	A4350		
授業科目名	国際社会における最先端科学 (前)		
担当者名	長門石 暁(ナガトイシ サトル)、遠藤玉樹(エンドウ タマキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	国際化が進む現代社会において最先端科学が果たす役割は非常に大きい。近年の地球規模での問題解決に
-------	---

	は最先端科学が必要不可欠である。また、どのような産業分野においても、最先端科学の素養なしには、市場や経済の動向を理解し、予測することは難しい。本講義では多岐にわたる最先端科学の中から、ナノバイオテクノロジーに焦点を当て、それらが現代の国際化社会において果たす役割について理解することを目的とする。こうした最先端科学の研究開発は、国際的な共同作業と競争の中で発展しており、国内や諸外国における科学動向なども紹介しながら、最先端科学について考えていく。
到達目標	国際的に研究がなされている最先端科学を理解し、最先端の研究開発の動向に関する知識を身につける。
講義方法	プロジェクターによる映写・板書による。
準備学習	特筆すべき準備学習はなし。
成績評価	期末試験の結果で評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. ナノテクノロジーとは(長門石) 2. 身近にあるナノバイオテクノロジー(長門石) 3. 遺伝子のテクノロジー(1)(長門石) 4. 遺伝子のテクノロジー(2)(長門石) 5. タンパク質を創る(1)(長門石) 6. タンパク質を創る(2)(長門石) 7. 薬をデザインする(長門石) 8. 遺伝子、タンパク質、細胞の関連性(遠藤) 9. 遺伝子を読み解く(遠藤) 10. タンパク質を利用する(遠藤) 11. 細胞を操る(再生医療と万能細胞)(遠藤) 12. ウイルスを利用する(遠藤) 13. ポストゲノムプロジェクト(遠藤) 14. 国際社会における最先端バイオテクノロジー(遠藤)
教科書	なし
参考書・資料	随時紹介する。

授業コード	A4220		
授業科目名	国際社会の法(前)		
担当者名	大塚泰寿(オオツカ ヤスヒサ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	世界の国々は、政治、経済、文化などの諸活動を通じて、密接なつながりをもっている。また近年においては、個人や企業、団体などが、国境を越えて様々な関係を結んでいる。これら国際社会における活動は、恣意的になされるのではなく、一定のルールによって規律されている。本講においては、日本をめぐる具体的な国際的問題を取り扱うことで、国際社会の基本的なルールについて学ぶことを目的とする。
到達目標	講義及びその要点が十分に理解できるようになること。
講義方法	レジュメ・板書を中心に講義を進める。
準備学習	特に予習は求めないが、緊張感を持って講義に臨んでいただきたい。
成績評価	定期試験(100%)による。
講義構成	<p>以下の内容について講義を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際社会を規律する法とは何か 2. 国際社会への参加～明治時代から戦後まで 3. 日本の領土問題～北方領土・竹島・尖閣諸島 4. 日本の海～日韓排他的経済水域交渉・不審船問題 5. 日本と国際約束～条約をめぐる諸問題 6. 国家主権と外交関係に関する法～在瀋陽総領事館事件・北朝鮮による日本人拉致問題 7. 国際連合と日本 8. 国際社会による安全保障制度と日本 9. 日本と国際裁判～みなみまぐろ事件 10. 国際刑事協力～犯罪人引渡・国際刑事裁判所と日本 11. 日本と国際環境保護～京都議定書と日本

	12. 国籍に関する法～国籍単一原則と重国籍 13. 日本における外国人の地位と難民問題 14. 国際人権保障制度と日本
教科書	なし。
参考書・資料	資料は適宜配布する。
その他	講義中の私語や携帯電話使用などは厳禁である。

授業コード	A4230		
授業科目名	国際政治（後）		
担当者名	池田佳隆（イケダ ヨシタカ）		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	一般常識としての国際情勢や時事問題に対する理解を深めることを目的とする。		
到達目標	時事問題に注目する習慣を身につける。		
講義方法	通常の講義形式による。		
準備学習	講義のトピックスに関する最新の情報を検索し、理解しておく。		
成績評価	期末試験による。		
講義構成	1世界の中の日本 2資源問題 3宗教と国際政治 4領土紛争 5ミサイル防衛 6日本の宇宙政策 7二大政党制 これらに加えて、時事問題に関する解説を加える予定である。		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	講義中に紹介する。		
担当者から一言	新聞・テレビ・インターネットなどを通してふだんから世の中のニュースに興味を持つようにしておいてください。		

授業コード	A7260		
授業科目名	心の健康科学（前）		
担当者名	高石恭子（タカイシ キョウコ）		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	講義後、教室または学生相談室にて質問等受け付ける。		

講義の内容	現代は「心」の時代と言われるが、児童虐待、青少年の暴力、中高年者の自殺など、昨今のわが国では人々が心のゆとりを失った結果としての暗い事件が後を断たない。そもそも「心」とはどのような構造をもつか、心を健康に保ち、育てていくためにはどのようなことが必要かという問題について、主として臨床心理学の観点から探っていく。また、現代人が抱えやすい心の病や障害について、その発生のメカニズムや、症状、治療法等を学んでいきたい。		
到達目標	臨床心理学の知識の枠組みを用いて人の心を捉え、客観的理解をもてるようになる。 本科目は同コースの「自己の探求」を受講するにあたって必要な基本的知識を学ぶという目的も併せもっている。		
講義方法	板書、パワーポイント等を用いた講義形式であるが、受講者の規模によって、可能な範囲でときどき実習も取り入れながら進める。		
準備学習	講義の中で紹介する臨床心理学やメンタルヘルスに関する基本的文献を読む。		

成績評価	期末試験(持ち込みなし)に、講義中に提出した小レポートを加味して行う。
講義構成	第1回 はじめに 第2回 心の健康観の歴史 (1)古代～中世 第3回 " (2)近代以降 第4回 臨床心理学からみた心の健康 (1)心の構造 第5回 " (2)防衛機制 第6回 " (3)パーソナリティの発達と心の健康 第7回 五感と心の健康 (1)五感のもたらす情報と心理学的な意味 第8回 " (2)五感のトレーニング(感覚の体験実習) 第9回 " (3)触覚・嗅覚と心の健康 第10回 心の病と障害 (1)乳幼児期～児童期に表れやすい心の病と障害 第11回 " (2)思春期・青年期以降に表れやすい心の病と障害 第12回 " (3)現代社会と心の病 第13回 カウンセリング・心理療法 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	参考書:『ヒルガードの心理学』アキンソン他／内田一成監訳(ブレーン出版) 資料:その都度配布する。

担当者から一言	研究室よりも学生相談室(18号館1階西側)にいることが多いので、講義に直接関連のあるなしにかかわらず、何か話したいことのある人は火曜または木曜の午後、あるいは金曜の講義後、相談室の方へお越しください。
---------	--

授業コード	A5260		
授業科目名	ことばと社会(前)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)、中島信夫(ナカシマ ノブオ)、福島彰利(フクシマ アキトシ)、中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	各担当者のシラバスを見て下さい。		

講義の内容	日本語英語比較がテーマである。日本語と英語は何もかも違っているように見える。名前の書き方一つとっても、われわれは氏名の順で書くのに英語のスピーカーは反対である。住所の書き方も全く逆である。こうも違っていたら共通する部分など全くないような気がする。確かに違いは大きいのだが、それではその違いはどこに原因があるのか?その違いを誘発する原因が分かれば、案外共通する部分も見えてくるのではないだろうか?授業では各担当者が文法(構造)、発音、動詞の意味論、メタファーの側面から講義を行う。
到達目標	この授業では、文法、音声、意味の観点からことばの仕組みを学ぶ。言語表現を調べていくと、ことばは一定の決まりのもとで構成されていることに気付く。日本語・英語が異なっているが共通している部分がかかなりあります。言語が異なっても共通部分があるということは、子供はどんな言語でもたちまちのうちに習得してしまうという事実を考えてみると当然のことではないだろうか。半期という限られた時間ではありますが、人間の能力の可能性について考える手掛かりを得てもらいたい。
講義方法	各自が用意した資料をもとに三回ずつ講義する。
準備学習	全体の内容をよく理解するために前回の講義内容を把握すること。
成績評価	試験を2回行う(中間試験、前期試験期間中の期末試験)。それぞれを50%として、成績を評価する。なお、期末試験は中間試験後の講義のみが範囲となる。 ※欠席の扱い: 期末試験を受けなかった場合、成績は無条件で「欠席」とする。もし「欠席」の成績を付けて欲しい場合は期末試験を受けないこと。一方、期末試験を受けた場合、「欠席」はつかず、必ず「秀」から「不可」のいずれかの成績が付くこととする。 ※中間試験の日にやむを得ない正当な理由で試験が受けられない場合は、受けられない理由を証明する書類を持って、いずれかの担当教員に「事前に」申し出ること。事後の報告は一切受け付けない。
講義構成	第1回目(4/9) 担当者全員による授業の紹介

	<p>第2-4回目 (4/16-30) 「日本語と英語の構造の比較」(担当:有村) 日本語では「本を読む」というように動詞が目的語の後に生じるのに対して英語ではread a bookのように動詞は目的語の前に生じる。この当たり前の事実が日本語と英語の根本的な相違を生じめている。この相違をどこに求め、それが他の領域でどのような構造上の違いが見られるか解説する。</p> <p>第5-7回目 (5/7-21) 「日本人英語を英語らしくする」(担当:福島) 日本人が話す英語には訛りがあると指摘されることが多い。このことを音節、強勢、リズム、イントネーションといった観点から日本語と英語を比較し、より英語らしい発音をするにはどうすれば良いかを解説する。</p> <p>第8回目 (5/28) 中間試験</p> <p>第9-11回目 (6/4-18) 「日英語比較:動詞をめぐる意味論」(中谷) 話者の指向性に関わる表現である日本語のクル・イク、英語のcome/goといった動詞の意味論や、日本語の「驚く」や「ガッカリする」といった動詞が実は英語には存在しないという事実などを取り上げ、動詞をめぐる日英語がどのような共通した特性、異なった特性を持っているかを検証する。</p> <p>第12-14回目 (6/25-7/9) 「日本語と英語の時間メタファーの比較」(中島(信)) 抽象的概念を作ると様々なメタファーが用いられる。特に「時間」という概念を取り上げ、日本語と英語でどのようなメタファーを用いて時間を表すか比較検討を行うとともに、どういうプロセスを経て時間概念が作られるかを考察する。</p> <p>試験期間中に期末試験</p>
教科書	各自が用意した資料に基づいて授業を行う。
参考書・資料	授業時に適宜紹介する。
担当者から一言	文学部以外の学部学生の参加を期待しています。おそらく、これまで学んだ文法、発音、意味とは違った観点からの講義になりますが、皆さんの知的好奇心をかき立てることができればと思っています。

授業コード	A5311		
授業科目名	コミュニケーション論(1クラス)(前)		
担当者名	松川太一(マツカワ タイチ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	現代社会におけるコミュニケーションについて考えるための視点や方法を提示する。本講義では、人と人のつながり、すなわち「社会」について考察してきた社会学の視点や方法をとりあげる。その際、映像などのビジュアル教材も利用する。
到達目標	現代社会における複雑なコミュニケーションを理解・分析する力を受講生自身が身につける。
講義方法	講義を中心に、練習問題や小テストを組み合わせる。
準備学習	受講にあたり予備知識は前提としない。 ただし講義後は、次回以降の授業に備えて配布資料などを復習すること。
成績評価	定期試験(70%)、授業時の練習問題・小テスト(30%) ただし、受講者数によって成績評価方法を変更する可能性がある。
講義構成	<p>第1回 はじめに——講義全般について</p> <p>第2回 コミュニケーションと社会形成(1)</p> <p>第3回 コミュニケーションと社会形成(2)</p> <p>第4回 コミュニケーションと社会形成(3)</p> <p>第5回 近代化とコミュニケーション(1)</p> <p>第6回 近代化とコミュニケーション(2)</p> <p>第7回 近代化とコミュニケーション(3)</p> <p>第8回 新しいメディアとコミュニケーション(1)</p> <p>第9回 新しいメディアとコミュニケーション(2)</p> <p>第10回 新しいメディアとコミュニケーション(3)</p> <p>第11回 現代社会におけるコミュニケーションの諸問題(1)</p>

	第12回 現代社会におけるコミュニケーションの諸問題(2) 第13回 現代社会におけるコミュニケーションの諸問題(3) 第14回 まとめ・予備日 第15回 試験
教科書	特に指定しない。

授業コード	A5312		
授業科目名	コミュニケーション論(2クラス)(後)		
担当者名	松川太一(マツカワ タイチ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	現代社会におけるコミュニケーションについて考えるための視点や方法を提示する。本講義では、人と人のつながり、すなわち「社会」について考察してきた社会学の視点や方法を取りあげる。その際、映像などのビジュアル教材も利用する。		
到達目標	現代社会における複雑なコミュニケーションを理解・分析する力を受講生自身が身につける。		
講義方法	講義を中心に、練習問題や小テストを組み合わせる。		
準備学習	受講にあたり予備知識は前提としない。 ただし講義後は、次回以降の授業に備えて配布資料などを復習すること。		
成績評価	定期試験(70%)、授業時の練習問題・小テスト(30%) ただし、受講者数によって成績評価方法を変更する可能性がある。		
講義構成	第1回 はじめに——講義全般について 第2回 コミュニケーションと社会形成(1) 第3回 コミュニケーションと社会形成(2) 第4回 コミュニケーションと社会形成(3) 第5回 近代化とコミュニケーション(1) 第6回 近代化とコミュニケーション(2) 第7回 近代化とコミュニケーション(3) 第8回 新しいメディアとコミュニケーション(1) 第9回 新しいメディアとコミュニケーション(2) 第10回 新しいメディアとコミュニケーション(3) 第11回 現代社会におけるコミュニケーションの諸問題(1) 第12回 現代社会におけるコミュニケーションの諸問題(2) 第13回 現代社会におけるコミュニケーションの諸問題(3) 第14回 まとめ・予備日 第15回 試験		
教科書	特に指定しない。		

授業コード	A7241		
授業科目名	自己の探求(1クラス)(後)		
担当者名	友久茂子(トモヒサ シゲコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。 この科目はワークショップ型授業の為、15名に人数制限します。①②③クラスまとめて募集します。受講希望者は先着順登録を行うこと。オリエンテーション終了後、クラス分けを行う。 (文系学部2006年度以降入学生、理工学部2007年度以降入学生および知能情報学部2008年度以降入学生用) 前期に開講する「心の健康科学」を修得済みのこと。		

	※文系学部2005年度以前入学生および理工学部2006年度以前入学生は、受講できない。
オフィスアワー	金曜3限の授業終了後
講義の内容	学生期は、ライフサイクルにおいてアイデンティティ形成上重要な時期であり、そのために、さまざまな自己表現や、他者とのコミュニケーションを通じて自己理解を深めることが重要な意味を持っている。本講義は、ワークショップ型の少人数体験授業クラスを導入し、主に茶湯体験の実習を行い、五感を通して自己の内面や対人関係のあり方について学んでいくことを目的とする。
到達目標	体験を重視しているので、毎回出席し、自らを見つめ、丁寧に振り返りができること。
講義方法	5～6回の講義と小グループによる体験的実習
準備学習	授業内容と関連した文献を読んでおくこと。
成績評価	出席と振り返りなど、毎回の小レポートにより行う。
講義構成	第1回 はじめに（合同オリエンテーション） 第2回 全体講義Ⅰ：グループ体験について 第3回 全体講義Ⅱ：茶の湯について 第4回 全体講義Ⅲ：陶芸について（グループ分け） 第5回 実習①：「抹茶を味わう」 第6回 講義①：「儀礼の意味を考える①」 第7回 講義②：「儀礼の意味を考える②」 第8回 実習②：「略盆点前を体験する①」 第9回 実習③：「略盆点前を体験する②」 第10回 他グループとの交流 第11回 他グループとの交流 第12回 他グループとの交流 第13回 実習④：道具を拝見する 第14回 実習⑤：「濃茶を味わう」 第15回 まとめ
教科書	毎回、資料を配布する。
担当者から一言	日本の古い文化に触れることは、自己の内面に触れることにつながります。あわただしい日々の生活から離れて、非日常空間で自分を見つめてみましょう 和菓子や抹茶が苦手な人、正座が5分以上出来ない人は参加が難しいと思います。
その他	少人数による実習形式で行うことが多いので、5分以上の遅刻は認めない。人数制限のある授業ですから、真面目に出席できる人が登録してください。

授業コード	A7242		
授業科目名	自己の探求（2クラス）(後)		
担当者名	大谷祥子(オオタニ サチコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。 この科目はワークショップ型授業の為、15名に人数制限します。①②③クラスまとめて募集します。受講希望者は先着順登録を行うこと。オリエンテーション終了後、クラス分けを行う。 (文系学部2006年度以降入学生、理工学部2007年度以降入学生および知能情報学部2008年度以降入学生用) 前期に開講する「心の健康科学」を修得済みのこと。 ※文系学部2005年度以前入学生および理工学部2006年度以前入学生は、受講できない。		

講義の内容	学生期は、ライフサイクルにおいてアイデンティティ形成上重要な時期であり、さまざまな自己表現や他者とのコミュニケーションを通じて自己理解を深めることが有用であると思われる。本講義は、ワークショップ型の少人数体験授業クラスを導入し、小グループでのさまざまな作業や遊びの体験などをもとにして、自己の内面や他者との関係の持ち方について気付きを得ることを目的とする。
到達目標	・自分自身の体験について言葉にして振り返り、自己理解につなげることができる。 ・小グループでの体験とその振り返りをもとに、より深く自己を理解できるようになる。
講義方法	小グループによる体験的実習

準備学習	・授業内で示した参考図書に親しむこと。 ・毎日の生活の中で、今自分が感じていること・考えていることに少し意識的に目を向けること。
成績評価	出席と振り返りなどの小レポート、全体を通してのレポートにより行なう。
講義構成	第1回 はじめに(合同オリエンテーション) 第2回 全体講義(1) グループ体験について 第3回 全体講義(2) 茶の湯について 第4回 全体講義(3) 陶芸について 第5回 知り合いになる 第6回 「伝える」遊び 第7回 「助け合う」遊び 第8回 みんなで一つのものを作る(1) 第9回 みんなで一つのものを作る(2) 第10回 他グループとの交流(1) 第11回 他グループとの交流(2) 第12回 他グループとの交流(3) 第13回 イメージを使った遊び 第14回 別れる 第15回 まとめ
教科書	適宜資料を配布する。
担当者から一言	・なるべく心をやわらかく、楽しんで参加してもらえたらと思います。 ・体験することが全てのはじまりになる授業です。毎回遅刻なく出席することを原則とします。やむをえない場合も、何らかの形で事前に連絡を入れるようにしてください。

授業コード	A7243		
授業科目名	自己の探求(3クラス)(後)		
担当者名	青柳寛之(アオヤギ ヒロユキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	<p>理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。</p> <p>この科目はワークショップ型授業の為、15名に人数制限します。①②③クラスまとめて募集します。受講希望者は先着順登録を行うこと。オリエンテーション終了後、クラス分けを行う。</p> <p>(文系学部2006年度以降入学生、理工学部2007年度以降入学生および知能情報学部2008年度以降入学生用)</p> <p>前期に開講する「心の健康科学」を修得済みのこと。</p> <p>※文系学部2005年度以前入学生および理工学部2006年度以前入学生は、受講できない。</p>		

講義の内容	大学の数年間は、「私はこのような人間である」という感覚をつかみ、それを積み重ねていくことが必要な時期であり、またそれに最も適した時期でもあります。そのために自己の内側で、また他者とのコミュニケーションを通じ、多くの気づきを得て、それを広げ深めていくことが重要な意味を持っています。本講義では、陶芸を媒体とした少人数の体験実習型の授業を行います。土や火と関わりながらものをつくることを通じて、自分についての新たな気づきを得ることを目的としています。
到達目標	陶芸や、その他の体験を通じて自らを見つめることで、自分についてこれまでとは違った視点が少しでも生まれることを期待しています。たとえば、普段何気なく使っている陶器についての見方が変わったり、実は自分はこんなことも面白いと思えたんだ、というようなほんの小さなことでも結構です。さらに、このような気づきを普段の生活に生かしていくことも、ひとつの目標になります。
講義方法	小グループによる体験的実習
準備学習	特に必要ありませんが、自分なりの関心が出てきたら、それに従って文献に当たったり、器を見るなどしてみると、意義が深まります。
成績評価	出席と「振り返り」など各回の小レポート、全体を通してのレポートにより行います。
講義構成	第1回 はじめに 第2回 全体講義(1) グループ体験について 第3回 全体講義(2) 茶の湯について 第4回 全体講義(3) 陶芸について 第5回 やきものを見る

	第6回 やきものをつくるプロセス 第7回 成型(1) 第8回 成型(2) 第9回 施釉 第10回 他グループとの交流(1) 第11回 他グループとの交流(2) 第12回 他グループとの交流(3) 第13回 七輪による焼成 第14回 観賞会、全体の振り返り 第15回 まとめ
教科書	特に指定しません。
参考書・資料	『すべてができる七輪陶芸』吉田明著(双葉社) 『七輪陶芸入門』吉田明著(主婦の友社) 『茶碗で知るやきもの見方』杉浦澄子監修・解説(淡交社)
担当者から一言	やきものを上手にすることを目的とした授業ではないので、陶芸の経験の有無はまったく関係ありません。何か新しい経験をしたいという人の参加をお待ちしています。

授業コード	A7244		
授業科目名	自己の探求(4クラス)(後)		
担当者名	高石恭子(タカイシ キョウコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。前期に開講する「心の健康科学」を修得済みであること。		
オフィスアワー	金曜の講義後、教室または学生相談室にて質問等を受け付ける。		

講義の内容	<p>学生時代は、自己のアイデンティティを形成していく上で重要な時期であり、そのために、さまざまな自己表現や、他者とのコミュニケーションを通じて、自己理解を深めることが求められている。本講義では、できるだけ体験的・実習的要素を取り入れながら、臨床心理学の枠組を用いて、自己の内的世界を探求していく。つまり、日常の意識的な自己理解から一歩掘り下げ、無意識的な領域を含めた、新たな自分の一面に気づいていくことを目的とする。適切で、かつ深い自己理解は、いずれ来るキャリア選択や就職活動においても、一助となるであろう。そのためには、ひとりひとりの主体的で、真摯な参加が期待される。</p>
到達目標	臨床心理学の基礎的知識を用い、より深い内面の自己分析ができるようになる。
講義方法	<p>板書、パワーポイント等を用いた講義を行うが、受講者の規模によって、できるだけ実習を取り入れながら進める。具体的には、心理テストを用いた自己分析、構成的グループワーク(ディスカッションによる問題解決等)、イメージ表現ワークなどである。講義の目的を達成するために、出席を重視する。</p>
準備学習	同コース科目の「心の健康科学」において提示した文献や講義内容をじっくり理解した上で授業に臨むこと。
成績評価	毎回講義中に課す小レポート(60点満点)と期末レポート(40点満点)の合算により評価する。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回 ライフサイクルと「私」 第3回 アイデンティティを探る 第4回 パーソナリティについて① 類型論による理解 第5回 " ② 特性論による理解 第6回 自分の見る「私」、他者から見た「私」 第7回 集団のなかの「私」 第8回 無意識の世界を探る 第9回 コンプレックス 第10回 イメージ表現を通して見た「私」 第11回 夢について ① フロイトの精神分析から 第12回 " ② ユングの分析心理学 第13回 " ③ 夢の体験的理解 第14回 まとめ 第15回 期末レポート
教科書	特に指定しない。

参考書・資料	参考書:『新自分さがしの心理学』川瀬正裕・他著(ナカニシヤ出版) 『これから生きる心理学』川瀬正裕・他著(ナカニシヤ出版) 『大学生の自己分析』宮下一美・他著(ナカニシヤ出版) 『ユング心理学入門』河合隼雄著(培風館) 資料:その都度配布する。
担当者から一言	研究室よりも学生相談室(18号館1階西側)にいることが多いので、講義に直接関連のあるなしにかかわらず、何か話したいことのある人は火・木の午後、または金曜の講義後、相談室の方へお越しください。

授業コード	A2140		
授業科目名	自然科学史(前)		
担当者名	佐藤文隆(サトウ フミタカ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	講義終了後約15分程度(講義室にて)。		

講義の内容	自然科学は現代社会の生活・情報インフラ、産業、文化、健康など、すべての面に大きな影響を及ぼしていました。また、未来に向けてもIT革命、再生医療、環境問題などで、自然科学は大きく社会をゆさぶっている。現代に連なるこの自然科学の発端は今から300年ほど前のニュートンの天体の運動論から始まる。この考え方がなぜ社会で大きな威力を発揮するようになったのかを、歴史にそって考えてみる。 前半ではニュートンの時代以来の歴史を時間順に講義し、後半では現代社会を動かしている主要な科学技術の発祥を探るというように講義する。
到達目標	知的興味から発した科学が社会の動きを牛耳るまでに力を持ってきた科学の変貌を知ってその未来を考える力をつける。特に、規模において百倍も拡大した、20世紀の科学の特異さを認識する。
講義方法	講義 PCパワーポイントで映像を提示し、そのコピーはMyKONANIに置くので後で閲覧できる。また、随時、プリントを配布する。
準備学習	世界史の基本、特に、ルネッサンス、大航海時代、産業革命、フランス革命、帝国時代、国民国家、などのヨーロッパの歴史を復習しておくこと。
成績評価	期末試験(持ち込み可:60分)の結果を中心に評価する。
講義構成	第1回 はじめに 第2回 聖から俗へ:宇宙論 第3回 資源とエネルギー:錬金術、工場、乗り物 第4回 博物学と進化論:探検と開発 第5回 X線からクオークまで 第6回 科学技術者の登場 第7回 21世紀の科学技術をめぐる情勢 第8回 バイオ:DNA、分子機械、脳 第9回 情報・通信、IT 第10回 安心安全の科学:災害と環境 第11回 科学のフロンティア 第12回 科学技術と国家 第13回 科学技術とグローバル社会 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	使用しない。
参考書・資料	佐藤文隆「異色と意外の科学者列伝」(岩波書店) 佐藤文隆「物理学の世紀」(集英社新書) 佐藤文隆「科学と幸福」(岩波書店) その他、講義時に紹介する。
講義関連事項	講義では、歴史を築いた人物の肖像や実験装置など歴史上の画像資料に触れて、歴史から想像力を育むようにする。

担当者から一言	科学の中身の講義ではなく、科学と社会の関係の講義ですので誤解のないように。
---------	---------------------------------------

授業コード	A2130		
授業科目名	自然と人間(前)		
担当者名	村尾るみこ(ムラオ ルミコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	近年の人間と自然の関係は、森林破壊、水質汚染、地球温暖化などに代表される葛藤に焦点が当てられますが、それらの問題は非常に多面的で、様々な視点からの理解を必要とします。本講義では、人間が自然に求めてきたものは何なのか、自然は保護されなければならないものなのか、人間はどのように自然に働きかけ、それによりどのような弊害や利害がもたらされたのか、人びとの生活がいかに変化したかなど、多様な事例を通して人間と自然の関係について考えを深めます。
到達目標	一つは、現代の日本および世界各地の問題から、自然と人間に関わるキーワードに関する理解を深めることです。また、これからの日本および世界の課題に取り組む知識とその活用について自ら考える姿勢を習得することも目指しています。
講義方法	講義で紹介する地域の事例が具体的に理解できるよう、ビデオや写真、文献資料などを多く利用しながら授業を進めていきます。
準備学習	講義で随時紹介する資料や、メディアを通じて得られる時事ニュース等を積極的に収集することが望ましいです。
成績評価	出席40%、小レポート20%、講義最終日に提出してもらったレポート40%を総合して評価します(レポートのみで単位を取得することは困難)。
講義構成	1回 授業計画の説明ーはじめに 2回 映像で追う、世界遺産 3回 自然と人間の生活の多様さ 4回 自然と社会問題との関わり 5回 今、何を守るべきか? : ①求める「豊かさ」の違い 6回 今、何を守るべきか? : ②経済成長 7回 今、何を守るべきか? : ③自然の権利 8回 今、何を守るべきか? : ④人権と文化 9回 日本の現状と課題: コウノトリの里と人の暮らし 10回 世界の現状と課題①: 野生動物保護区と人びとの暮らし 11回 世界の現状と課題②: 洪水と生きる人びとの生活 12回 世界の現状と課題③: 砂漠に生きる人びとの生活 13回 世界の現状と課題④: 強制移動と人びとの生活 14回 まとめ
教科書	使用しません。
参考書・資料	講義で随時紹介します。
講義関連事項	講義の内容は多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。
担当者から一言	講義内容は、受講者の関心領域や希望にあわせていきたいとおもいます。自然と人間にかかわる、現代の幅広い問題について一緒に考えていきたいです。

授業コード	A2310		
授業科目名	思想の歴史(前)		
担当者名	樫 則章(カタギ ノリアキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

オフィスアワー	授業前後の時間に質問に答えます。また、メールでも質問に答えます。
講義の内容	西洋倫理思想の歴史を概説します。倫理思想史という、いかにも堅苦しい感じがするかもしれませんが、そんなことはありません。むしろ、専攻にかかわらず、大学卒業後として社会に出てから「赤っ恥」をかかないためにも、また、今日の倫理的問題を考えるためにも、古代から現代にいたる倫理思想のツボを是非とも押さえておいてほしいものです。
到達目標	全体としては、授業で取り上げる西洋の倫理思想について概説できることを到達目標としますが、各回の到達目標は、授業用プリントで明示します。
講義方法	リチャード・ノーマン『道徳の哲学者たち(第二版)』に即して講義形式で授業を進めますが、教科書としては使用しません。プリントを用意します。パワーポイントを使って、必要に応じて写真や図表を示し、めりはりをつけた理解しやすい授業になるようにします。
準備学習	第2回以降の授業用プリントはMy Konanから各自でプリントアウトしてください。事前に授業用プリントに目を通し、各回で何を学習し、何が到達目標になっているかをあらかじめ確認しておいてください。
成績評価	定期試験の結果にて評価します。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに:問題の出発点と倫理学の方法(第1章) 2. プラトン:人格の健康(第2章) 3. アリストテレス:情動の合理性(第3章) 4. 利己主義と利他主義(第4章) 5. ヒューム:共感(第5章) 6. カント:人格への尊敬(第6章) 7. ミル:最大幸福(第7章) 8. ヘーゲル主義の倫理学:自己実現(第8章) 9. ニーチェ:道徳の彼岸(第9章) 10. 功利主義とその対抗説1:現代の功利主義と権利基底型倫理学(第11章) 11. 功利主義とその対抗説2:契約論倫理学と行為者中心型倫理学(第11章) 12. 功利主義とその対抗説3:徳倫理学と道徳的多元主義(第11章) 13. 倫理の世界(第12章) 14. まとめ 15. 試験
教科書	教科書は使用しません。
参考書・資料	リチャード・ノーマン著『道徳の哲学者たち(第二版)』(樫 則章ほか監訳、ナカニシヤ出版、2001年)
担当者から一言	西洋倫理思想史について必修の事項を講義します。ふるって受講してください。

授業コード	A1210		
授業科目名	社会学(前)		
担当者名	工藤保則(クドウ ヤスノリ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
講義の内容	受講生が「社会的なものの方」を理解し、またそれを獲得することを講義の目的とする。そのために、「身近な例を社会的に考える」というスタイルで講義を行う(受講生の「今」のこの話題からはじめ、だんだんと「先」のこの話題に進めていく)。		
到達目標	「社会的なものの方」ができるようになる		
講義方法	講義形式で行う(「映像」等を積極的に取り入れる予定である)。各回は「一話完結」式で行うが、当然のことながら、各回の話題は、重層的に関係している。		
準備学習	授業で示した参考図書に親しむこと。 授業内容の復習。		
成績評価	基本的には、期末試験による評価を行う。授業への積極的な取り組み等については、加点材料として評価に反映させる。		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義のはじめに(講義計画、受講上のルール、評価等についての説明を含む) 2. 社会的存在としての人間 3. 友だち 		

	4. 恋愛 5. 学生 6. 結婚 7. 親子 8. 子ども 9. おとな 10. 会社 11. 高齢者 12. 他者 13. 人生 14. 社会的存在としての「私」 15. 講義のおわりに (以上は、予定である。多少変更される場合もある)
教科書	教科書は指定しない。
参考書・資料	講義において紹介する。
その他	遅刻(理由があって遅刻した場合は、その旨を明確に伝えるように)、私語、携帯電話・メールの使用は厳禁。 他、受講上、適切でない行為については厳しく対応する。 「座っていればなんとかなる」という授業ではないので、「座っていればなんとかなる」授業を望む学生には、向かないと思う。 これを含めた授業の進め方、受講上のルールは1回目の授業において説明をするので、受講希望者は必ず出席をするように(2回目以降の授業においては、そのルールにしたがって授業運営を行う)。

授業コード	A3130		
授業科目名	社会生活と法(前)		
担当者名	油納芳生(ユノウ ヨシオ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	法学上の諸問題の検討 まず最初に「法」の全体像を概観し、次に法と国家・社会との関係を法的主体の側面から検討し、そして法が目指すもの(目的)を勉強したいと思います。
到達目標	法への興味と法の全体像の把握とがなされること。
講義方法	基本的にはプリントを配布して講義を進めますが、皆さんの理解を助けたり、補足したりするためにビデオ等も取り入れる予定です。
準備学習	配布プリントや指示する参考書などで予習をし、予め質問を作ってくること。
成績評価	学期末の記述式テストでのみ評価しますが、質問点を加味します。
講義構成	第1回: はじめに:法に対する2つの見方 第2～5回: 1、「法」とは何か? (1)「規範」とは? (2)どの様な規範があるか? (3)どの様な社会規範があるか? (4)法の分類 (5)指図の仕方 (6)法の機能 第6～9回: 2、自己決定権について (1)個人が自由であるための5つの原則 (2)自己決定権は必要か? (3)自己決定権の法的根拠 (4)国家が個人の自由に介入するとき (5)〈発展問題〉自殺は許されるのか? 第10～13回: 3、法が目指すもの-「正義」とは? (1)正義の多義性 (2)現代の正義論

	(3)(発展問題)正義の戦争はあるのか? 第14回: おわりに 第15回: 試験
教科書	プリントを適宜配布する予定です。
参考書・資料	講義中に適宜指示します。 今のところ、 1については、 佐藤幸治他『法律学入門』有斐閣の第4章 法の仕組みと運用(田中成明) 田中成明『法学入門』有斐閣 平野仁彦他『法哲学』有斐閣アルマの第2章 法システム(服部高宏) 2については、 J.S.ミル『自由論』岩波文庫 田中成明『法学入門』有斐閣 ショウペンハウエル『自殺について』岩波文庫 3については、 田中成明『法学入門』有斐閣 平井亮輔編『正義』嵯峨野書院 加藤尚武『戦争倫理学』ちくま新書 山之内進編『「正しい戦争」という思想』勁草書房
講義関連事項	1、出席はとりません。出席は強制ではないので、真剣に聞きたい人のみ来てください。それ故、私語は絶対に認めません。 2、成績と無関係に数回の意見・理解度の調査をします。 3、質問は講義中でも、終了後でもドシドシして下さい。大いに歓迎します。良い質問には質問点を与えます。

授業コード	A7310		
授業科目名	社会福祉論(後)		
担当者名	越智祐子(オチ ユウコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	社会福祉概論です。社会福祉の理念と歴史、制度と援助技術群について、実践分野の事例を紹介しながら講義します。社会福祉は現実の課題解決を強く志向する実践であると同時に、理念の表象でもあります。市民社会の構成員としての社会福祉理解をすすめます。
到達目標	社会福祉について概要の知識を得て、自分と社会とのかわりについて考察することができる。
講義方法	講義形式です。新聞記事や視聴覚材を利用します。受講生の意見や感想を求めることがあります。
準備学習	メディアの情報や日常的な会話等のなかの、社会福祉制度や社会保障制度に関する事柄に注目しておいてください。案外他人事ではないはずで。
成績評価	試験により評価します。私語等、他の受講生に迷惑になることはしないでください。
講義構成	1. オリエンテーション 2. 社会福祉とはなにか 3. 社会福祉の歴史的展開 4. 現代日本社会における諸課題 5. 社会福祉の制度1: 社会保険 6. 社会福祉の制度2: 貧困に対応する仕組み 7. 社会福祉の制度3: 障害を持つ人々への対応の仕組み 8. 社会福祉の制度4: 子どもと家族に対応する仕組み 9. 社会福祉のおしごと 10. 社会福祉の方法1: ミクロレベルのソーシャルワーク 11. 社会福祉の方法2: マクロレベルのソーシャルワーク 12. 社会福祉の方法3: 社会福祉調査 13. 市民生活と社会福祉 14. まとめ
教科書	指定しません。

参考書・資料	適宜紹介します。
担当者から一言	社会福祉は、「特定の人を対象にした法制度と実践技術群」というマニアな側面だけではありません。わたしたちが脆弱性をどうとらえ、対応するのか、という問いとして、考えてみましょう。
その他	授業中の私語はしないでください。

授業コード	A7350		
授業科目名	生涯スポーツ論 (前)		
担当者名	北岡 守(キタオカ マモル)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	高度情報社会は、人間同士のふれあいや運動する機会を減少させ、心身の健康に大きな問題を投げかけている。また高齢社会に突入した日本において深刻な医療費の問題をかかえ、さらに自由時間社会に進もうとしている今、その生活をどのように過ごすかが重要な課題となっている。それゆえにスポーツ活動に対するニーズはますます高まり、豊かなライフスタイルとなるためのスポーツの役割について考えたい。
到達目標	豊かなライフスタイルとなるためのスポーツの役割について認識を高める。
講義方法	講義形式
準備学習	新聞のスポーツに関する記事をできるだけ読んでおく。
成績評価	試験の結果で評価する。不定期に小テストを実施し評価の参考とする。
講義構成	第1回 はじめに 第2回 余暇社会における豊かなライフスタイル 第3回 労働時間の短縮と平均寿命の伸び 第4回 余暇を活用する能力を身につける 第5回 高まる生涯学習への関心 第6回 健康とスポーツの関わり 第7回 競技スポーツと生涯スポーツの考え方の違い 第8回 世界各国の対応 第9回 各ライフステージにおけるスポーツのあり方 第10回 " 第11回 生涯スポーツの特徴 第12回 特色ある生涯スポーツ振興施策の事例 第13回 スポーツにおける国際交流 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	使用しない。
参考書・資料	講義時に紹介する。

授業コード	A5240		
授業科目名	情報地理 (前)		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	地理学は、幅広い研究の領域を持つ学問である。この講義では、地理学的な考察を進めていくうえで、欠かせない「地図」という資料をとりあげ、地図の基本やそれをめぐる課題について理解し、そうして普段何気なくみる地図の持つ意味を考える。
到達目標	人文地理学の基本資料である地図を理解する。

講義方法	板書を用いた講義形式を基本とする。また、適時、資料の配布、プロジェクターの活用を行い、実際に資料を見ながら話をすすめる。
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。
成績評価	期末試験による評価を基本とする。そのほか、授業時に実施する課題(小テスト、小レポートなど)も参考とする。また、可能であれば定期的に出席を確認し参考にする。
講義構成	(1)ガイダンス:この講義の紹介 (2)地図とは?:①地図の機能と地図のうそ、②頭のなかの地図ーメンタルマップー (3)地図の基本:①様々な地図、②地図の記号と表現、③地図の使い方 (4)インターネットと地図:①身近になったGIS、②地図の利活用 (5)地図とアーカイブ:情報としての地図の管理と保存 (6)まとめ
教科書	特定の教科書は指定しない。

授業コード	A5210		
授業科目名	情報と経済(後)		
担当者名	前田洋樹(マエタ ヒロキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	近年、情報通信技術は飛躍的に進歩し、普及してきました。これにより、どのような変化が起こり、また、どのような変化が起こっていくのでしょうか。 この講義では、「経済」に着目し、情報と経済との関わりや、情報通信が経済にもたらす変化について、私たちの身近なものから経済全体におけるものまで幅広く考えてみたいと思います。
到達目標	「情報」と「経済」について理解できる。 情報通信の現状を理解できる。 情報通信の発達と経済との関わりを理解できる。
講義方法	講義は原則としてPowerPointや板書、口頭での説明に基づいて進めます。 しかし、教員が一方的に説明するだけの講義になることはできるだけ避け、受講者のみなさんにも積極的に参加してもらえるような講義になるようにしたいと思います。 資料は必要に応じて配布します。
準備学習	普段から、新聞や本などを読んだり、ニュースを観たりするなど、世の中の動き、とりわけ情報通信に関する動向に関心を持つこと。
成績評価	期末試験の成績に基づいて評価します(100%)。 ただし、講義における発表や、予告なしにその日の講義のまとめ等を提出してもらうなど、通常の講義時の頑張り(単なる「出席」ではない)も平常点(出席点ではない)として成績評価に加味する予定です(最大20%程度)。
講義構成	以下のような内容を予定していますが、変更する可能性もあります。 第1回 ガイダンス 第2回～第4回 「経済」とは?/「情報」とは? 第5回～第6回 日本における情報通信の現状 第7回～第8回 情報通信産業と日本経済 第9回～第10回 電子マネー 第11回～第12回 オンラインショッピング 第13回～第14回 日本における情報通信政策 第15回 期末試験
教科書	特に指定しない予定です。
参考書・資料	参考書は必要に応じて適宜紹介しますが、例えば以下のような本を挙げておきます。 ・総務省編『情報通信白書』ぎょうせい ※この本はホームページでも閲覧可能です。 (http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/whitepaper/whitepaper01.html)

担当者から一言	単位取得だけを目的とせず、履修する目的をよく考えた上で履修してください。 講義では、できるだけわかりやすく説明するように心がけ、楽しい講義を目指したいと思います。そのためには、
---------	---

	教員だけでなく、受講者のみなさんが講義に積極的に参加(単なる「出席」ではありません)してくれることも大事です。みなさんの頑張り期待您的期待しています。
その他	講義中、他の人に迷惑をかけるような行為(私語など)は厳に慎むこと。そのような行為に対しては、厳格に対処する。

授業コード	A5250		
授業科目名	情報と社会(後)		
担当者名	田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	火曜・水曜・木曜の昼休み、および木曜5限。必要場合はメールで連絡すること。dtano@nifty.com		

講義の内容	「自分探し」がブームとなっている。多くの若者たちが本当の自分をもとめ、自分らしい生き方を模索している。だが情報化社会といわれる今日、そうした生き方の模索もまたメディアの影響にさらされ、ゆがめられる危険性をはらんでいる。本講義では、こうした問題をテーマに取り上げ、メディアが私たちにどのような影響を及ぼしているのかを明らかにする。
到達目標	メディアが私たちにどのような影響を及ぼしているのかを考え、現代を生きるうえで必要なメディア・リテラシーを身につけることが目標である。
講義方法	講義は毎回配布するプリントと、適宜紹介する映像や資料を中心に進める。「自分探し」という比較的身近な問題を取り上げるが、かなり踏み込んだ内容を含んでおり、実習的な課題も多いので、積極的な受講態度が望まれる。
準備学習	必要に応じて指示する。
成績評価	期末テスト70点、小レポート30点とし、講義内容の理解度、および問題意識の深さを評価する。
講義構成	(1) イントロダクション (2)～(3)メディアの影響力 (4)～(5)劇画化される現実:情報番組の筋書き (6)～(7)17歳の心の間:少年犯罪報道の虚像 (8)～(9)史上最強の楽園:自分探しブームとメディア (10)～(11)本当の自分:自己分析に駆り立てられる若者たち (12)～(13)イラクで見つけた自分:自分探しの行方 (14)～(15)まとめ
教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書・資料	必要に応じて指示する。

授業コード	A7110		
授業科目名	食品科学(後)		
担当者名	宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	食物は我々の生命維持にとって基本的なものである。食糧が不足していた一昔前までは、量的に十分な栄養摂取が課題であったが、飽食の時代といわれる今日では、いかに適量をバランスよく摂取するかが問題になっている。毎日の食生活がいわゆる生活習慣病の発症にも大きく関与していることは疑う余地もない。そのため、様々な健康食品がブームになり、新聞やテレビには食物と健康に関する情報が氾濫している。自分の健康は、最終的には、自分で守るしかなく、それには食物(食品)に関する最低限の科学的知識を持つことが必要である。本講義では、食品に関する基礎的な知識を学びながら、健康に生きるための食生活はどうあるべきかを共に考えたい。
-------	--

到達目標	食品に関する最低限の科学的な基礎知識を身につけること。
講義方法	講義は教科書に沿って進めるので毎時間教科書を持参すること。また、必要に応じてプリントも配布する。
準備学習	講義構成の項目に示されている各回の講義内容について、教科書の該当箇所を必ず予め読んで講義に臨むこと。
成績評価	期末試験の結果を中心とし、レポートの内容や出席状況も加味して、評価する。
講義構成	第1回 食生活の現状 第2回 食物の機能 第3回 食品の分類と成分、水分 第4回 炭水化物(糖質) 第5回 脂質 第6回 タンパク質 第7回 ビタミン 第8回 ミネラル 第9回 食物繊維 第10回 嗜好成分1:色素成分 第11回 嗜好成分2:香り成分、呈味成分 第12回 機能性成分 第13回 食品の安全性 第14回 食生活と健康 第15回 まとめと試験
教科書	「イラスト 食品学総論」種村安子他著(東京教学社)
参考書・資料	「イラスト 栄養学総論(第3版)」城田知子他著(東京教学社) 「食品学総論」森田潤司他編著(化学同人)
その他	私語は厳禁する。

授業コード	A3240		
授業科目名	女性学(前)		
担当者名	堀内真由美(ホリウチ マユミ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	1970年代から学問領域の一つとなった「女性学」は、18世紀末に欧州に興った人権思想をその源流としています。女性学は、社会のなかの性差別、とりわけ女性差別の現状やその原因を明らかにしようとするものです。その対象領域は広く、労働・教育・性と生殖・法・メディアなど、私たちの日常生活のあらゆる場面を性差別を生む背景としてとらえ直し、議論してきました。また、労働・教育などそれぞれの「現場」での活動と密接に結びついているのも女性学の特徴です。その成果は、教育や福祉や労働などの社会政策に反映されてきました。80年代から盛んになった日本の女性学もほぼ同じ系譜上にあります。 近年では、男性も「男性」という社会的性(ジェンダー)を負わされ、「強者」でなければならないという圧力にさらされてきたことに注目する「男性学」や、ジェンダー関係を問う「ジェンダー学」も登場しています。 この授業では、女性学で議論されてきたさまざまな課題を、かりやすく皆さんに紹介しつつ、私たちを取り巻く現代社会を「女性学的視点」から読み直す作業をします。
到達目標	ジェンダーという概念を理解し、現代社会がどのようにジェンダー化されて動いているかを、教育、労働、個人生活、メディアなどの分野をとおして分析し、確認することができるようになる。
講義方法	この授業は、主に授業担当者による講義によって進められます。講義中は、印刷された配布資料に参加者全員で目をとおり、毎回のテーマへの理解をはかります。また、スライドやDVDなど視覚教材も利用します。参加人数や時間的余裕によっては、参加者の意見を求めることもあります。
準備学習	この授業は、人権思想や社会改革運動などに関する近現代史や社会事情に興味・関心のある学生に適しています。授業初回で示す参考図書を少なくとも1冊は読んでほしいところです。日頃から新聞や文芸誌などの活字媒体に慣れ親しんでおきましょう。
成績評価	授業への積極的関与度と提出されたミニ・レポート、定期試験の叙述内容によって評価します。
講義構成	1. 女性学って何？ 2. 女性学の誕生

	3. 教育がつくる女と男(その1) 4. 教育がつくる女と男(その2) 5. セクシュアリティ(その1) 6. セクシュアリティ(その2) 7. 前半の復習(その1) 8. 前半の復習(その2) 9. 働くことに潜む問題(その1) 10. 働くことに潜む問題(その2) 11. 家族の中の女と男(その1) 12. 家族の中の女と男(その2) 13. メディアの中の女と男(その1) 14. メディアの中の女と男(その2) 15. 試験
教科書	使用しません。毎回、プリントを配布します。なくさないよう、個々人で注意してください。
参考書・資料	伊藤公雄・牟田和恵 編 『ジェンダーで学ぶ社会学』、世界思想社
その他	この授業はさまざまな学部が開かれた科目であるため、毎年受講者数が多くなっています。参加されるからには、私語やメールのやり取り、また携帯オーディオ機器の使用などを慎み、興味を持って参加している人々の集中力と授業の雰囲気損なわないよう、どうかくれぐれもご協力をお願いします。

授業コード	A2211		
授業科目名	人権(同和)の問題(1クラス)(前)		
担当者名	梅田武男(ウメダ タケオ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	<p>人権に対する確かな理解と、自他の人権を尊重する精神と態度を、さまざまな人権課題についての学習を通して養うことを目的とする。</p> <p>日本の人権課題でとりわけ重要とされる同和問題については、部落差別の実態と解放への歩みを歴史をたどって明らかにしていく。</p> <p>さらに、同和問題を国民的課題として位置づけた「同和对策審議会答申」とそれにもとづいて策定された特別措置法、さまざまな施策について学習するとともに、同和問題解決のため現在残されている課題についても理解を深める。</p>
到達目標	<p>今日の人権課題についてどのようなものがあるかについて理解ができる。</p> <p>部落差別の実態と解放への歩みについての歴史が理解できる。</p> <p>同和对策審議会答申とそれに基づいて策定された特別措置法や諸施策について理解ができる。</p> <p>同和問題解決のための現在残されている課題について理解ができる。</p>
講義方法	講義形式で行うが、必要に応じて視聴覚教材を活用する。
準備学習	新聞でとりあげられる人権に関することがらについて日頃から注意を払うようにこころがける。授業で示すテキストの箇所については必ず事前に目を通しておく。
成績評価	期末試験とレポートによるが、出席を重視する。
講義構成	第1回 オリエンテーション、人権をめぐる状況 第2回 人権の歴史、人権獲得の歩み(1) 第3回 人権の歴史、人権獲得の歩み(2) 第4回 人権の国際化をめぐる問題 第5回 人権と部落差別(1) 第6回 人権と部落差別(2) 第7回 部落差別解消への取り組み(1) 第8回 部落差別解消への取り組み(2) 第9回 同和問題解決への課題 第10回 さまざまな人権課題(1) 第11回 さまざまな人権課題(2) 第12回 さまざまな人権課題(3) 第13回 さまざまな人権課題(4) 第14回 さまざまな人権課題(5)、まとめ

	第15回 期末試験
教科書	・秋定嘉和・安達五男他共著「人権の歴史・改訂版」(山川出版) ・甲南大学編「人権問題資料」(入学式で配布済み。万一紛失等した場合は大学事務部まで。) 以上を利用するので、毎回持参すること。
参考書・資料	必要に応じて、プリントで参考資料を提供する。
担当者から一言	テキストを早い機会に必ず購入し授業の際に必ず携行すること。

授業コード	A2212		
授業科目名	人権(同和)の問題(2クラス)(後)		
担当者名	梅田武男(ウメダ タケオ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	<p>人権に対する確かな理解と、自他の人権を尊重する精神と態度を、さまざまな人権課題についての学習を通して養うことを目的とする。</p> <p>日本の人権課題でとりわけ重要とされる同和問題については、部落差別の実態と解放への歩みを歴史をたどって明らかにしていく。</p> <p>さらに、同和問題を国民的課題として位置づけた「同和对策審議会答申」とそれにもとづいて策定された特別措置法、さまざまな施策について学習するとともに、同和問題解決のため現在残されている課題についても理解を深める。</p>
到達目標	<p>今日の人権課題についてどのようなものがあるかについて理解ができる。</p> <p>部落差別の実態と解放への歩みについての歴史が理解できる。</p> <p>同和对策審議会答申とそれに基づいて策定された特別措置法や諸施策について理解ができる。</p> <p>同和問題解決のための現在残されている課題について理解ができる。</p>
講義方法	講義形式で行うが、必要に応じて視聴覚教材を活用する。
準備学習	新聞でとりあげられる人権に関することがらについて日頃から注意をはらうようにこころがける。授業で示すテキストの箇所については必ず事前に目を通しておく。
成績評価	期末試験とレポートによるが、出席を重視する。
講義構成	<p>第1回 オリエンテーション、人権をめぐる状況</p> <p>第2回 人権の歴史、人権獲得の歩み(1)</p> <p>第3回 人権の歴史、人権獲得の歩み(2)</p> <p>第4回 人権の国際化をめぐる問題</p> <p>第5回 人権と部落差別(1)</p> <p>第6回 人権と部落差別(2)</p> <p>第7回 部落差別解消への取り組み(1)</p> <p>第8回 部落差別解消への取り組み(2)</p> <p>第9回 同和問題解決への課題</p> <p>第10回 さまざまな人権課題(1)</p> <p>第11回 さまざまな人権課題(2)</p> <p>第12回 さまざまな人権課題(3)</p> <p>第13回 さまざまな人権課題(4)</p> <p>第14回 さまざまな人権課題(5)、まとめ</p> <p>第15回 期末試験</p>
教科書	・秋定嘉和・安達五男他共著「人権の歴史・改訂版」(山川出版) ・甲南大学編「人権問題資料」(入学式で配布済み。万一紛失等した場合は大学事務部まで。) 以上を利用するので、毎回持参すること。
参考書・資料	必要に応じて、プリントで参考資料を提供する。
担当者から一言	テキストを早い機会に必ず購入し授業の際に必ず携行すること。

授業コード	A7210		
授業科目名	心身論(後)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	心身論、つまり精神と身体は二元論か相関論かの問題を、哲学・心身医学・心理学・宗教の立場から考察する。第一に、哲学の立場から、デカルトの心身二元論の思想の流れと、現代に対する影響を述べる。第二に、精神・心理的立場から、心身相関論と東洋医学の思想について論じる。ここでは具体的に、催眠療法や箱庭療法の事例を検討する。第三に、現代における心身論の課題を臨死体験や仏教思想などを通じて、宗教的次元から考察する。
到達目標	心と身体は同じ「自己」であることを自覚すること。
講義方法	講義形式
準備学習	新聞・雑誌からコピーないしノートして、テーマに応じたものを準備しておくこと。
成績評価	テストないしレポートと出席点
講義構成	第01回 序論 第02回 心身論の思想的歴史 第03回 デカルトの心身二元論 第04回 心身二元の心への一元化 第05回 心身二元の身体への一元化 第06回 心身相関論 第07回 心理学的視点からの心身相関論 第08回 東洋医学的視点からの心身相関論 第09回 自律訓練法の実際 第10回 宗教における魂の問題をめぐって 第11回 アニミズムをめぐってー自然との心身の調和ー 第12回 臨死体験をめぐってー死後の魂についての示唆ー 第13回 宗教における魂の救い 第14回 まとめ 第15回 予備日
教科書	里見軍之・谷口文章編『現代哲学の潮流』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	谷口文章『環境教育の哲学ー環境教育学序説ー』(ミネルヴァ書房)
担当者から一言	「心と身体」、また「私とあなた」や「人間と自然」などの区切りを厳しくしすぎずに、調和・融合した現実の世界を考えていきたいと思います。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室,http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/}

授業コード	A7120		
授業科目名	身体健康科学(後)		
担当者名	桂 豊(カツラ ユタカ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	講義終了後10分程度(講義室にて)		

講義の内容	現代は健康ブームで世の中にはたくさんの「健康」や「身体運動」、「ダイエット」、「健康食品」などに関する情報が蔓延している。ただ単に「健康」と言っても、人それぞれ異なった価値観を持ち、これを一言で言い表す事はなかなか難しい。健康を目的にいざ運動しようとしてもその方法がわからなかったり、3日坊主で終わってしまうこともしばしばである。また日常、運動を積極的に取り入れている人でもどれだけの人が運動に関する正しい知識を持ち安全に行っているのか定かではない。さらに、健康志向の反面、スポーツの色々な場面で取り返しのつかない
-------	---

	い事故も多数起っていることも事実である。 私達が「健康」に対する認識を新たにし、スポーツや身体活動をするということについて理解を深めることは、人生80年時代といわれる現代に健康的な生活を送る上でとても有意義なことである。誤解されているスポーツの情報・ダイエットの知識等にも触れ、これからの「健康」ということについて考えたい。
到達目標	この講義を通して、私達にとって健康とは何かを考え、生活の中に運動を取り入れる方法や知識を身につけ、それを実行する強い意志を持ってもらいたい。
講義方法	配布資料や映像を用いて解説する
準備学習	特になし
成績評価	原則として期末試験の成績で評価する
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回 「日本のスポーツについて」 第3回 「健康について」 第4回 「スポーツと水分補給」 第5回 「発育発達期の身体的特徴、心理的特徴」 第6回 「発育発達期に多いケガや病気」 第7回 「発育発達期のプログラム」 第8回 「運動不足の人のためのトレーニング(1)」 第9回 「運動不足の人のためのトレーニング(2)」 第10回 「運動不足の人のためのトレーニング(3)」 第11回 「ダイエットについて(1)」 第12回 「ダイエットについて(2)」 第13回 「ダイエットについて(3)」 第14回 「スポーツと栄養について」「まとめ」 第15回 試験
教科書	特になし
参考書・資料	健康、運動生理学、トレーニング、ダイエット等に関するものなら何でも参考にして下さい
担当者から一言	青少年時代に活発に積極的に身体を動かし、身体の諸器官・諸機能の発達を促すことは、将来社会に出て生活を送る上でとても大切なことだと思います。ただ単に身体活動をするのではなく、正しい知識のもとに安全に効率よく身体を動かすことは、私達の人生をさらに明るく健康的なものにしてくれるのではないのでしょうか。

授業コード	A1130		
授業科目名	心理学(前)		
担当者名	福井義一(フクイ ヨシカズ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	心理学とはどのような学問かを、複数の主要分野から、いくつかトピックを選び、その知見を概観する。感覚・知覚心理学、学習心理学、認知心理学、感情心理学、パーソナリティ心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学の各分野について紹介する。
到達目標	心理学とはどのような学問領域なのかを知ることができる。 また、主要分野でどのようなことが研究されているのかを知り、全体の中に位置づけることができる。
講義方法	視聴覚教材等を用いた講義方式で行う。
準備学習	特になし。
成績評価	試験による。ただし、10回以上授業に出席しなければ成績を評価しない。
講義構成	おおよそ、以下のようなスケジュールで行うが、進み具合により内容を変更・省略することがあり得る。 1. オリエンテーション 2. 心理学とは何か？ 3. 感覚・知覚心理学 4. 学習心理学 5. 認知心理学 6. 感情心理学

	7. パーソナリティ心理学 8. 発達心理学 9. 教育心理学 10. 社会心理学 11. 臨床心理学 12. 臨床心理学 13. その他の心理学領域 14. 心理学に隣接する領域 15. まとめ
教科書	なし
参考書・資料	『スーパーエッセンス 心理学』 石田潤・谷口篤編著 北大路書房 『新・心理学の基礎知識』 中島義明・繁柘算男・箱田裕司編 有斐閣ブックス

授業コード	A1310		
授業科目名	数学(前)		
担当者名	松本茂樹(マツモト シゲキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	水曜日の5限		

講義の内容	テキスト「数学の花束」(中村滋著)に沿って“野に咲く花を楽しむように”数学の小径を逍遙する。数学の果たす社会的役割や諸学問の基盤としての重要性を強調することよりも数学本来の魅力や楽しさについて語っていくことにしたい。
到達目標	講義で取り上げる話題を通じて個々人が数学の楽しさ・美しさを味わって貰えれば目標は粗達成されたと云ってよい。願わくばこの講義の受講を切っ掛けに数学に対する関心がより一層高まらんことを。
講義方法	通常の教室で板書を主体とする講義を行う。
準備学習	講義回数のお大半はテキストに沿いつつ話題を発展させていくので、講義の予習の意味でテキストの該当する箇所を一読しておくことを勧める。
成績評価	期末試験の成績を重視するが、講義時に適宜実施する小テストの出来具合も成績評価に加味する。
講義構成	第1回 はじめに 第2回 「『博士の愛した数式』をめぐる花旅」 第3回 「素数の大山脈のお花畑めぐって」 第4回 「人類が最も愛した数、円周率 π 」 第5回 「狭すぎた余白の波紋」 第6回 「ピュタゴラスの定理4000年の輝き」 第7回 「一筆書きの楽しさ」 第8回 「私達の世界にこんな簡明な法則が！」 第9回 「地図は4色で塗り分け可能か？」 第10回 「フィボナッチ数の楽しみ」 第11回 「花の正体: 数学とは？」 第12回 「囚人のジレンマ」をめぐる話題 第13回 ケインズの乗数理論と等比級数 第13回 素数と現代社会 第14回 まとめ 第15回 期末試験
教科書	「数学の花束」 中村滋著 (岩波書店)

授業コード	A7160
授業科目名	スポーツアスリート論(前)
担当者名	伊東浩司(イトウ コウジ)

配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	講義終了後10分程度(講義室にて)		

講義の内容	スポーツは 私たちの生活に活力と潤いなどを与えてくれる。スポーツに関心をもつ人の数は、近年飛躍的に増えてきている。2007年世界陸上大阪大会をはじめ、各種国内外の競技会が国内にて開催されている。このような時代の中で、競技スポーツをする人、見る人に加えて、多くの人が日常生活の中で、健康や娯楽を求めスポーツに取り組むようになってきている。この講義では、健康や運動をめぐる基本的な知識を提供すると同時に、トップアスリートのトレーニング(方法、メンタル、戦術)などを映像をみることによって、現状理解を深める内容を提供したいと思う。		
到達目標	健康や運動をめぐる基本的な知識、アスリートのトレーニング(方法、メンタル、戦術)などを知り、現状理解を深めることを到達目標とする。		
講義方法	映像と配布資料などを中心に行う。		
準備学習	スポーツに関するニュース(新聞・テレビ・インターネット)を確認し、スポーツに対する認識を深めておくこと。		
成績評価	原則として期末試験の成績で評価をする。(授業の中で詳しく述べる)		
講義構成	第1回目 オリエンテーション 第2回目 トップアスリート 第3回目 オリンピックについて 第4回目 オリンピックについて 第5回目 オリンピックについて 第6回目 現代社会とスポーツ 第7回目 健康について 第8回目 体力とトレーニング 第9回目 体力とトレーニング 第10回目 運動技能とトレーニング方法 第11回目 運動技能とトレーニング方法 第12回目 スポーツマネージメント・コーチング 第13回目 コーチング 第14回目 コーチング まとめ		
教科書	特にありません。		
参考書・資料	伊東 浩司 「疾風になりたい」	出版芸術社	
	伊東 浩司 「最強ランナーの法則」	MCプレス社	
	伊東 浩司 「最速の走り方」	西東社	

担当者から一言	映像を出来るだけ多くみて、アスリートの創意工夫を少しでも知ることで、よりスポーツを楽しく感じることができると思います。映像を多く取り入れることで、シラバスと流れが異なることもあることだけ、ご理解をいただきたいと思います。
URL	http://homepage2.nifty.com/itokoji/index.html

授業コード	A7140		
授業科目名	スポーツにおける健康管理(前)		
担当者名	水澤克子(ミズサワ カツコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	月～金 9:00～17:00		

講義の内容	スポーツを安全に、また、より高いレベルで行うための基礎となる健康管理について、様々な角度から解説する。 ヒトの体の基本構造、運動学の基礎、スポーツのためのセルフケア、栄養学の基礎、暑さ対策等について概説する。		
到達目標	スポーツを行う上で基本となる、ヒトの身体の運動、栄養に関する基礎知識を身につける。		

講義方法	講義形式
準備学習	基礎体育学演習(全学1年次必修科目)のテキスト、『スポーツ&健康科学ブック—基礎体育学演習・生涯スポーツの手引き—』を読んでおくことを勧める。
成績評価	定期試験の評価のみ 90～100点:秀 80～89点:優 70～79点:良 60～69点:可 59点以下:不可
講義構成	第1回:運動器の解剖とバイオメカニクスの基礎 第2回:スポーツにおけるセルフケア 第3回:喫煙の害 第4回:アスレティックトレーナーの役割 第5回:スポーツ外傷と救急処置 第6回:スポーツ傷害の発生要因 第7回:アイシングについて 第8回:ウォーミング・アップの科学 第9回:ストレッチング再考 第10回:スポーツの食事学 第11回:スポーツと内科障害1(熱中症について) 第12回:スポーツと内科障害2(熱中症対策、その他) 第13回:積極的に疲労回復 第14回:復習と確認
教科書	特に指定なし。
参考書・資料	J.M.ブーハー他「スポーツ外傷アセスメント」(西村書店) 武藤芳照他「スポーツトレーナーマニュアル」(南江堂) K.L.ナイト「クライオセラピー—スポーツ外傷の管理における冷却療法—」(ブックハウスHD) その他、講義中に紹介する。
講義関連事項	シラバス以外にトピックスを紹介することがある。
担当者から一言	より安全にスポーツを楽しむ、またよりトレーニング効果をあげるための健康面、安全管理の基礎知識について解説する。

授業コード	A7250		
授業科目名	スポーツ文化論(後)		
担当者名	嶋木千加子(イカルギ チカコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	授業後30分間		

講義の内容	スポーツは身体活動であり、筋肉運動を基盤にしたものであるという見方があります。しかしそれだけではなく、より良く生きるために、世代から世代へと受け継がれてきた文化でもあります。この授業では、人々の生活の中から生み出され民族のアイデンティティを受け継ぐ一旦を担っていると言える「エスニックスポーツ」と、我々のスポーツ観に大きく影響を与えている「近代スポーツ」が誕生した過程を学ぶことを通して、スポーツとは何かを考えていきます。そのことが、今後のスポーツのあり方について考えるきっかけに繋がることを期待しています。
到達目標	自分自身がスポーツをどのようなものとして捉えているか、また何故そう捉えるに至ったかを考えることができるようにすること。
講義方法	映像(20分程度)と配付資料を使用した講義によって進めていきます。古いスポーツ用具やエスニックスポーツで使用されている用具の実物を見る機会を持ちます。
準備学習	MyKonanから資料をプリントアウトし、読んでおくこと。
成績評価	期末テスト(授業内容を中心とした論述形式)とレポート(計20点)により成績評価をします。
講義構成	第1回:ガイダンス、スポーツ文化論とは 第2回:日本の大相撲

	第3回: 色々な地域の相撲(霊力で競う相撲: ダン族のゴン) 第4回: 遊牧民族のスポーツ(魂の三つの競技: モンゴルのナーダム祭) 第5回: 北方狩猟先住民族のスポーツ(伝統と文化を守るために創立: ワールド・エスキモー・インディアン・オリンピック) 第6回: 古くからのヨーロッパの民族「バスク」のスポーツ、エスニックスポーツのまとめ 第7回: 古代のスポーツ(ショーアクロバットスポーツと動物スポーツ) 第8回: 前近代のスポーツ(身分に応じて享受したスポーツ) 第9回: 前近代のスポーツ(民俗フットボール、騎士学校、大航海時代のスポーツ) 第10回: 近代スポーツの成り立ち(ブラッディスポーツ、スポーツの組織化) 第11回: 近代スポーツの誕生 第12回: 女性とスポーツ(1900年からの歴史) 第13回: 近代スポーツのさきがけの地「神戸」 第14回: まとめ
教科書	なし
参考書・資料	資料は、各自が毎回My Konanから印刷して持参してください。
担当者から一言	講義と映像から「そこで行われていること」を思い浮かべてみて下さい。一人ひとりのスポーツ観が豊かなほど、将来のスポーツは豊かなものになるでしょう。

授業コード	A7330		
授業科目名	生活の歴史(後)		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	大航海時代以降、ヨーロッパ、南北アメリカ、西インド、アフリカから構成される大西洋世界システムの展開のなかで生じた「生活革命」について、イギリスとアメリカを例にとりながら説明します。歴史を関連性としてとらえる視点の涵養を目的とします。
到達目標	グローバル化が個人の生活を激変させることを欧米の歴史を例に認識すること。
講義方法	資料を参考にしながら講義を進めます。
準備学習	近代以降の世界史を復習しておくことが望ましい。
成績評価	出席と期末試験により、講義への取り組みの姿勢と講義への理解を中心に評価します。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. グローバルな歴史とは？ 3. 大航海時代の開幕とアフリカ、アメリカス 4. イギリス帝国と近代化 5. 「商業革命」の時代 6. 砂糖と資本主義 7. 生活革命(1) 8. 生活革命(2) 9. 儉約と禁欲から消費の快樂へ 10. 大衆消費社会の登場(1) 11. 大衆消費社会の登場(2) 12. 大衆消費社会の展開と拡大(1) 13. 大衆消費社会の展開と拡大(2) 14. 大衆消費社会のゆくえ 15. まとめ
教科書	特にありません。
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。
担当者から一言	出席は厳密に取ります。私語厳禁です。警告1回の後、退席してもらいます。その際、氏名を確認するため、学生証を常に携帯して下さい。

授業コード	A1250		
授業科目名	政治学(後)		
担当者名	河田潤一(カワタ ジュンイチ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	本講義は、「政治」現象の理論的把握能力及び学んだ理論を具体的な諸現象に適用する能力を涵養することを目的として編成される。講義は、戦後日本の政治を主たる対象に、「55年体制」の成立・変容・崩壊、権力＝参加の構造、政治過程、「規制緩和」の政治、国際政治との関わりを講じることから成る。
到達目標	政治学の基本的な概念の理解と戦後日本政治の骨格の理解
講義方法	レジュメを中心に講義を行い、講義中に適宜、参考文献を指摘する。受講生は、参考文献を予習・復習に積極的に当てること。
準備学習	講義中に紹介した論文や著作に目を通し授業に参加してください。
成績評価	定期試験(筆記)の成績で評価する。
講義構成	(1)「55年体制」の成立 (2)「55年体制」の変容 (3)「55年体制」の崩壊 (4)利益還元政治 (5)クライエンテリズム論 (6)現代日本の利権構造 (7)利益集団論 (8)政治過程をめぐる諸理論 (9)日本型多元主義の政治 (10)政策過程をめぐる諸理論 (11)民営化の政治 (12)構造改革の政治 (13)西欧国家体系と戦後国際システム (14)国際政治をめぐる諸理論 (15)ポスト冷戦時代の国際政治
教科書	特になし
参考書・資料	河田潤一(編)『現代政治学入門』(ミネルヴァ書房、1992年) 石川真澄『戦後政治史[新版]』(岩波新書、2004年)
講義関連事項	参考文献は、講義中にその都度紹介する。受講生は積極的にそれらを読むこと。

授業コード	A2240		
授業科目名	政治史(前)		
担当者名	安西敏三(アンザイ トシミツ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	内容的には政治と音楽との関連について講義する。特に日本の国民性(nationality)を構築する上で無私することのできない、唱歌について、歌詞の分析を中心に考える。次いで政治と芸術としての音楽との相克の問題について、20世紀最大の指揮者にして、今尚、魅了し続けているヴィルヘルム・フルトヴェングラーとナチズムとの関係を例に考えたい。
到達目標	政治の一環として、礼楽刑政と古来、言われているように、政治における音楽の位置付けは、礼儀や刑罰と共に重要視されてきた。その基礎的知識を近代政治史を通じて、音楽の政治的機能と非政治的機能にちての基本

	的教養を身につけることを目標とする。
講義方法	蓄音機によるSPレコードやCDの鑑賞を時にいれ、また簡単なレジュメを配布して進めたい。
準備学習	基本的な参考文献を読んで講義に臨めば理解が一層深まる。
成績評価	学期末の試験による。
講義構成	<p>第一回 政治と音楽についての一般的事例の紹介</p> <p>第二回 近代日本における国民の創出の必要性</p> <p>第三回 学制における音楽の位相</p> <p>第四回 知育・徳育・体育の手段としての音楽</p> <p>第五回 伊沢修二における政治と音楽</p> <p>第六回 政治と音楽との相克についての一般的事例の紹介</p> <p>第七回 フルトヴェングラーの生い立ち</p> <p>第八回 音楽政治と政治</p> <p>第九回 ヒトラーの登場の背景</p> <p>第十回 ヒンデミット事件の歴史的意義</p> <p>第十一回 大衆社会化状況におけるゲーリングの陰謀とプロパガンダ</p> <p>第十二回 精神の貴族性とナチズムへの抵抗</p> <p>第十三回 占領軍の方針と祖国ドイツへの復帰</p> <p>第十四回 二十一世紀における政治と音楽</p>
教科書	教科書は使用しないが、奥中康人『国家と音楽』(春秋社)、クリト・リース『音楽と政治』(みすず書房)及び、米原謙・長妻三佐雄編『ナショナリズムの時代精神』(萌書房)は常に参照する。
参考書・資料	その都度配布ないし紹介する。

授業コード	A5120		
授業科目名	生体情報(後)		
担当者名	前田多章(マエダ カズアキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	月曜4限		

講義の内容	生物における情報処理系の1つ、生物時計を中心に講義する。まず、生体における情報の流れの基本概念を説明し、続いて睡眠について概説する。そして、日内リズム、生体情報の日内変動、サーカディアンリズムを解説する。その後、生体における睡眠の重要な働きを解説するとともに睡眠の障害が及ぼす生体への影響を概観する。
到達目標	本講座を通して、生体における睡眠と健康の関係を生体情報処理科学の側面から理解することを目的とする。
講義方法	講義形式で進める。 適宜、図や写真を提示して講義の理解を深める。
準備学習	予め教科書に目を通しておき、疑問点を整理しておくこと。
成績評価	試験の結果で成績評価をする。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代日本人の睡眠事情と健康 2. 睡眠の神経・液性メカニズム 3. 生体リズムとそのメカニズム 4. 睡眠時間の生理・心理現象 5. 睡眠と夢、記憶、認知 6. 睡眠と環境 7. 睡眠の心理評価 8. 小児の睡眠とその障害 9. 保育と睡眠 10. 思春期と睡眠 11. 女性の睡眠とその障害 12. ストレスと睡眠 13. 睡眠障害 14. 睡眠障害の認知・行動療法 15. 試験

教科書	上里一郎監修, 白川修一郎編. 睡眠とメンタルヘルス, ゆまに書房, 2006.6.25
参考書・資料	①井上慎一著. 脳と遺伝子の生物時計, 共立出版, 2004.3.25. ②Russell Foster, Leon Kreitzman著. 生物時計はなぜリズムを刻むのか, 日経BP出版センター, 2006.1.16. ③内田直著. すきになる睡眠医学, 講談社サイエンティフィック, 2006.6.1
講義関連事項	講義内容は, 生体情報, 生理学, 睡眠医学に基本を置くもので, 『夢診断』や『健康情報』などには言及しません。神経活動および内分泌機能といった生体情報メカニズムと『睡眠』との関連を学ぶことに重点を置いて講義します。
担当者から一言	質問の時間をもちますので, どんどん質問して分からないところを解決してください。よくわからないときは, 質問をするのにも苦慮するものですが, 頑張ってください。

授業コード	A6320		
授業科目名	生態人類学(前)		
担当者名	渡辺和之(ワタナベ カズユキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	<p>生態人類学は、人間と自然の関係をフィールドワークによって明らかにする学問である。特に狩猟採集、農耕、牧畜などの生業活動がいかに地域の社会や文化に支えられながらおこなわれるのか、またこれらの生業活動が市場経済や国家政策の影響でどのように変化しつつあるのかを研究する学問である。</p> <p>今日では、アジアやアフリカの奥地にある社会でも、環境保全のために生業活動が規制されるようになってきた。しかし、こうした政策は、ともすると地球規模で自然を保護することを重視するあまり、地域住民がおこなってきた生業活動の循環性を無視し、自然を改変すること＝自然破壊と短絡的に捉えがちになる傾向にある。たとえば、捕鯨を例にすれば、商業捕鯨に反対する捕獲禁止政策が生まれた結果、鯨をもともと食べていた人々までが捕獲を禁止されてしまう点は問題である。</p> <p>講義では、市場経済が浸透し、国家による保全政策が進められてゆくなかで、現地の住民がいかに自然を利用し、いかなる問題に直面しているのか？ アジア・アフリカ・日本の事例を通じて、開発と保護に揺れる地域社会とその生業活動のあり方を考えてゆく。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世間で言う環境問題にまどわされないようになる。環境問題を考えるとき、フィールドワークが重要であることを理解する。 2. グローバルではなく、まずローカルな社会の環境問題を考える。グローバルな社会は統計や本でしかその全体像を知ることはできないが、ローカルな社会は自分の目で確かめることができる。 3. どこで自然破壊されたのか具体的に検討する。場所によっては森林が増えていたり、減っていたりする。区切り方次第で、「自然破壊」の評価が変わることを理解する。 4. どんな自然を保護するのか考える。手付かずの自然を守るのと里山的な自然を守るのでは保護の仕方は大きく変わる。 5. 土地だけの問題ではなく、人と自然の関係に目を向ける。自然を守ることはよいことだが、自然を守るのが政策となり、規制がかかると、人間の社会生活に支障をきたすことがある。 6. 世界を見る視点で日本の問題を考える。日本人の多くは、外国だけでなく、日本の農業のことすら、知らなかったことを実感する。 7. その土地がどのように利用され、どう変化したのか、自分で調べられるようになる。
講義方法	講義形式
準備学習	学期中に講義に関連する文献を読んだり、古地図や空中写真を使って過去の景観を復元する課題を出す予定である。
成績評価	定期試験で評価する。
講義構成	<p>第1回 総論:生態人類学の視点と現地の社会</p> <p>第2回 焼畑の循環システム:文化生態学的アプローチ</p> <p>第3回 焼畑の商品作物:政治生態学的アプローチ</p> <p>第4回 焼畑の終焉:歴史生態学的アプローチ</p> <p>第5回 乾燥地の人と自然</p> <p>第6回 乾燥地の在来農法</p> <p>第7回 山地の棚田と災害</p> <p>第8回 山地の牧畜と社会変化</p> <p>第9回 山地の農牧業と国立公園</p> <p>第10回 稀少動植物の保護と基地問題</p>

	第11回 都市の獣害問題 第12回 植生景観の変化 第13回 棚田観光で農村振興 第14回 低エネルギーで生きるとは？ 第15回 試験
教科書	池谷和信(編)2009『地球環境史からの問い』岩波書店 基本的には配布したレジュメにそって講義するので、全員が購入する必要はない。
参考書・資料	池谷和信(編)2003『地球環境問題の人類学』世界思想社(絶版). 宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫 菅豊2004『川は誰のものか』吉川弘文堂 鶴見良行 1982 『バナナと日本人』岩波新書 高槻成紀『野生動物と共存できるか』岩波ジュニア文庫 シヴァ、ヴァンダナ1997『緑の革命とその暴力』日本経済新聞社 松田素二・古川彰 2003 『観光と環境の社会学』新曜社 岩田修二1996『山とつきあう』岩波書店 中尾正義2007『ヒマラヤと地球温暖化：消えゆく氷河』昭和堂 渡辺和之2009『羊飼いの民族誌』明石書店
講義関連事項	講義の主眼は、あくまでアジアやアフリカの森林、砂漠、高山に住む人々の生業を理解することにある。いわゆる地球にやさしい生活のすすめを論じるつもりはない。

担当者から一言	授業中に何度か作文を書いてもらう。
---------	-------------------

授業コード	A1341		
授業科目名	生物学(後)		
担当者名	道之前允直(ミチノマエ マサナオ)、石黒順平(イシグロ ジュンペイ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	随時可、ただし、メール等で面談日時を予約すること。		

講義の内容	生物学とは「生き物」すなわち生命について学ぶ、生命科学である。生命体に共通する基本的な特性について学び、私たちが「定期的に食事を採らなければならない」のはなぜか、「生きている」とはどういうことであろうか、このような命題について理解を深めることを目的としている。あらゆる生物は細胞からなり、遺伝の法則に従い、固有の特性や適応的形質を保持している。本講義では生命体に共通する特性について、前半部を細胞構造やエネルギーの取り込みについて、後半部を遺伝現象について解説する(道之前)。 遺伝現象に関する法則は、メンデルによって初めて提唱されたが、遺伝子の概念が認識されるようになったのは20世紀に入ってからである。その後半世紀を経て、遺伝子の本体であるDNAの構造が明らかになり、遺伝情報はDNAの塩基配列として書き込まれていることが明らかになった。メンデルの法則とは？ 遺伝情報はどのようにして発現するのか？ 遺伝子操作とは？ 最近のゲノム解析によって何が分かったのか？ など、本講義では、これら身近な遺伝に関する基礎的事項について解説する(石黒)。
到達目標	生命体に共通する基本的な特性について学び、遺伝現象についての一般的、基礎的知識を習得することにより、遺伝情報のプライバシー、遺伝子特許、遺伝子組換え食物など、現代社会の問題点を考え、適切に対応できる能力を身に付ける。
講義方法	プリントの配布やパワーポイントなどを用いて講義する。
準備学習	高校で生物を選択しなかった人は、高校の生物の教科書の関連項目を自習しておくこと講義が理解しやすい。
成績評価	期末の試験によって評価する。
講義構成	道之前 ○細胞とは ○細胞の基本的性質 ○原核細胞と真核細胞 ○細胞の構造と機能 タンパク質の合成 ○細胞の構造と機能 エネルギーの取り込み ○細胞の構造と機能 エネルギーの利用

	<p>○まとめ「生きているとは？」</p> <p>石黒</p> <p>○メンデルの世界</p> <p>○身近な遺伝学</p> <p>○遺伝子とは？</p> <p>○遺伝情報の発現</p> <p>○遺伝子操作とは？</p> <p>○ゲノム解析</p> <p>○まとめと今後の問題</p>
教科書	特に指定しない
参考書・資料	講義中に配布する
担当者から一言	講義内容は多岐にわたり、特定の教科書を用いないので、講義に出席してノートをとることが必須である。

授業コード	A6130		
授業科目名	生物と環境（後）		
担当者名	原 清敬(ハラ キヨタカ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	生物と環境は互いに影響を及ぼしあっている。生物の活動が環境を変え、環境の変化が生物の多様性を生む。本講義では、様々な環境に生息する生物の生存戦略の巧みさについて述べるとともに、生物間の相互作用、環境問題についても扱う。
到達目標	あらゆる環境に生物が存在することをイメージできるようになる。生物の共通性と多様性について理解できるようになる。
講義方法	口頭・板書による説明以外にプリントやパワーポイントなどを使用する。理解度の把握および出席状況の確認のために、講義中に小テスト、小論文を実施する場合がある。
準備学習	身の回りの生物を日ごろからよく観察し、その形態や行動について考察する。
成績評価	期末試験 50% 小テスト・小論文 50%
講義構成	第1回 人工環境と生物 第2回 水と生物 第3回 土と生物 第4回 森と生物 第5回 大気と生物 第6回 食品中の生物 第7回 特殊環境と生物① 第8回 特殊環境と生物② 第9回 共生 第10回 人体と生物 第11回 環境問題と生物 第12回 外来生物 第13回 宇宙と生物 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	特に指定しない
参考書・資料	「もやしもん」石川雅之著(講談社)
講義関連事項	優れた小論文は講義中に名前を伏せて発表する場合がある。

担当者から一言	生き物に対する興味があれば、特別な知識は必要としない。生き物に対する興味がない場合には時間の浪費となる。
その他	私語など他の受講者の迷惑になる行為は厳禁。

授業コード	A2120		
授業科目名	生物の歴史(後)		
担当者名	原 陽子(ハラ ヨウコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	最初の生命体が海中で誕生してから38億年、その間の激しい地球環境の変化の中で絶滅せずに生き延びた生物が、徐々にそのDNAを変化させ、形態や運動を変化させることによって、現在の多種多様な生物が地球上に広がった。この進化の過程には、様々なDNAレベルでの変化、細胞レベルでの変化が関係している。本講義では生命の進化の過程を分子生物学の立場から説明し、さらにヒトに関するトピックスをいくつか提示することで、生命の進化の理解を深めたい。
到達目標	1) 生物の歴史を学ぶことで、地球上の生物の多様性や複雑性の意義を理解する。 2) ヒトの進化を掘り下げて学ぶことで、生物の歴史を主体的に捉えてほしい。生物の進化について自分の言葉で説明できるようにすることが目標。
講義方法	パワーポイントと板書での講義とする。適時プリントを配布する。
準備学習	配布プリントの復習
成績評価	出席50% 期末試験50%
講義構成	第1回 はじめに 第2回 生命の起源 第3回 真核生物の誕生 第4回 多細胞生物の誕生 第5回 生物多様性 第6回 進化のしくみ 第7回 進化と遺伝子 第8回 遺伝子とタンパク質 第9回 生物のゲノム 第10回 ヒトの起源 第11回 ヒトと病気① 第12回 ヒトと病気② 第13回 寿命と老化 第14回 まとめ
教科書	特になし
参考書・資料	毎回の講義の中で適時紹介する。
その他	他の受講生の迷惑となるので、私語は慎むこと。

授業コード	A5140		
授業科目名	生命情報(前)		
担当者名	清水 勇(シミズ イサム)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	生命の1次情報は、言うまでもなく遺伝子DNAの中に書き込まれている。この情報が細胞の中で発現し、タンパク質の情報となって、最終的には表現型として表出され複雑な生命構造ができ、生命活動が営まれる。この時、環境の影響によっても発現の仕方が違ってくる。遺伝子(分子)から細胞、組織、個体、群集(社会)などのレベルで、生命活動を維持するために働く情報ネットワークの様相とその仕組みについてわかりやすく体系的に講義する。
到達目標	いまや一般市民の常識である遺伝子(DNA)の構造と機能について理解する。

講義方法	パワーポイントを使用し毎回そのコピー資料を配布する。
準備学習	授業中に紹介する基本的な参考図書の学習につとめる。
成績評価	講義の出欠状況と期末試験の結果から総合的に判断する。
講義構成	01講義ガイダンス 02遺伝子の構造と機能 03遺伝子情報の発現調節I 04遺伝子情報の発現調節II 05遺伝情報の変異と進化 06細胞内での情報伝達I 07細胞内での情報伝達II 08細胞間での情報伝達 09液性(ホルモン)情報の伝達 10神経情報の伝達 11個体間の情報伝達と行動 12環境情報と体内時計 13日長情報と生活史制御 14社会性情報の伝達 15期末試験
教科書	特に使用しないが参考書はそのつど指示する。
参考書・資料	講義時にプリントを配付する
講義関連事項	ときどきミニテストを実施する。

授業コード	A7220		
授業科目名	生命と倫理(前)		
担当者名	馬嶋 裕(マジマ ヒロン)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	現在、医療や生命科学をめぐる急速な技術の発展によって、生命をめぐるさまざまな倫理的問題が生じてきていると言われる。こうした諸問題について概観し、応用倫理学の一分野としての生命倫理学ではどのような筋道・発想で考えてきたかをみることを通じて、生命と倫理とが交叉する領域について考察する。
到達目標	①生命倫理の問題にかかわる常識的な知識・情報について理解している。 ②生命倫理の問題を考える上で、基本となる知識・情報・定説的な見解について説明できる。
講義方法	板書と配付資料中心の講義
準備学習	「講義構成」に挙げたような問題はしばしば新聞・テレビなどで報道されるので、その際には関心をもって接すること。できれば、教科書の各回相当部分に前もって目を通しておくことがのぞましい。
成績評価	定期テストと平常点(7:3程度を予定)。平常点は、ときどき(3-4回程度を予定)レスポンスカードの提出を課すので、その回数や記入内容によって判断する。
講義構成	1.生命倫理にかかわる問題の構造とアプローチ 2.生命倫理の原則と倫理学説(1) 3.生命倫理の原則と倫理学説(2) 4.「生命の質」と価値 5.医師患者関係 6.従来からある生命の終わりをめぐる問題 安楽死・尊厳死 7.従来からある生命の始まりをめぐる問題 人工妊娠中絶 8.現代における生命の始まりをめぐる問題① 人工生殖医療 9.現代における生命の始まりをめぐる問題② 出生前診断 10.現代における生命の終わりをめぐる問題 脳死臓器移植(1) 11.現代における生命の終わりをめぐる問題 脳死臓器移植(2) 12.遺伝子・細胞工学の発展と倫理問題 13.エンハンスメント(増進的介入)をめぐる倫理問題 14.基本的枠組みの再考 15.今後の検討点

教科書	霜田求ほか『医療と生命』(ナカニシヤ出版、2007年) ¥ 1,995 -
担当者から一言	受講者数が多いとなかなか思うようにいかないのですが、できれば情報や知識を一方的に伝えるばかりでなく、受講生一人一人の、「自分はこう考える」という意見も重視していければと思っています。

授業コード	A2330		
授業科目名	西洋文化史(後)		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	月曜日の昼休み		

講義の内容	西洋文化の諸要素は古代にさかのぼって抽出することができるが、その骨格にあたる部分は中世において形成された。本講義では、ギリシアやケルトといった非主流の文化要素と、イスラーム世界と共有した文化遺産に目を配りながら、中世ラテンとゲルマンを中心とする西洋文化の形成過程を概観する。
到達目標	西洋文化の源流と形成過程についての基礎知識を獲得すること。
講義方法	講義形式
準備学習	講義時に紹介する参考文献等を参照しておくことが望ましい。
成績評価	期末試験(持ち込み不可)の結果で評価する。
講義構成	講義のおおよその項目は以下の通りである。 1 西洋文化の源流1 ギリシア 2 西洋文化の源流2 ケルト 3 西洋文化の形成とイスラーム世界1 十字軍 4 西洋文化の形成とイスラーム世界2 12世紀ルネサンス 5 中世の建築 6 中世の美術
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	『西洋の歴史』ミネルヴァ書房 (その他、講義時に紹介する)

授業コード	A4320		
授業科目名	世界の資源(後)		
担当者名	土井 稔(ドイ ミノル)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	20世紀とりわけその後半における科学技術の目覚ましい進歩・発達は、様々な”もの”を生み、我々に豊かな生活をもたらした。そのような豊かさの実現は同時に、メタル資源やエネルギー資源の枯渇、地球環境の破壊など人類社会の存続にかかわる問題をひきおこすことになった。 本講義では、互いに密接な関係にある資源・エネルギー・環境にまつわる事柄について、“ものづくり”を念頭において、主に工学的見地から平易に概説する。
到達目標	資源・環境の分野における理工学的基礎知識の修得。
講義方法	主に板書による。必要に応じてプリントを配布する。
準備学習	配布資料や参考書などにあらかじめ目を通しておくことが望ましい。
成績評価	期末試験の成績により評価する。
講義構成	第1回 資源のいろいろ

	第2回 資源・エネルギー・環境問題の基礎 第3回 ものづくりと資源・エネルギー・環境1 第4回 ものづくりと資源・エネルギー・環境2 第5回 ものづくりと資源・エネルギー・環境3 第6回 メタル資源1:鉄、アルミニウム 第7回 メタル資源2:銅、レアメタル、ウラン 第8回 化石エネルギー1:石炭 第9回 化石エネルギー2:石油、天然ガス 第10回 電気エネルギー1:火力 第11回 電気エネルギー2:水力、原子力 第12回 新エネルギー1:自然エネルギー(太陽、風力、地熱、海洋) 第13回 新エネルギー2:燃料電池、バイオマス 第14回 まとめ1 第15回 まとめ2、期末試験
教科書	使用しない。
参考書・資料	「資源・エネルギー工学要論(第2版)」世良 力著 東京化学同人(2005) 「世界の資源地図」ライフリサーチプロジェクト編 青春出版社(2007) 「レアメタル・資源-38元素の統計と展望」西山 孝著 丸善(2009)

授業コード	A6140		
授業科目名	大気と海洋(後)		
担当者名	林 慶一(ハヤシ ケイイチ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	固体地球を取り巻く大気の層構造と、地球規模の大気の循環およびそのメカニズムを理解する。また、日本の天気の変化や降水のメカニズムについても学ぶ。海洋については、層構造と大循環、海面付近の波と潮汐について学ぶ。
到達目標	固体地球を取り巻く大気と海洋の構造と運動を正しく理解し、地球環境の変動を考察する基礎として活用できる能力を身につける。
講義方法	板書、配付資料、映像などに沿って講義する。
準備学習	履修者の大部分は、大気と海洋に関しては中学校までの知識しかないので、高校地学の教科書や参考書などを購入して、事前に学習して高等学校レベルの知識を持っていると深く理解できる。
成績評価	期末試験による。講義内容に沿って出題するので、出席して理解することが重要。
講義構成	第1回 緒言・諸注意、地球大気の特徴 第2回 大気の層構造-対流圏 第3回 大気の層構造-成層圏 第4回 大気の層構造-中間圏・熱圏 第5回 古生代末の大気の変化と生物の進化 第6回 大気の熱収支 第7回 大気中の水-湿度、露点温度、雲と降水 第8回 大気層の安定と不安定、断熱変化 第9回 局地風、高・低気圧の風、季節風、大気の大循環 第10回 日本の天気Ⅰ 第11回 日本の天気Ⅱ 第12回 海洋水の層構造 第13回 海水の大循環 第14回 波と潮汐 第15回 試験
教科書	特に使用しないが、資料を配付する。
参考書・資料	高等学校レベルの知識を得るには、高校地学の教科書「地学Ⅰ」(東京書籍など、900円程度)が有益である。(検定済教科書は通常の書店では扱っていないが、生協で注文できる。担当者に相談に来て良い)。また、市

	販の参考書でも代用できる。一般書では饒村 曜「気象のしくみ」(日本実業出版社, 1,400円)が初心者にもわかりやすい。
--	--

授業コード	A2350		
授業科目名	地域と文化(後)		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	地域の文化とは、どのようにして生まれるのか、どのように変化したのか(あるいは変化しないのか)、今後どうなるのか、景観、物語(フィクション)性、遊び、生活、観光……さまざまな角度から、現在、過去・未来の時間軸をたて、具体的な例を示しながら、考えます。
到達目標	土地への興味と愛着を見つけること
講義方法	講義を中心に、ビデオやスライド映像等も適宜用いる。好奇心をもって地域を観察し、地域文化をつくりあげる自負がえられるようにする。互いの考えていること、観察していることを、つないでいけるよう、授業は構成する。講義のほか、授業中レポート、応答も重視する。
準備学習	自分の住んでいる場所に興味をもって五感を働かせて、観察すること、それを口にしたたり、考えること。
成績評価	授業中の数回にわたる小レポートと定期試験にかわるレポート等により総合的に評価する。
講義構成	第1回 授業の進め方(全体概説) 第2回 まずは、甲南大学の周辺から 第3回 はげ山と神戸・イノシシ・蛍・高地性集落 第4回 祭りと地域文化 第5回 都市と同郷集団 第6回 山里に生きる 第7回 「ふるさと」の発見 第8回 スポーツと地域文化 第9回 観光と地域文化 第10回 世界遺産と地域文化
教科書	とくに限定しない。
参考書・資料	文献は授業中に適宜指示する。
講義関連事項	民俗学の諸問題 文化地理学

担当者から一言	学生の瞬間瞬間の観察力、その感受する力が大好きです。 本当は皆さんのほうがずっとよく見えているのです。あとはそれを表現したり、創造していく方法をみにつけ、やってみることで。
その他	適宜、プリント配布。 やわらかな感受性がとても大切です。 そして、自分たちが地域文化の担い手であることを自覚できる具体的な切り口を見つけることが重要です。

授業コード	A1350		
授業科目名	地学(後)		
担当者名	三木雅子(ミキ マサコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	私たちは、食料、水、そしてエネルギーなどの多くを、地球とその上に生活する生命から得ています。しかし、地球はときとして、地震、火山などの大きな災害を引き起こします。この授業では、私たちが住んでいる地球がどの
-------	--

	ような惑星であるのかを知ることを目的とします。また、問題を解明するために、どのような研究がなされてきたか、また、現在どのような研究がなされているかについても取り上げます。
到達目標	地球とほかの惑星との違いを説明でき、またその違いができた過程を理解する。 地球上で地震がおこる場所や様子を説明できる。日本で地震が多くおこるわけを知り、正しい防災意識を持つ。 地球や、それをとりまく環境に興味を持つ。
講義方法	パワーポイントによるスライドを用いて授業を行う。
準備学習	ときどきは月や星を見上げること。 テレビの詳しい天気予報に親しむこと。 地震や天文現象のニュース、話題に関心を持つこと。
成績評価	期末テストを中心にして評価をする。授業の内容から出題するので、授業に出席し、内容をよく理解しておくこと。
講義構成	次の内容を15回にわけて講義する。 1. 太陽系と地球 地球はどのような惑星なのか ほかの惑星との比較 2. 地球の内部構造 地球の内部の様子とそれを知るための研究方法 3. 地球表面の変動と地震(プレートテクトニクス) プレート境界の様子 海洋底の拡大と大陸移動 マントル内の動き 4. 日本付近のプレートと地震 5. 地球の成り立ちと進化 地球の誕生と進化 生物の発生とそれに伴う環境変化
教科書	特にありません。
参考書・資料	「新しい高校地学の教科書」講談社ブルーバックス 杵島正洋ほか著 その他、参考となるホームページを授業中にその都度紹介します。

担当者から一言	単なる知識の詰め込みではなく、授業を通して、私たちの住む星への関心をもっていただきたいです。
---------	--

授業コード	A2110		
授業科目名	地球の歴史(前)		
担当者名	西脇二一(ニシワキ ニイチ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	人類の生存を可能としている現在の地球環境は、地球創生以来46億年の長い歴史を経て奇跡的に形成された貴重なものである。この大切な地球環境をどのように守っていくかを考えるには、現在の状態を理解するだけでなく、それが形成されてきた過程を理解することが必要である。本講義では、地球の各種の特性について、それらの形成とこれまでの変化を講述し、地球環境の現状と将来予測および課題について考察する。受講にあたって、高校における物理学、化学、数学などの基礎知識が必要である。
到達目標	誕生から現在に至る地球の特性・テクトニクス・変動の概要を習得する。
講義方法	基本的にはパワーポイントにより必要な図表を提示しながら講述する。重要な図表については随時プリントで配布する。
準備学習	高校で受講した「地学」をあるいは「理科総合」の地学関連分野について高校の教科書などで復習しておくことがこの科目の履修に役立つ。 ニュースの中で地学分野に関連するものに注意し、授業内容の理解を深めることに利用することも大切である。
成績評価	原則として期末試験の結果で評価する。授業中の小課題や自主レポートなどは、その内容によって成績に加算することがある。
講義構成	第1回 はじめに 第2回 天体としての地球の誕生 第3回 地球の基本構造の形成

	第4回 重力の起源と歴史 第5回 大気と生命の起源と歴史 第6回 地熱と地磁気の起源と歴史 第7回 大陸と海洋の起源 第8回 テクトニクスのメカニズム 第9回 テクトニクスと地表の変動 第10回 地殻の変動の歴史 第11回 日本列島の形成 第12回 日本列島の歴史 第13回 地殻の変動と災害 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	今年度は使用しない。
参考書・資料	東京天文台(編)「理科年表」(丸善)1,470円 山中高光(編)「宇宙・地球:その構造と進化」(学術図書出版社)2,100円 編集部(編)「カラー版徹底図解 地球のしくみ」(新星出版社), 1470円 その他については授業中に指示する。
講義関連事項	数式や化学式などは最小限にとどめるが、理科系科目である以上、全く使わないという訳にはいかない。受講生は高校の理科および数学の基礎知識を持っていることを前提に講義を進める。
担当者から一言	グローバルな課題となっている地球環境問題にとって地球の歴史に関する基礎知識は必須である。高校までに地学を学んでいない場合は、この授業でしっかり理解して下さい。
その他	マスコミからの断片的な知識ではなく、体系的な知識を得ることが大切である。積み上げ方式の授業であるので、欠席するとついてこられなくなる。毎回出席することが大切である。

授業コード	A5110		
授業科目名	知能情報(前)		
担当者名	小島史男(コジマ フミオ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	本講義では、これまでのコンピュータの発展の歴史を通じて、ヒトと機械の関係について考えます。前半では計算機の処理とヒトの情報処理のプロセスのちがいについて考え、コンピュータ開発当初の人工知能開発の実相にせまります。また1980年代以降のマイクロプロセッサ開発により、発展した人工知能の新しい方法論を紹介します。さらに、それらの新しい知能化技術が、現在のネットワーク技術、知能ロボット技術にどのように応用されてきたかを紹介します。最後に情報知能学の近未来について説明し、知能と情報についてみなさんとともに考えていくことにします。
到達目標	携帯電話で友達と話したり、メール交換をしたり、またどこでも音楽を楽しむことができ、ネットワークを通じて旅の予約やレストランの検索をするなど、我々は日常生活のなかで無意識にさまざまな情報機器を使いこなし、便利な生活をしています。みなさんはこのような情報処理技術がいつ始まり、どのように発展してきたか、また今後どのような発展があるのかを講義を通じて自ら考える能力を磨いてください。
講義方法	講義ではインターネットを通じて、世界中のWebサイトを訪問しながら学習を深めます。また講義内容の概要等についてはその都度ホームページに掲載しています。
準備学習	特に予習は必要ありませんが、本講義では復習をしっかりやることを薦めます。本講義で紹介したインターネットのサイトを訪問し、授業内容の確認をしてください。特に関心をもったことなどをレポートにまとめていく作業を繰り返すことで、知能情報の内容がよくわかるようになれば結構です。
成績評価	授業で感じたこと、また自分自身でWebを訪問しながら考えたことなどをまとめ、適宜レポートをだしてください。レポート提出および最終試験の結果から総合的に成績評価を行いたいとおもいます。
講義構成	第1回 コンピュータの出現～情報と通信の制御～ 第2回 情報を処理する機械の発明 第3回 利巧なコンピュータ～人工知能のはじまり～ 第4回 大型計算機による科学計算の発展からマイクロプロセッサの出現まで 第5回 ヒトが考える仕組み 第6回 ヒトの脳のモデルと新しい計算機アーキテクチャ

	第7回 ヒトの曖昧表現をコンピュータで記述する 第8回 生物知能:適応と自己組織化 第9回 認知科学への招待～ビジュアルワールドの世界～ 第10回 ロボットがヒトのパートナーとなるには 第11回 考える機械はつくれるか？ 第12回 データマイニング～データから宝物を見つける～ 第13回 クラウドコンピューティング～ネットワークがつなぐ新しい知的世界 第14回 情報社会の近未来
教科書	特に指定していません。
参考書・資料	ニューラルネットの基礎と応用(共立出版)他、授業中に必要に応じて紹介します。
担当者から一言	講義では聴きっぱなしにせず、インターネット等を通じて多くの知識を吸収してください。
URL	http://www2.kobe-u.ac.jp/~hampton/Lecture/CI/

授業コード	A1260		
授業科目名	地理学(前)		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	火曜2限		

講義の内容	「東南アジアの地誌」 東南アジアは日本に近接し、歴史的にも日本との関係は深かったし、近年はその傾向がさらに強まっている。ところが、この地域に関する知識は意外と浅い場合が多いのではないだろうか。東南アジアはさまざまな点で日本と違った特徴を有する。本講義は東南アジアの特徴を自然、社会、文化、歴史、産業などの側面から捉え、その総合的理解を目指す。さらに、日本との関係性についても考えたい。
到達目標	東南アジアに関する基礎的な知識を得るとともに、地理的なものの見方の基礎を養うこと。
講義方法	板書と配布プリントが中心であるが、スライドやビデオなども用いる。
準備学習	授業中に紹介する参考文献を読んでみて下さい。
成績評価	定期試験(80%)と授業中に出す課題(20%)により評価します。
講義構成	(1)イントロダクション (2)自然環境と生活様式 (3)多様な民族と宗教 (4)国民国家と民族 (5)デルタの稲作 (6)山地の焼畑 (7)アグロフォレストリーの可能性 (8)海上交易と都市 (9)東南アジア諸国の工業化 (10)都市化と都市問題 (11)ベトナム戦争とその影響 (12)近代日本と東南アジア (13)東南アジアと日本の経済的關係 (14)まとめ
教科書	特に指定しない。ただし、中高で用いたものでよいので地図帳を持参すること。
参考書・資料	藤巻正己・瀬川真平編『現代東南アジア入門』古今書院, 2003。 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア—風土・生態・環境』弘文堂, 1997。 山田勇編『森と人の対話—熱帯からみる世界』人文書院, 1996。 渡部忠世編『稲のアジア史(全3巻)』小学館, 1987。 その他、授業で紹介する。

授業コード	A6310		
授業科目名	地理学と環境 (前)		
担当者名	皆見和彦(ミナミ カズヒコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	講義後に教室で。		

講義の内容	地理学は人間と周囲の環境とのかかわりを研究する学問である。さまざまな考察方法があるが、本講義では1970年代から始まった環境史研究の考察方法を探りながら地域の人間生活と周囲の環境との関係を検討して行く。
到達目標	環境の問題を自分の視点で考えることができるようになる事。
講義方法	毎回プリントを用意し、必要ならば板書も行う予定である。
準備学習	講義中に指示することについて次回講義までに調べておくこと。(小テスト、レポートの対象となる)
成績評価	期末試験(レポート)と講義中に行う小テスト、出席率で総合的に判断する。
講義構成	以下の内容を2-3回にわたって行う予定である。 環境史研究と地理学 日本の環境史研究とその事例 絵図に描かれた環境 人文主義地理学とその事例 砂絵と風水 環境修復の事例 日本の山村
教科書	特になし
参考書・資料	その都度指示する。
講義関連事項	林業、庭園、風水、建築プランなど。

担当者から一言	最初の講義で概要を示すので受講するかどうか判断してほしい。興味、関心がなければ時間と労力の無駄になる。
---------	---

授業コード	A1110		
授業科目名	哲学 (前)		
担当者名	里見軍之(サトミ ゲンシ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	哲学は紀元前5. 6世紀ごろギリシアで、自然や人間について、宗教とは少し離れて理論的に説明し、普遍的理論を立てたいというところから始まった。しかしその後どうしても、時代性(どういう時代の、どういう風潮・習慣の時代か)と風土性(どういう生活空間で、どういう言葉を使っているか)という特殊性をまぬがれることができなかった。普遍性と特殊性とのこのようなせめぎ合いが織り成す哲学の歴史をたどりながら、現代の哲学が出来上がってきた経過、現代哲学の由来を振り返り、最後に、そうして出てきた現代の代表例として、個人の生きる意味を問う実存思想と、社会正義のあり方を問うマルクス主義を取り上げたい。
到達目標	哲学は人間が今までに身に付けてきた考え方、知識の総体であり、財産である。だからこのようなせつかくの遺産を無駄にしないで、受け継いでいこうではありませんか。各自が今後自分なりの、物の見方・考え方を作り上げていくために、かなりの材料やヒントを提供できるはずなので、十分活用してもらいたい。一言で言えば、哲学の勉強は人間の遺産相続であり、これが不渡りの小切手や証券になるかどうかはわれわれ次第。
講義方法	基本的には講義方式。出席表の裏に質問、意見、要望、感想などを記してもらいたい。今までの経験ではそれがないというケースは皆無だった。また授業終了後の直接の質問も大歓迎。なお時々、あるテーマについて受講者の関心があるのかないのか、あることについて知っているのかどうかについて、反応を確かめるために、授業中に聞いて回ることがあるので、積極的に答えてもらいたい。それが授業の活性化にもつながるので。また、ときどき資料を配布する(その時間に出席している人に限る)。

準備学習	授業では教科書の必要な箇所だけピックアップして参照していくので、その箇所は事前、事後に各自読み、確認しておいてもらいたい。必要なページはシラバスに記入してあるので、これをやるか否かで、理解は大幅に違ってくると思われる。
成績評価	基本は筆記試験。欠席が2回以下の場合は優遇(加点)。出席が半分以下の場合は素点のまま。
講義構成	第1回 哲学とは？ 第2回 哲学の始まり。ギリシアの自然哲学(3~5) 第3回 ソクラテスとその論敵(5~6) 第4回 ギリシア哲学と中世スコラ哲学(6~13) 第5回 ルネッサンスと宗教改革(14~16) 第6回 近代哲学の始まり・デカルト(22~26,255~258) 第7回 啓蒙主義(25,111) 第8回 近代哲学の頂点・ヘーゲル(31~32,70~74,186~187) 第9回 近代から現代へ・理性のゆらぎ(34,40~42) 第10回 個人の生き方・実存思想(35,43~55) 第11回 実存思想の続き 第12回 社会正義とは・マルクス主義(30,74,78,186~191) 第13回 マルクス主義の続き 第14回 まとめ 第15回 期末試験 (数字はテーマに対応する教科書のページ)
教科書	『現代哲学の潮流』 里見軍之、谷口文章編、ミネルヴァ書房
参考書・資料	教室にて指示
担当者から一言	こちらからの呼びかけにこたえて、積極的に授業に参加してもらいたい。

授業コード	A2320		
授業科目名	東洋文化史(後)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	「古代における日本と大陸との交渉」 東アジア世界における諸国家・諸地域の交渉を、日本に基点を置き、時代を追って検討する。そのことによって東アジア世界の緊密な関係、および日本の文化を東アジア世界の中に位置付けることを試みたい。
到達目標	東アジア諸国の交流を理解する。
講義方法	配付資料やスライドを用いた講義
準備学習	指定された参考文献を読むこと。
成績評価	期末のテストを予定。詳細は講義の初回に通知する。
講義構成	1: 鞅鞞と肅慎 2: 渤海と日本の交渉 3: 円仁の旅行記 4: 女真 5: 高麗への医師派遣 (講義構成は変更することがあります)
教科書	なし
参考書・資料	講義中に指示する。
講義関連事項	なし

授業コード	A9111
-------	-------

授業科目名	特設科目I(甲南大学と平生夙三郎) (1クラス)(前)		
担当者名	安西敏三(アンザイ トシミツ)、草野正裕(クサノ マサヒロ)、有村兼彬(アリムラ カネアキ)、藤本建夫(フジモト タテオ)、杉村芳美(スギムラ ヨシミ)、廣山謙介(ヒロヤマ ケンスケ)、上村多恵子(ウエムラ タエコ)、瀧口剛(タキグチ ツヨシ)、諸岡知徳(モロオカ トモノリ)、眞島宏明(マジマ ヒロアキ)、高阪 薫(タカサカ カオル)、吉沢英成(ヨシザワ ヒデナリ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2009年度以降入学生のみ受講できる。		
オフィスアワー	講師と相談すること		

講義の内容	甲南大学の母体であった旧制甲南高等学校の創設に尽力した平生夙三郎の生涯と事業、さらに新制甲南大学をも含めて、甲南を巣立っていった人材に焦点を当て、改めて甲南大学の建学の精神と教育理念、さらには伝統を認識し、甲南大学で学ぶことの意味を考える。
到達目標	平生夙三郎の人なり思想、及び甲南大学の由来についての知識を最低限もってもらうことを目標とする。
講義方法	一コマ一コマ担当者が変わるリレー方式。
準備学習	配布済みの甲南学園編『新 平生夙三郎のことば』(甲南学園)を読んでおくこと。
成績評価	各講義で実施する「リアクション・ペーパー」(キーワードを使っての小論文・感想・質問の記述。必ずしも毎回ではない。)の得点(各10点満点)を合計し、それを100点満点に換算して、90点以上を「秀」、80点台を「優」、70点台を「良」、60点台を「可」、60点未満を「不可」とする。
講義構成	第1回(4月9日) 甲南大学で学ぶ(学長・高阪薫)(安西敏三) 第2回(4月16日) 甲南が生んだ財界人(廣山謙介) 第3回(4月23日) 平生夙三郎の社会的偉業の概要と甲南OBからのメッセージ(眞島宏明) 第4回(4月30日) ブラジル綿と平生夙三郎(草野正裕) 第5回(5月7日) 平生夙三郎と政財界(瀧口剛) 第6回(5月14日) 平生夙三郎の人生観(上村多恵子) 第7回(5月21日) 第一次世界大戦下の平生夙三郎(藤本建夫) 第8回(5月28日) 平生夙三郎と新聞事業(諸岡知徳) 第9回(6月4日) 平生夙三郎と六甲山(杉村芳美) 第10回(6月11日) 平生夙三郎とブラジル(ゲストスピーカー:栗田政彦)(安西敏三) 第11回(6月18日) 東京海上時代の平生夙三郎(ゲストスピーカー:高田博次)(安西敏三) 第12回(6月25日) 甲南が生んだ知の巨人一戦後啓蒙と内田義彦(安西敏三) 第13回(7月2日) 平生夙三郎と漢字廃止論(有村兼彬) 第14回(7月9日) 甲南大学生として(理事長・吉沢英成)(安西敏三)
教科書	教科書はリレー講義のため、使用しないが、甲南学園編『新 平生夙三郎のことば』(甲南学園)は読んでおくこと。
参考書・資料	その都度、紹介する。
講義関連事項	甲南学園編『平生夙三郎日記』第一巻(甲南学園)が刊行されるので、読むことを薦める。また『平生夙三郎自伝』(名古屋大学出版会)も少青年時代の平生を知る上で興味深い文献であるので、読むことを薦める。

授業コード	A9112		
授業科目名	特設科目I(甲南大学と平生夙三郎) (2クラス)(後)		
担当者名	安西敏三(アンザイ トシミツ)、草野正裕(クサノ マサヒロ)、藤本建夫(フジモト タテオ)、杉村芳美(スギムラ ヨシミ)、廣山謙介(ヒロヤマ ケンスケ)、奥田 敬(オクダ タカシ)、上村多恵子(ウエムラ タエコ)、瀧口剛(タキグチ ツヨシ)、諸岡知徳(モロオカ トモノリ)、眞島宏明(マジマ ヒロアキ)、高阪 薫(タカサカ カオル)、吉沢英成(ヨシザワ ヒデナリ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	2009年度以降入学生のみ受講できる。		
オフィスアワー	講師と相談の上		

講義の内容	甲南大学の母体である旧制甲南高等学校の創設に尽力した平生夙三郎の生涯と事業、さらに新制甲南大学をも含めて、甲南を巣立っていった人材に焦点をあて、改めて甲南大学の建学の精神と教育理念、さらには伝統
-------	---

	を認識し、甲南大学で学ぶことの意味を考える。
到達目標	甲南大学の歴史とその教育理念を創設者平生鈺三郎の生涯を最低限、修得することを目標とする。
講義方法	一コマ一コマ担当者が変わるリレー方式
準備学習	配布済みの甲南学園編『新 平生鈺三郎のことば』(甲南学園)を読んでおくこと
成績評価	各講義で実施する「リアクション・ペーパー」(キーワードを使っての小論文・感想・質問の記述。必ずしも毎回ではない。)を合計し、それを100点満点に換算して、90点以上を「秀」、80点台を「優」、70点台を「良」、60点台を「可」、60点未満を「不可」とする。
講義構成	第1回(9月24日) 甲南大学で学ぶ(学長・高阪薫)(安西敏三) 第2回(10月1日) 甲南が生んだ財界人(廣山謙介) 第3回(10月8日) 平生鈺三郎の社会的偉業の概要と甲南OBからのメッセージ(真島宏明) 第4回(10月15日) ブラジル綿と平生鈺三郎(草野正裕) 第5回(10月22日) 東京海上時代の平生鈺三郎(ゲストスピーカー:高田博次)(安西敏三) 第6回(10月29日) 平生鈺三郎の人生観(上村多恵子) 第7回(11月12日) 第一次世界大戦下の平生鈺三郎(藤本建夫) 第8回(11月19日) 平生鈺三郎と新聞事業(諸岡知徳) 第9回(11月26日) 平生鈺三郎と時代精神(安西敏三) 第10回(12月3日) 平生鈺三郎と政財界(瀧口剛) 第11回(12月10日) 甲南が生んだ知の巨人一戦後啓蒙と内田義彦一(奥田敬) 第12回(12月17日) 平生鈺三郎と六甲山(杉村芳美) 第13回(12月24日) 甲南大学生として(理事長・吉沢英成) 第14回(1月7日) 平生鈺三郎とブラジル(ゲストスピーカー:栗田政彦)(安西敏三)
教科書	講師ごとに異なるので教科書は使用しないが、甲南学園編『新 平生鈺三郎のことば』(甲南学園)は読んでおくこと。
参考書・資料	講義ごとのその都度紹介する。
講義関連事項	甲南学園編『平生鈺三郎日記』(甲南学園)が第一巻から随時、刊行されるので、読むことを薦める。また平生の青春時代を描いた『平生鈺三郎自伝』(名古屋大学出版会)も興味深い叙述に満ちているので、読むことを薦める。

授業コード	A9121		
授業科目名	特設科目Ⅱ(社会生活と倫理)(1クラス)(前)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、黒田忠史(クロダ タダブミ)、中山弘隆(ナカヤマ ヒロタカ)、林 満男(ハヤシ ミツオ)、小島修一(コジマ シュウイチ)、宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)、山崎俊輔(ヤマサキ シュンスケ)、中井伊都子(ナカイ イツコ)、柳原初樹(ヤナギハラ ハツキ)、笹倉香奈(ササクラ カナ)、高阪 薫(タカサカ カオル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	2009年度以降入学生のみ受講できる。		
オフィスアワー	木曜日12時15分から50分まで谷口研究室(10号館6階)。		

講義の内容	本特設講義Ⅱは、平生鈺三郎の建学精神である徳育・体育・知育を学生生活に活かすために、一年次を対象に開講する。入学後、学生として自由を享受しつつ、規律ある学生生活を送るために、さまざまな学問分野の立場から、それぞれが持っている現実的な倫理問題を分かりやすく解説して、学生生活の有意義な過ごし方と社会人として通用する生活態度を探る。
到達目標	平生精神のもとで、大学生活における倫理的マナーを身につける。
講義方法	各講師が、それぞれのテーマについて約75分間講義し、残りの15分で小論文、感想、質問などを記述させることによって、理解度をチェックする。
準備学習	それぞれのテーマに応じた新聞記事やニュース、また新書本などを出来るだけ読んでおく。
成績評価	各講義で実施する「リアクション・ペーパー」(キーワードを使った小論文・感想・質問。必ずしも毎回ではない)の得点(各10点満点)を合計し、それを100点満点に換算して、90点以上を「秀」、80点台を「優」、70点台を「良」、60点台を「可」、60点未満を「不可」とする。
講義構成	(総論) 第1回 4月 9日 よりよく生きるための「自由と規律」(学長:高阪薫)

	第2回 4月16日 現代における倫理(谷口文章) (社会生活における倫理の役割) 第3回 4月23日 法と倫理(黒田忠史) 第4回 4月30日 経営と倫理(林満男) 第5回 5月7日 資本主義と倫理(小島修一) 第6回 5月14日 刑事法と倫理(笹倉香奈) 第7回 5月21日 情報社会と倫理(中山弘隆) 第8回 5月28日 科学・技術と倫理(宮澤敏文) (職業における倫理) 第9回 6月4日 医療と倫理(ゲストスピーカー:谷荘吉) 第10回 6月11日 法曹と倫理(ゲストスピーカー:園田寿) 第11回 6月18日 メディアと倫理(ゲストスピーカー:小関道幸) (現代社会における人権) 第12回 6月25日 地域社会・国際社会における人権尊重(中井伊都子) 第13回 7月2日 異文化交流と倫理(柳原初樹) 第14回 7月9日 スポーツと倫理(山崎俊輔)
教科書	特になし。
参考書・資料	甲南学園編『平生鈞三郎一人と思想一』(甲南学園、1999) 小川守正・上村多恵子『世界に通用する紳士たれー平生鈞三郎伝一』増補改訂版(燃焼社、2004) 平生鈞三郎『平生鈞三郎自伝』(名古屋大学出版会、1996) 池田潔『自由と規律』(岩波新書、初版1949) 星野英一『民法のすすめ』(岩波新書、1998) カント『永久平和のために』(池内紀訳、集英社、2007) 永田雅一『経営倫理』(日本経営倫理学会、同文館出版、2003) 鳥越皓之編『環境とライフスタイル』(有斐閣アルマ、1996) 湯浅誠『反貧困』(岩波新書、2008) ランディ・パウシュ他、『最後の授業 ぼくの命があるうちに』、(矢羽野 薫 翻訳、ランダムハウス講談社、2008)
担当者から一言	倫理に関する特設講義であるので、毎回休まず出席すること。授業中に、途中の入退出、私語、携帯電話の使用は控えること。

授業コード	A9122		
授業科目名	特設科目Ⅱ(社会生活と倫理) (2クラス)(後)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、黒田忠史(クロダ タダブミ)、中山弘隆(ナカヤマ ヒロタカ)、林 満男(ハヤシ ミツオ)、小島修一(コジマ シュウイチ)、宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)、津田信男(ツダ ノブオ)、山崎俊輔(ヤマサキ シュンスケ)、中井伊都子(ナカイ イツコ)、笹倉香奈(ササクラ カナ)、高阪 薫(タカサカ カオル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2009年度以降入学生のみ受講できる。		
オフィスアワー	木曜日12時15分から50分まで谷口研究室(9号館6階)		

講義の内容	本特設講義Ⅱは、平生鈞三郎の建学精神である徳育・体育・知育を学生生活に活かすために、一年次を対象に開講する。入学後、学生として自由を享受しつつ、規律ある学生生活を送るために、さまざまな学問分野の立場から、それぞれが持っている現実的な倫理問題を分かりやすく解説して、学生生活の有意義な過ごし方と社会人として通用する生活態度を探る。
到達目標	平生精神のもとで、大学生活における倫理的マナーを身につける。
講義方法	各講師が、それぞれのテーマについて約75分間講義し、残りの15分で小論文、感想、質問などを記述させることによって、理解度をチェックする。
準備学習	それぞれのテーマに応じた新聞記事やニュース、また新書本などを出来るだけ読んでおく。
成績評価	各講義で実施する「リアクション・ペーパー」(キーワードを使った小論文・感想・質問。必ずしも毎回ではない)の得点(各10点満点)を合計し、それを100点満点に換算して、90点以上を「秀」、80点台を「優」、70点台を「良」、60点台を「可」、60点未満を「不可」とする。
講義構成	(総論) 第1回 9月24日 よりよく生きるための「自由と規律」(学長:高阪薫) 第2回 10月1日 現代における倫理(谷口文章) (社会生活における倫理の役割)

	第3回 10月 8日 法と倫理(黒田忠史) 第4回 10月15日 刑事法と倫理(笹倉香奈) 第5回 10月22日 資本主義と倫理(小島修一) 第6回 10月29日 経営と倫理(林満男) 第7回 11月12日 情報社会と倫理(中山弘隆) 第8回 11月19日 科学・技術と倫理(宮澤敏文) (職業における倫理) 第9回 11月26日 医療と倫理(ゲストスピーカー:谷荘吉) 第10回 12月 3日 法曹と倫理(ゲストスピーカー:園田寿) 第11回 12月10日 メディアと倫理(ゲストスピーカー:小関道幸) (現代社会における人権) 第12回 12月17日 地域社会・国際社会における人権尊重(中井伊都子) 第13回 12月24日 異文化交流と倫理(津田信男) 第14回 1月 7日 スポーツと倫理(山崎俊輔)
教科書	特になし。
参考書・資料	甲南学園編『平生鈞三郎一人と思想一』(甲南学園、1999) 小川守正・上村多恵子『世界に通用する紳士たれー平生鈞三郎伝一』増補改訂版(燃焼社、2004) 平生鈞三郎『平生鈞三郎自伝』(名古屋大学出版会、1996) 池田潔『自由と規律』(岩波新書、初版1949) 星野英一『民法のすすめ』(岩波新書、1998) カント『永久平和のために』(池内紀訳、集英社、2007) 永田雅一『経営倫理』(日本経営倫理学会、同文館出版、2003) 鳥越皓之編『環境とライフスタイル』(有斐閣アルマ、1996) 湯浅誠『反貧困』(岩波新書、2008) ランディ・パウシュ他、『最後の授業 ぼくの命があるうちに』、(矢羽野 薫 翻訳、ランダムハウス講談社、2008)
担当者から一言	倫理に関する特設講義であるので、毎回休まず出席すること。授業中に、途中の入退出、私語、携帯電話の使用は控えること。

授業コード	A9130		
授業科目名	特設科目Ⅲ(ボランティア論)(前)		
担当者名	川中大輔(カワナカ ダイスケ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	<p>みなさんがこれまで生きてきた中で、社会的な問題に対して、「気になって仕方がない…」「私も何かせんでええんかな?」「これはほっとかれへん!」と思ったことはありますか。おそらく多くの方が一度は何かに対して、そういう思いをもたれたことがあるのではないのでしょうか。</p> <p>ボランティアとは、そうした「思い」を「動き」へと転化させ、自発的に課題解決行動をとる人々のことを指します。多くの方にとってボランティアは「自分が行なうもの」になりえるものです。ボランティアは決してごく一部の人間による限られた活動ではありません。しかし、実際にはまだまだ「自分が行なうもの」とはなっていません。なぜなのでしょう。</p> <p>ボランティア活動に取り組んでいる人は何をキッカケとして始めたのか。具体的にどのような「動き」をとっているのか。一体何を原動力として、喜びとして継続しているのか。社会的な意味や必要性はあるのか。本当に「わたし」がボランティアをしようののだろうか。ボランティアについて考え始めると、様々な疑問が湧いてくることでしょう。</p> <p>そこで、本コースでは、グループワークや講義、実践者からの事例発表などを通じて、そういった問いと向き合っていき、「ボランティアとは何か」を探求していきます。</p>
到達目標	<p>本コースでは、ボランティア活動の行動原理や社会的意義、日本社会における現状と課題について、具体的な事例を交えて説明できる程度まで理解することを目指します。そのことを通じて、家族や会社だけではなく社会関係を育むボランティア活動を自らのライフスタイルの一つにとり入れる際に円滑に実践できるようになることを目指します。</p>
講義方法	<p>・グループワークと講義とを複合して展開していきます。受講生のみなさんには、担当教員の出す問いかけに対して、グループで意見を出し合っ、全体発表をしていただきます。そうした発表内容を受けながら、講義を提供していきます。</p>

	・教科書は、授業中に適宜内容を紹介する他、期末レポート執筆時に素材として必ず用いてもらう形で活用します。
準備学習	・受講にあたって、特別な知識や経験は求めません。 ・ボランティア活動は「論じる」よりも「実行するもの」です。授業期間中に、少しでも興味が湧けば、インターネットでNPO・ボランティア団体を自分で調べてみたり、活動体験をしに行ってみましょう。
成績評価	授業参加態度および授業内課題(50%)、期末レポート(50%)
講義構成	第1回 「ボランティア」とは何か？ (ボランティアという言葉からイメージする) 第2回 私は社会とどうかかわるか？(1) (ソーシャルセンサーに気づく) 第3回 私は社会とどうかかわるか？(2) (ソーシャルアクションを考える) 第4回 ボランティア活動の特性とは？ (ボランティアの原則を考える) 第5回 ボランティアはどこで何をしているのか？ (ボランティアの実際を知る) 第6回 なぜボランティアが求められるのか？ (ボランティアの社会的意義を知る) 第7回 ボランティアのライフヒストリーを聴く(1) (実践事例からボランティアに接近する) 第8回 ボランティアのライフヒストリーを聴く(2) (実践事例からボランティアに接近する) 第9回 ボランティアのライフヒストリーを聴く(3) (実践事例からボランティアに接近する) 第10回 なぜボランティアをするのか？ (ボランティア活動がもたらすものを考える) 第11回 なぜボランティアをしないのか？ (ボランティア活動への障壁を考える) 第12回 ボランティアはどうすれば広がるか？ (ボランティアするチャンスをつくる) 第13回 ボランティアの今日的課題は？ (ボランティア活動の歴史と未来を知る) 第14回 ボランティアにまつわる疑問は？ (ボランティアの不思議を解く) 第15回 改めて、「ボランティア」とは何か？ (本コースの学びを整理する)
教科書	加藤哲夫『市民の日本語』(ひつじ市民新書、2002年)
参考書・資料	金子郁容『ボランティア』(岩波新書、1992年)、J.リップナック+J.スタンプス『ネットワーキング』(プレジデント社、1984年)、上田紀行『覚醒のネットワーク』(講談社+α文庫、1997年)、森口秀志編『これがボランティアだ!』(晶文社、2001年)、ケン・アレン『ボランティアが変える世界』(アルク、1998年)、大阪ボランティア協会監修『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』(中央法規出版、1997年)、早瀬昇『元気印ボランティア入門[増補版]』(大阪ボランティア協会、1995年)、興梠寛『希望への力』(光生館、2003年)、渡辺一史『こんな夜更けにバナナかよ』(北海道新聞社、2003年) その他、授業内に適宜紹介する。
担当者から一言	「なんでそんなにボランティアしてるん？」 高校時代に誘われるままに始めたボランティア活動。大学時代はボランティア活動が中心にある学生生活を

	<p>送りました。その間、周囲の友人からさんざん問われたのが上記の問いかけ。ボランティア活動になぜ私は惹きつけられてしまったのか。その実際の体験も手がかりにしつつ、ボランティア活動に宿る魅力と魔力とは何か、明らかにしていきます。</p> <p>もちろん、みなさんがボランティアをするもしないも自由。とはいえ、「しない」にしても、どのような「おもしろさ」があるのかは知った上で判断した方が良いでしょう。一緒に「おもしろさ」の探求と吟味、しませんか？</p>
その他	<p>・グループワーク等の参加型の形式も用いて授業を進めていくため、積極的かつ協力的な参加と、自分の頭で考える力が求められます。また、参加型の授業では途中からの参加が難しいため、遅刻・欠席をしないよう、強く求めます。</p> <p>・現在、ボランティア活動をされている方や、今後ボランティア活動に参加する意志のある方の受講は大いに歓迎します。担当教員がNPO職員ということもあり、希望者には(新たな)活動先の紹介も行えます。</p>
ホームページタイトル	シチズンシップ共育企画(担当教員所属NPO)
URL	http://homepage2.nifty.com/citizenship/

授業コード	A9141		
授業科目名	特設科目IV(甲南大学と平生鈺三郎)(1クラス)(前)		
担当者名	安西敏三(アンザイ トシミツ)、草野正裕(クサノ マサヒロ)、有村兼彬(アリムラ カネアキ)、藤本建夫(フジモト タテオ)、杉村芳美(スギムラ ヨシミ)、廣山謙介(ヒロヤマ ケンスケ)、上村多恵子(ウエムラ タエコ)、瀧口剛(タキグチ ツヨシ)、諸岡知徳(モロオカ トモノリ)、眞島宏明(マジマ ヒロアキ)、高阪 薫(タカサカ カオル)、吉沢英成(ヨシザワ ヒデナリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以前入学生のみ受講できる。		
オフィスアワー	講師と相談すること		

講義の内容	甲南大学の母体であった旧制甲南高等学校の創設に尽力した平生鈺三郎の生涯と事業、さらに新制甲南大学をも含めて、甲南を巣立っていった人材に焦点を当て、改めて甲南大学の建学の精神と教育理念、さらには伝統を認識し、甲南大学で学ぶことの意味を考える。		
到達目標	平生鈺三郎の人なり思想、及び甲南大学の由来についての知識を最低限もってもらうことを目標とする。		
講義方法	一コマ一コマ担当者が変わるリレー方式。		
準備学習	配布済みの甲南学園編『新 平生鈺三郎のこぼれ』(甲南学園)を読んでおくこと。		
成績評価	各講義で実施する「リアクション・ペーパー」(キーワードを使っての小論文・感想・質問の記述。必ずしも毎回ではない。)の得点(各10点満点)を合計し、それを100点満点に換算して、90点以上を「秀」、80点台を「優」、70点台を「良」、60点台を「可」、60点未満を「不可」とする。		
講義構成	第1回(4月9日) 甲南大学で学ぶ(学長・高阪薫)(安西敏三) 第2回(4月16日) 甲南が生んだ財界人(廣山謙介) 第3回(4月23日) 平生鈺三郎の社会的偉業の概要と甲南OBからのメッセージ(眞島宏明) 第4回(4月30日) ブラジル綿と平生鈺三郎(草野正裕) 第5回(5月7日) 平生鈺三郎と政財界(瀧口剛) 第6回(5月14日) 平生鈺三郎の人生観(上村多恵子) 第7回(5月21日) 第一次世界大戦下の平生鈺三郎(藤本建夫) 第8回(5月28日) 平生鈺三郎と新聞事業(諸岡知徳) 第9回(6月4日) 平生鈺三郎と六甲山(杉村芳美) 第10回(6月11日) 平生鈺三郎とブラジル(ゲストスピーカー:栗田政彦)(安西敏三) 第11回(6月18日) 東京海上時代の平生鈺三郎(ゲストスピーカー:高田博次)(安西敏三) 第12回(6月25日) 甲南が生んだ知の巨人一戦後啓蒙と内田義彦一(安西敏三) 第13回(7月2日) 平生鈺三郎と漢字廃止論(有村兼彬) 第14回(7月9日) 甲南大学生として(理事長・吉沢英成)(安西敏三)		
教科書	教科書はリレー講義のため、使用しないが、甲南学園編『新 平生鈺三郎のこぼれ』(甲南学園)は読んでおくこと。		
参考書・資料	その都度、紹介する。		
講義関連事項	甲南学園編『平生鈺三郎日記』第一巻(甲南学園)が刊行されるので、読むことを薦める。また『平生鈺三郎自伝』(名古屋大学出版会)も少青年時代の平生を知る上で興味深い文献であるので、読むことを薦める。		

授業コード	A9142		
授業科目名	特設科目IV(甲南大学と平生鈇三郎)(2クラス)(後)		
担当者名	安西敏三(アンザイ トシミツ)、草野正裕(クサノ マサヒロ)、藤本建夫(フジモト タテオ)、杉村芳美(スギムラ ヨシミ)、廣山謙介(ヒロヤマ ケンスケ)、奥田 敬(オクダ タカシ)、上村多恵子(ウエムラ タエコ)、瀧口 剛(タキグチ ツヨシ)、諸岡知徳(モロオカ トモノリ)、眞島宏明(マジマ ヒロアキ)、高阪 薫(タカサカ カオル)、吉沢英成(ヨシザワ ヒデナリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	2008年度以前入学生のみ受講できる。		
オフィスアワー	講師との相談の上		

講義の内容	甲南大学の母体である旧制甲南高等学校の創設に尽力した平生鈇三郎の生涯と事業、さらに新制甲南大学をも含めて、甲南を巣立っていった人材に焦点をあて、改めて甲南大学の建学の精神と教育理念、さらには伝統を認識し、甲南大学で学ぶことの意味を考える。
到達目標	甲南大学の歴史とその教育理念を創設者平生鈇三郎の生涯を最低限、修得することを目標とする。
講義方法	一コマ一コマ担当者が変わるリレー方式
準備学習	配布済みの甲南学園編『新 平生鈇三郎のことば』(甲南学園)を読んでおくこと
成績評価	各講義で実施する「リアクション・ペーパー」(キーワードを使っての小論文・感想・質問の記述。必ずしも毎回ではない。)を合計し、それを100点満点に換算して、90点以上を「秀」、80点台を「優」、70点台を「良」、60点台を「可」、60点未満を「不可」とする。
講義構成	第1回(9月24日) 甲南大学で学ぶ(学長・高阪薫)(安西敏三) 第2回(10月1日) 甲南が生んだ財界人(廣山謙介) 第3回(10月8日) 平生鈇三郎の社会的偉業の概要と甲南OBからのメッセージ(眞島宏明) 第4回(10月15日) ブラジル綿と平生鈇三郎(草野正裕) 第5回(10月22日) 東京海上時代の平生鈇三郎(ゲストスピーカー:高田博次)(安西敏三) 第6回(10月29日) 平生鈇三郎の人生観(上村多恵子) 第7回(11月12日) 第一次世界大戦下の平生鈇三郎(藤本建夫) 第8回(11月19日) 平生鈇三郎と新聞事業(諸岡知徳) 第9回(11月26日) 平生鈇三郎と時代精神(安西敏三) 第10回(12月3日) 平生鈇三郎と政財界(瀧口剛) 第11回(12月10日) 甲南が生んだ知の巨人一戦後啓蒙と内田義彦一(奥田敬) 第12回(12月17日) 平生鈇三郎と六甲山(杉村芳美) 第13回(12月24日) 甲南大学生として(理事長・吉沢英成) 第14回(1月7日) 平生鈇三郎とブラジル(ゲストスピーカー:栗田政彦)(安西敏三)
教科書	講師ごとに異なるので教科書は使用しないが、甲南学園編『新 平生鈇三郎のことば』(甲南学園)は読んでおくこと。
参考書・資料	講義ごとのその都度紹介する。
講義関連事項	甲南学園編『平生鈇三郎日記』(甲南学園)が第一巻から随時、刊行されるので、読むことを薦める。また平生の青春時代を描いた『平生鈇三郎自伝』(名古屋大学出版会)も興味深い叙述に満ちているので、読むことを薦める。

授業コード	A6250		
授業科目名	都市環境論(前)		
担当者名	今井佐金吾(イマイ サキンゴ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
講義の内容	戦後のわが国の急速な近代化に伴う公害問題の発現から、現在の環境問題に至るまでを振り返るとともに、		

	近年益々、広域化、多様化してきた都市生活型環境問題、都市の大気汚染、及び都市の水質汚濁について具体的事例を交えながら解説する。また、これらの環境汚染質に係る常時監視体制についても学習する。一方、環境保全のための国、地方自治体の行政施策の経過と現状等について解説する。さらに、わが国の環境問題に影響を及ぼす可能性があるアジア地域・近隣国の環境汚染の現状についても検討する。
到達目標	国、及び地方自治体による生活環境保全対策の実情が理解できる。併せて個人としての環境保全への取組みについて考えるきっかけとなる。
講義方法	授業内容の区切り毎に、質問を受け付けます。 また、随時小テストを実施します。 9回目以後に「廃棄物と化学物質汚染対策」をテーマにレポートを課す。
準備学習	授業に先立ち随時配布する資料を熟読しておいてください。授業後には毎回ノートの整理を必須とし、学期末に提出すること。
成績評価	出席(10%)、レポート及び小テスト(30%)、そして期末試験を60%に評価し、60ポイント以上を獲得した者に単位を認定する。
講義構成	1回目 都市生活型環境問題の概要 2回目 環境保全行政に係る根拠法、および地方自治体の環境条例の概要 3回目 大気汚染防止法、水質汚濁防止法、農薬取締法など 4回目 水質汚濁防止法(公共用水域の監視、工場排水の規制など) 6回目 大気自動連続監視体制(一般環境大気、自動車排ガスなど) 7回目 同 上 8回目 多様な汚染質による大気汚染調査 (1)酸性雨・霧 9回目 (2)有害大気汚染物質モニタリング調査 10回目 多様な汚染質による水質汚濁調査 (1)公共用水域(海域、河川)モニタリング調査 11回目 (2)工場排水 12回目 廃棄物と化学物質汚染対策 13回目 ダイオキシン類及び、環境中ホルモン様化学物質対策。 14回目 アスベストによる環境汚染 15回目 全体のまとめ
教科書	随時資料を配付する。また映像資料も活用する。
参考書・資料	T.G.スピロ他、「環境の科学」、学会出版センター 日本化学会編、季刊化学総説10「大気の化学」、学会出版センター 環境省編、「環境白書」、株式会社ぎょうせい
講義関連事項	テキストを指定しないので、ノートは確実にとること。 出席は2/3以上の比率を要件とする。

授業コード	A7130		
授業科目名	トレーニング論(後)		
担当者名	山崎俊輔(ヤマサキ シュンスケ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	トレーニングは体カトレーニング・技術トレーニング・戦術トレーニング・意志(メンタル)トレーニング・理論トレーニングの5つに分類され、トレーニング論ではこれらの概要を知ると共にそれぞれに含まれる各種のトレーニング法やトレーニングの原則についても学んでいく。 加えてメンタルトレーニングを中心にトップアスリートが実際に行っているトレーニング法やトレーニング処方を紹介し、これについても考える。また、「人生80年時代と言われる現在の「過度のストレス」「運動不足」「生活習慣病問題」等にも焦点をあて、健康の維持増進をはかり、より積極的な日常生活・人生を送る為の生涯スポーツや運動処方についても考察する。
到達目標	自分自身で健康管理ならび、トレーニング処方が実践でき、心身とも健康でたくましく生きるための知恵と実践力を養う。

講義方法	講義形式
準備学習	学習した知識を、教養として身につけるばかりではなく、実生活やトレーニングの現場で役に立てるよう務める。
成績評価	レポート点(出席点)と期末試験の成績を合わせて評価する。
講義構成	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 メンタルトレーニング法 第3回 メンタルトレーニング法 第4回 イメージトレーニング法 第5回 イメージトレーニング法 第6回 心と脳について 第7回 ストレス、リラクゼーション法について 第8回 健康について(養生訓など) 第9回 疲労の原因と対処法について 第10回 運動と栄養について 第11回 体力について 第12回 トレーニング効果と方法 第13回 トレーニング効果と方法 第14回 まとめ 第15回 試験</p> <p>講義の進展具合によっては多少変更する事がある。</p>
教科書	特になし。
参考書・資料	特になし。
担当者から一言	これからの自分の身心の健康について興味があるという人、各自のスポーツ競技力を伸ばしたい人等のためになるような授業を展開していきたいと思っています。

授業コード	A4110		
授業科目名	日本研究(後)		
担当者名	木場貴俊(キバ タカトシ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
講義の内容	時代劇から歴史を読む2:日本独自の文化的表現である時代劇を用いながら、実際の歴史との比較などを通して、さまざまな問題を考える。2009年度「日本文化の諸相(後)」で行った講義を引き継いだ形式で行う。		
到達目標	現代ではあまり馴染みが薄くなってきた時代劇とそれに関連する知識を学ぶことで、日本文化についてより深い理解を得る。		
講義方法	講義形式で進める。		
準備学習	特に必要ないが、事前に時代小説(歴史小説)や時代劇に接してもらおうとよい		
成績評価	毎回出席を兼ねた感想(40%)とレポート(60%)によって評価する。		
講義構成	<p>1 時代劇とは 2 犯罪 3 刑罰 4 天保の改革 5 武士道 など</p>		
教科書	プリントにて配布。		
参考書・資料	講義で別途指示。		

授業コード	A3121
-------	-------

授業科目名	日本国憲法(1クラス)(前)		
担当者名	山口 智(ヤマグチ サトル)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	いくつかの論点から日本国憲法の運用を説明する。
到達目標	世の中で起こるさまざまな事件や問題を、憲法との関連で理解できるようになること。
講義方法	板書と口頭での説明による。
準備学習	予習というより復習が大事である。ノートやプリントを読み返したり、関連する本を読んで、講義で聞いたことを頭の中で整理しておくこと。
成績評価	期末試験による。基本的な概念の理解を問う。
講義構成	<p>*時間の関係で内容を変えることもある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法という言葉 2. 海を渡る自衛隊:「国際貢献」の諸相 3. 平等と家族 4. 職場の男女平等:雇用機会均等法 5. 表現の自由とプライバシー 6. 生活保護の現状と生存権 7. 市町村合併と地方財政危機 8. 子供と学校 9. 犯罪捜査と刑事裁判
教科書	教科書は使わない。資料はプリントを配布する。
参考書・資料	<p>1)入門書 松井茂記『日本国憲法を考える(第2版)』大阪大学出版会 加藤一彦『教職教養憲法15話』北樹出版</p> <p>2)標準的な憲法学の勉強をする場合に良い本 芦部信喜・高橋和之『憲法(第4版)』岩波書店 渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法1人権・2統治(第4版)』有斐閣(近刊予定) 法学教室増刊『憲法の基本判例(第2版)』有斐閣 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ(第5版)』有斐閣 大石眞・石川健治(編)『憲法の争点』有斐閣</p>

担当者から一言	ニュースや新聞から、社会問題に関心を持ってほしい。また、言うまでもないことだが、教室は勉強をする場所であり、友達としゃべるところではない。
---------	---

授業コード	A3122		
授業科目名	日本国憲法(2クラス)(後)		
担当者名	横内 恵(ヨコウチ メグミ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	わが国の憲法に関する重要な論点について、具体的な事例(判例)に触れながら、基本的事項を解説する。(この授業では憲法に関する問題を網羅的に取り扱うことはできないため、以下の分野に限定する。)
到達目標	人権の機能や人権についての基本的な思考枠組みを、具体例をふまえながら理解するとともに、基礎的知識を習得する。また、憲法の基本原理と、社会におけるその働きを統治機構の分析を通じて理解するとともに、基礎的知識を習得する。
講義方法	レジュメや参考資料を配布し、講義形式で授業を行う。ディスカッションは行わないが、場合によっては発言を求める可能性がある。(その場合、発言内容は成績評価の対象とはしない。)
準備学習	授業の復習を行うことを強く推奨する。

成績評価	期末試験(70%)、ならびに、小テストによる。授業中に質問カードを配布し、その提出率や内容を成績評価に反映させる可能性がある。期末試験だけで単位を取得することは困難である。小テストは、授業中(第7回～第9回のうちいずれか1回)に実施する予定である。
講義構成	第1回 オリエンテーション、憲法に関する基礎知識 第2回 基本的人権の原理、違憲審査制 第3回 特殊な法律関係における人権 第4回 私人の間における人権 第5回 表現の自由 第6回 信教の自由と政教分離 第7回 経済的自由 第8回 生存権 第9回 幸福追求権 第10回 国民主権と権力分立 第11回 国会 第12回 内閣 第13回 裁判所 第14回 法律と条例 第15回 試験
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	必要に応じて、授業中に紹介する。

授業コード	A5330		
授業科目名	日本語の諸相(後)		
担当者名	中島孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	木曜日 14:40～16:10		

講義の内容	日常一般に使われる日本語を題材にしながら、現代日本語のさまざまな側面について考察する。ありのままに日本語をみたとき、そこにどのような法則性が見出せるか、受講者それぞれに考えてもらう。また、日本語らしさとは何か、外国語学習とはどういうことか等について、多方面から検討して学び取る。外国人への日本語教育という点を念頭におきながら講義を進める。
到達目標	日本語について多方面から考察し、ことばの規則性に気づくこと。
講義方法	教科書と配布プリントに沿って講義を進める。
準備学習	扱うテーマに関し、日頃の日本語使用を観察することによって、実態を把握しておく。
成績評価	学期末の筆記試験。出席も重視する(毎回、出席票うらに講義に関する質問、意見等のコメントを必ず記入してもらう)。
講義構成	次のようなテーマについて講義を進める。一つのテーマにつき3～4回の講義時間を当てる。 (1)日本語の音と形 (2)日本語の文法 (3)日本語らしい表現 (4)日本語の変化と多様性
教科書	『やさしい日本語のしくみ』庵功雄、日高水穂、前田直子、山田敏弘、大和シゲミ著(くろしお出版)
参考書・資料	授業中に指示する
講義関連事項	日本語学・言語学に関わる各科目
担当者から一言	この講義に出席する際には、内容を覚えるのではなく、自分の頭を使って考えたり分析したりすることに重点をおいてください。
その他	意欲的な参加を望みます。

授業コード	A5150
-------	-------

授業科目名	認知科学 (前)		
担当者名	新居住子(アライ ヨシコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	認知科学は、人間の「知」のしくみを明らかにしようとする、諸学問の学際領域である。本講義では、おもに認知心理学によるアプローチを扱い、わたしたちが普段なにげなく行っている思考や言語をテーマとする。また、認知の発達についても取り上げる。これらの中で、人工知能や、進化と文化についても触れる予定である。
到達目標	人間の「知」について、おもな研究を知り、考察できるようになる。
講義方法	基本的に講義によるが、簡単なデモンストレーション実験、視聴覚教材、質疑応答などを適宜、取り入れる。知識の体系的理解が必要なので、前回までの内容を前提として授業を進める。
準備学習	関連情報に広く親しむこと。授業プリント類の予習・復習。 授業の内容を自分の日常や専門と照らし合わせて考えること。
成績評価	受講人数により決定する。 (出席、質問・感想等、3000字程度のレポート、記述式試験など)
講義構成	認知科学とは 思考 問題解決、意思決定、確率判断、推論 言語 生成文法、語用論 心の理論 認知発達
教科書	特に指定しない(適宜プリントを配布)。
参考書・資料	授業中に紹介する。
担当者から一言	人間の「知」について考えることのおもしろさを感じて下さい。

授業コード	A5340		
授業科目名	比較文化 (後)		
担当者名	黒川正剛(クロカワ マサタケ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	西ヨーロッパの歴史・文化のなかのいくつかのトピックを軸にしながら、日本との比較を試みます。一見すると、地域や文化を超えて普遍的に当てはまると思われることがらが、視点の置き方によって異なる様相を見せることを学んでいきます。歴史の中からトピック・事例をとりあげます。具体的なトピック: 死生観、女性観、他者観
到達目標	自分が生きている現代という時代、日本という地域・社会、そしてその文化だけを絶対視することのない、複眼的なもの見方や考え方を身につけることを目指します。たとえば、死は生き物であれば、免れえないものですが、そのとらえ方は時代・地域・文化によって多様です。西洋中世の人々はどのように死後の世界をイメージしていたのでしょうか。一方、同時代の日本の人々はどうだったのでしょうか。類似点とともに、相違点が見えてくるはず。そして現代に生きる私たちとの相違点とともに類似点も見いだせるでしょう。
講義方法	講義形式で行います。
準備学習	高校までの世界史、なかでも西洋史分野と、日本史の基本知識があると、より一層講義内容が理解できます。講義後に、高校時代の教科書や参考書をひもとき、講義関連箇所を確認することもおすすめします。
成績評価	10回以上(全15回授業のうち、3分の2以上)出席しない場合は、成績を評価しません。 3回遅刻した場合は、1回欠席と勘定します。 定期試験60%、レポート40%で成績を評価します。 下記項目「その他」も参照してください(授業態度に関わる減点)。

講義構成	<p>第1回 西洋と日本: 自然観の問題</p> <p>第2回～第3回 二つの文化における宗教観の諸相</p> <p>第4回～第5回 西洋中世の死生観</p> <p>第6回 ルネサンス期における死生観</p> <p>第7回～第8回 日本における死生観(歴史なかの事例をとりあげる)</p> <p>第9回～第10回 西洋前近代の女性観</p> <p>第11回～第12回 西洋近代の女性観</p> <p>第13回～第14回 日本における女性観(歴史のなかの事例をとりあげる)</p> <p>第15回 比較文化と他者の問題</p>
教科書	使用しません。
参考書・資料	授業の中で、紹介していきます。
講義関連事項	日本との比較の対象として西洋、西ヨーロッパをとりあげる一つの理由は、私の専門が西洋史・西洋文化研究であることですが、これよりも重要な理由は、西洋文化、西ヨーロッパの文化が日本に多大な影響を与えてきたからです。西洋文化のいろいろな面を知ること、日本文化を知ることにもつながるのです。そのような視点を、受講生の皆さんももってくれればと思います。
担当者から一言	異なる時代や地域に生きてきた人々やその文化に関心を持ち、眼差しを注ぐこと、それはひいては自分(たち)に対する理解にもつながります。素朴な驚きの気持ちを大切に、"文化の比較"に取り組んでみてください。
その他	<p>授業中の私語、携帯電話の使用に関しては非常に厳しく対応します。</p> <p>減点の形で、成績評価にも反映させますから、十分に注意して授業を受けてください。</p>
ホームページタイトル	黒川正剛研究室
URL	http://www015.upp.so-net.ne.jp/kurokawa2009/

授業コード	A7340		
授業科目名	福祉と経済(前)		
担当者名	小林 均(コバヤシ ヒトシ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	在校中随時		

講義の内容	少子・高齢社会を迎えるにあたって、高齢者の生活を支える年金、介護(福祉)、医療を統合的・総合的なシステムとして構築することが焦眉の課題である。そのシステムを多方面にわたり中心になって支えるのが現役世代であり、そのシステムが維持可能になるには現役世代に強い負担が適正なものでなくてはならない。年金・介護・医療の経済学を通して、いかなるシステムが望ましいかを考察することが本講義の目的である。
到達目標	<p>経済学部の教員担当の広域の授業です。</p> <p>1. 年金、医療、介護の制度の概略を理解する。</p> <p>2. 各制度の抱える問題点を把握する。</p> <p>3. 上記問題点の把握、解決に対する経済学的アプローチとは何かを知る。</p> <p>以上3つについて、どれだけ達成できるか、教える側、と 学生諸君にとっての課題です。</p>
講義方法	講義形式で、講義のノート(図、表を含め)配布する。板書で補足説明を行う。
準備学習	<p>1. 第1回目の講義で、講義全体の内容について話します。</p> <p>2. 毎回の講義の最後に、次回の講義のテーマについて話しますので、注意深く聞いてください。</p> <p>3. この講義は、「社会保障の経済学」小塩隆士著(日本評論社)をベースに、ノートを作成しています。著書そのものはレベルが高いですが、どういう話であるかはわかりますので、講義前に図書館等で目を通していただくと、より理解しやすいと思います。</p>

	4. 普段から、新聞、TVで年金、医療、介護について関心を持って、読み、聞いてください。
成績評価	出席はとらず、試験期間中の試験を行い評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義全体のはなし 2 社会保障とは何か① 3 社会保障とは何か② 4 社会保障と国民負担 5 年金の経済学① 6 年金の経済学② 7 公的介護保険の経済学① 8 公的介護保険の経済学② 9 公的介護保険の経済学③ 10 医療の経済学① 11 医療の経済学② 12 医療の経済学③ 13 年金改革の方向 14 高齢者医療制度改革 15 介護制度の現状と見直し
教科書	特別、教科書は使用しません。 講義ノートを配布しますので、それによってしっかりと内容等を理解して下さい。
参考書・資料	この講義は、「社会保障の経済学」小塩隆士著(日本評論社)をベースに、ノートを作成しています。 著書そのものはレベルが高いですが、どういう話であるかはわかりますので、事前に目を通していただくとよいと思います。
担当者から一言	これで社会保障を経済学の視点から見た問題点がかかなりわかると思います。試験は、講義の中から出しますので、配布資料をしっかりと理解し、対応して下さい。

授業コード	A1320		
授業科目名	物理学(後)		
担当者名	水野健一(ミズノ ケンイチ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	水曜日午後		

講義の内容	物理現象は最も基本的な現象である。それは日常生活の中で何時でも何処でも起こっている。我々の生活にはこれらの基本法則を無意識の内に利用している。身近な例を捉え物理学の基本的な考え方や概念を説明する。
到達目標	基本的な物理法則を知り、日常生活の中で如何に活用されているかを理解する。
講義方法	板書とプロジェクターにより講義を進める。
準備学習	極身近な所に存在する法則を知り、それを楽しむ心を養うこと。
成績評価	期末試験(持ち込みなし:50分)の結果(80%)と宿題や小テスト(不定期)(20%)を加算して評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 第 1回 はじめに 第 2回 力と運動:速度、等加速度直線運動 第 3回 力と運動:運動の法則 第 4回 力と運動:摩擦、円運動 第 5回 力と運動:力のつりあい 第 6回 力と運動:仕事 第 7回 熱 第 8回 波動 第 9回 静電界 第10回 静電界 第11回 電流と磁界 第12回 電流と磁界 第13回 電子と原子 第14回 まとめ

	第15回 試験
教科書	なし
担当者から一言	暗記より理解を優先させるべし。

授業コード	A4310		
授業科目名	物理学と国際化(前)		
担当者名	宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)、梶野文義(カジノ フミヨシ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	講義終了後30分間		

講義の内容	<p>20世紀における核エネルギーの解放は、人類史上最大の出来事のひとつであり、人類にとって「兵器」と「エネルギー源」という、戦争と平和利用の2つの側面を持っている。原爆製造計画「マンハッタン計画」、原子力発電、核不拡散条約を通して、現代社会の核問題を考える機会としたい。(宇都宮)</p> <p>20世紀に入って物理学は大きな進展をとげた。このマイナス面の象徴は原爆というもので表せるかもしれないが、プラス面を考えると現代のあらゆる科学技術の基礎となっている。このような物理学は初の国際賞である「ノーベル賞」と共に発展し、「アインシュタイン」が活躍した時代には大きな変革を遂げた。また現代の物理学はその多様性と大型化から必然的に国際化を余儀なくされている。このような国際化は宇宙や素粒子分野で著しい。以上の様なテーマで物理学を国際化という観点から考える。授業では液晶プロジェクタおよび関連ビデオを用い、難解と思われるがちな物理学を違った観点から視覚的にとらえてみたい。(梶野)</p>
到達目標	<p>次のことが理解できるようになる。(宇都宮)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原子爆弾の物理的原理と開発の経緯 2. 核不拡散、核廃絶に向けた国際的取組 3. 原子力発電の原理、現状および将来象
講義方法	My Konanに講義資料を置く。液晶プロジェクタおよびビデオを用いて講義を行なう。必要に応じて板書する。
準備学習	毎日、新聞に目を通し、核をめぐる国際的な情勢と原子力発電に関する記事を読むこと(宇都宮)。
成績評価	講義中に課すレポートと期末試験で総合的に評価する。期末試験は持ち込み可で行う。期末試験を受けない場合は欠席とする。
講義構成	<p>第1回 宇宙と素粒子分野の国際化 (梶野)</p> <p>第2回 ノーベル賞の成立過程 (")</p> <p>第3回 ノーベル賞各賞と物理学 (")</p> <p>第4回 アインシュタインの時代と物理学(1) (")</p> <p>第5回 アインシュタインの時代と物理学(2) (")</p> <p>第6回 アインシュタインの時代と物理学(3) (")</p> <p>第7回 まとめ (")</p> <p>第8回 2009年の核不拡散・核廃絶をめぐる国際情勢について (宇都宮)</p> <p>第9回 核不拡散条約と包括的核実験禁止条約 (")</p> <p>第10回 核分裂の発見とマンハッタン計画 (")</p> <p>第11回 マンハッタン計画と広島・長崎への原爆投下 (")</p> <p>第12回 放射線の人体に及ぼす影響 (")</p> <p>第13回 原子力発電所と安全性、核燃料のリサイクル (")</p> <p>第14回 まとめ2 (")</p> <p>第15回 試験</p>
教科書	My Konanに置く講義資料と新聞に載る核関連記事
参考書・資料	<p>「原子力がひらく世紀」(社)日本原子力学会編</p> <p>原爆開発から核不拡散、核廃絶を扱った本は非常にたくさんあります。どれでも興味のある本を1冊読んでみてください。また、毎年、核に関する記事が新聞紙上ににぎわします。このような新聞記事に注目してください。アインシュタインは最も有名な科学者の一人ですので、多くの資料がすぐに見つかります。多くのエピソードの持ち主ですので授業で取り上げたことをより深く調べてみてください。</p>
担当者から一言	人文社会系の人には、最後に物理を勉強したのは中学生の時という場合が多いかもしれませんが。そうであるなら大学が物理学に触れる本場に最後の機会となるかもしれないので、物理は難しすぎると最初からあきらめな

	いぜひ挑戦してほしい。原子爆弾の物理的原理と概念を数式を使わないで理解し、原子力発電の現状、国際社会における核の問題とは何かを理解してもらえよう講義をしたいと思います。(宇都宮) 最近、日本人がノーベル賞を毎年またはダブル受賞するなど関心が大いに高まってきました。ノーベル賞や20世紀に代表される科学者であるアインシュタインを通して、文系の学生諸君でも物理学および基礎科学に対する関心をもつような講義をしたいと思います。(梶野)
--	---

授業コード	A5350		
授業科目名	文化記号論(後)		
担当者名	森 匡史(モリ マサフミ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	人間は記号なくして生きていけない。この講義では、現代記号論の出発点となっているパースとソシュールの記号論から始めて、記号とは何か、記号にはどんな種類があるか、記号は文化の中でどのような役割を果たしているか、最も発達した記号である言語はどのような特質を持っているかなどを考える。
到達目標	到達目標: 記号というものの性格と諸相、記号が文化において果たしている機能について説明することができる。
講義方法	通常の方式で行なうが、講義中に何度か小テストを実施する。
準備学習	準備学習: 挙げた参考図書に親しむこと。
成績評価	講義中のテストと期末試験との結果で評価する。
講義構成	第1章 はじめに 第2章 記号論前史(ギリシャから19世紀まで) 第3章 パースの記号論 第4章 ソシュールの記号論 第5章 記号の種類 第6章 記号論から見た人間の言語 第7章 記号に関する哲学的諸問題 第8章 まとめ
教科書	使用しない。
参考書・資料	エーコ著・谷口訳『記号論入門』(而立書房)

授業コード	A1150		
授業科目名	文学(後)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	メール連絡で日時を確認してからいつでもお越しください。		

講義の内容	イギリス産業革命以来の社会動向をえて、大英帝国の出現から衰退に至る時代推移を、ツーリズムという視座を中心におき、イギリス文化・文学の変遷を中心に検討していきたい。
到達目標	事象をたんに出来事として理解するのではなく、事象と事象の関連・関係を検討できる思考力を養うところに講義の到達目標をおきます。論理的に考え、着実に結論を出す思考法を育みましょう。
講義方法	講義が一方向的にならないように、たえず理解度を確認しながら進めていきます。受講者は当然、前向きな態度が求められます。講義は両者の参加があって初めて成立するものだからです。お互い授業を活性化するために尽力しよう。
準備学習	あらかじめ講義の範囲を予告しますので、問題点を挙げ、問題の所在を考えて講義に参加してください。

	予習の過程で考える喜びを体験できるようにしよう。教科書や参考文献を読んでもらうだけで準備ではない。
成績評価	理解度確認のための小テスト、レポート提出などの平常点60点、後期試験40点の割合で評価します。
講義構成	1. グランド・ツアー 2. 風景の誕生—ピクチャレスク・ツアー 3. 歩行者の群れ 4. ロンドン・ツアー 5. 旅と文学
教科書	中島俊郎 『イギリスの風景—教養の旅から感性の旅へ』 (NTT出版、2007)
参考書・資料	講義の中で随時指定します。
担当者から一言	「文学」という従来の作品解釈にとらわれずに、歴史・社会・経済などの広い視野に「文学」を解き放ち、今一度、「文学」のもつ発信力をいっしょに確認していきましょう。

授業コード	A1220		
授業科目名	法学 (前)		
担当者名	三成美保(ミツナリ ミホ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	ドイツ語やフランス語では、「法」と「権利」は同じ言葉を用いる。日本語の「権利」は明治期の造語である。西洋の法伝統では、「司法」は「権利実現」のためのコミュニケーション手段である。授業では、「権利」を守るための法制度がどのように変化し、いかなる課題をかかえているかについて考える。とくに日本法に大きな影響を与えたドイツやアメリカと比較したい。第1部「司法の歴史」、第2部「戦後日本の司法」、第3部「21世紀司法へ」と順に論をすすめる。第1部では、フランス革命から国際軍事法廷までのもっとも重要な動きについて概観して問題点を明らかにする。第2部では、戦後日本の憲法と司法の特徴についてまとめる。第3部では、今後の課題となるべき話題をとりあげる。
到達目標	市民として知っておくべき法の基本知識と、あなたが「裁判員」になったときのために役立つ法的知識を習得してもらいたい。
講義方法	授業ではパワーポイントを利用する。DVDや図版をはじめとして視覚資料を多用し、わかりやすい講義をこころがける。パワーポイント画面の主要部分はレジュメとして配布する。
準備学習	自覚的に新聞やテレビ等のニュースに目を通すようにしてください。
成績評価	学期末試験の成績を基本とし、平常点を加味する。平常点は、授業内容に関する簡単な確認ペーパー(テストではない)によって評価する。
講義構成	1 序: 法文化の比較(「権利」は明治期フランス民法典翻訳時の造語である) 2 司法の歴史(1): ヨーロッパにおける陪審制と参審制について(裁判員制度との違い) 3 司法の歴史(2): 近代的な刑事裁判の特徴(糾問主義との違い) 4 司法の歴史(3): ナチスにおける「司法殺人」(民族裁判所) 5 司法の歴史(4) 戦後の国際軍事法廷(ニュルンベルク裁判・東京裁判): 「平和に対する罪」と「人道に対する罪」はどのように裁かれたか? 6 戦後日本の司法(1): 日本国憲法の成立 7 戦後日本の司法(2): 刑事裁判の基礎知識 8 戦後日本の司法(3): 松川事件(冤罪はどうして生じたのか?) 9 戦後日本の司法(4): 司法改革の比較(裁判所を「市民のサービス機関」とみなすドイツ司法改革はいかに進展したか? そのころ日本では?) 10 戦後日本の司法(5): 日本の法律家養成と司法制度改革(裁判員制度など) 11 21世紀司法へ(1): 死刑制度の現在(ほとんどの国は死刑廃止) 12 21世紀司法へ(2): ジェンダーと法(性犯罪をどう裁くか?) 13 21世紀司法へ(3): 少年犯罪(刑事責任の問い方) 14 21世紀司法へ(4): グローバリゼーションと犯罪(人身売買) 15 21世紀司法へ(5): 国際刑事法廷(紛争時の性暴力を裁く)
教科書	とくに指定しない。
参考書・資料	DVD『日本国憲法誕生』、DVD『東京裁判』、DVD『ニュルンベルク裁判・人民の裁き』、DVD『それでもボクはやってない』、最高裁の裁判員制度関連情報(映画を含む)。その他は授業中に指示する。

担当者から一言	前半は今につながる歴史的基礎、後半は今後のわたしたちに関わるもんを阿¥できるだけ現代的な問題を扱います。授業を聞いたうえで「自分で考える」能力を養ってください。
---------	--

授業コード	A2230		
授業科目名	法史(後)		
担当者名	黒田忠史(クロダ タダブミ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	火曜日12:10～12:50		

講義の内容	「法」、「議会(立法)」、「司法(裁判)」の観念と法制度の歴史的変遷について、東アジア(特に、日本)と西欧を比較し、その今日的意味を考える。
到達目標	古代から現代まで、東アジアと西欧の各所において成立した歴史的史実(法史料)についての知識を習得し、「法とは何か」という永遠の問題について考えられるようになること。
講義方法	要点をまとめたパワーポイントのスライドや配付資料、ビデオなどを使用しながら、講述する。
準備学習	My Konanに掲載する講義資料を事前にダウンロードし、読んでおくこと。
成績評価	基本的に、期末試験の成績で評価する。
講義構成	第1回 オリエンテーション(勉強方法、過去問解説、法史のトピック) 第2回 法の古層(ヘレニズムとヘブライズム) 第3回 古代法(1)(ローマ法) 第4回 (2)(律令法) 第5回 中世の「法書」 第6回 教会法 第7回 身分制的国制と三部会 第8回 立憲議会主義 第9回 近代市民法典の編纂 第10回 前近代の裁判制度 第11回 近代市民法典の成立 第12回 官僚制度の成立と弊害 第13回 司法への市民参加(陪審制と参審制) 第14回 裁判制度の改革:裁判員制度
教科書	特になし。
参考書・資料	黒田忠史著『西欧近世法の基礎構造』(晃洋書房、2003年) クヌート・W・ネル著、村上訳『ヨーロッパ法史入門』(東京大学出版会、1999年) H・シュロッサー、大木訳『近世私法史要論』(有信堂、1993年) 石部・笹倉共著『法の歴史と思想』(放送大学教育振興会、1995年)
講義関連事項	講義の始めに、重要な課題設定などを行うので、遅刻しないように。
担当者から一言	論文式の試験において十分に実力を発揮できるように、時々論文作成練習を行うが、あくまで実力をつけるための自主的練習であって、点数はつかない。

授業コード	A5220		
授業科目名	法と情報(前)		
担当者名	米丸恒治(ヨネマル ツネハル)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	情報に関わる法律問題の中で、特にインターネットなどの情報通信ネットワークにかかわる法律問題とその解決
-------	--

	のための課題について検討する。
到達目標	授業で講義したテーマ毎に、日常生活の身近な事例に則して、基礎的な理解ができるようになること。そのための基礎的な知識の獲得も必要である。
講義方法	講義を中心にしながら、ときどき参加している学生にも質問をし考えてもらえるようなインタラクティブな授業にしたい。
準備学習	特に必要はないが、予め身の回りの新聞記事や経験の中で、授業で扱うテーマについてのアンテナを張って関心を持っておくことを勧めたい。
成績評価	期末試験(論述式)による。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 情報と法 2 情報と法—情報の法的価値と保護—概観 3 ネットワーク利用の現状 4 ネットワーク利用権の基礎—電気通信法制の基礎 5 同一ユニバーサル・サービス、通信利用権の保障 6 サイバースペースにおける表現規制・刑事責任 7 プロバイダの役割と責任 8 サイバースペースにおける商取引・民事責任 9 電子署名、電子認証 10 インターネットと個人情報保護 11 商業的通信の規制—スパムメールの規制 12 ネットワークの社会的利用と法—電子商取引、遠隔医療 13 ネットワークにおけるセキュリティー 14 電子政府化の現状と電子的行政手続法
教科書	なし。レジュメを配布して進める。
参考書・資料	授業中に適宜紹介する。
担当者から一言	現実に私たちを取り巻いている情報・通信法の事例をもとに、法的な問題点を考えてみます。一緒に勉強してください。

授業コード	A7150		
授業科目名	保健衛生(後)		
担当者名	李 明鎮(리 ミョン진)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	近年、食生活の欧米化や少子高齢化社会の進行、保健福祉政策の変更、地球環境の破壊など、我々の健康に関わる様々な要素に急激な変化が訪れており、健康保持増進における個人の自覚がより強く要望されるようになった。本講義では、医療・保健を専門としない人のために、我々の周辺の身近な話題を中心に取り上げ、現在の日本の国民衛生の動向を解説すると共に、健康問題に関する知識を深め、視野の広い賢明な市民として必要な資質を培う。
到達目標	我々の生活と直結した環境汚染や少子高齢化などの現状とそれに伴う問題点について、具体的な例を挙げて説明できる。
講義方法	講義資料を配付し、スライドを用いて講義を行う。
準備学習	新聞・雑誌の環境や健康関連の記事に目を通すことで、講義内容に関わる予備知識をつける。
成績評価	出席(20%)、レポート(10%)、期末試験(70%)により評価
講義構成	つぎのテーマにそって講義を進めていく予定ですが、場合によっては変更することもあります。 第1回 保健衛生概論 第2回 地球温暖化 第3回 環境汚染 第4回 公害病 第5回、6回、7回 成人保健・老人保健 第8回 母子保健 第9回、10回 感染症・食品衛生

	第11回 遺伝子と健康 第12回 精神保健 第13回 心肺蘇生 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	特に使用しない。
参考書・資料	国民衛生の動向(厚生統計協会)、シンプル衛生公衆衛生学(南江堂)、ネオエスカ公衆衛生学(同文書院)
その他	【注意事項】 1. 出席不正(代筆など)をした場合は、出席点数を0点にします。 2. 講義中に私語などで講義の進行を妨害する学生は退室させることがあります。

授業コード	A4120		
授業科目名	ヨーロッパ研究(前)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	<p>ヨーロッパとは何か。それはどのような時空間として発展し、現在にいたるのか。トルコの加盟に揺れるヨーロッパ連合(EU)は今後どうなるのか。ヨーロッパという空間の過去・現在・未来を考えるために、本年度は、この空間の西の端に位置する島国、イギリスに視点を置くことにしたい。</p> <p>サッチャー元イギリス首相は、かつて「共産主義やナチズムなど、悪いものはすべてヨーロッパからやってきた」と語った。また、フランスやドイツに行くことを「ヨーロッパに行く」と表現するイギリス人は、今なお少なくない。イギリスからながめる「ヨーロッパ」とはどのようなものなのか。それは、東の島国である日本から見たヨーロッパとどう違っているのか。</p> <p>文字史料とともに映画や絵画といった視覚資料を用いながら、「ヨーロッパ」という歴史的な時空間を文化的に見直してみたい。</p>
到達目標	ヨーロッパ関連のニュースや新聞記事の内容と意味を、歴史的・文化的な背景とともに、深く理解できるようになるとともに、それをグローバルな文脈でとらえ直すことができるようになること。
講義方法	パワーポイント、文字資料(プリント配布)、そして口頭での説明という「三位一体」で講義をおこなう。パワーポイントで具体的なイメージを提示しながら、古代、中世、近代、そして現代世界への時間のなかで、ヨーロッパという空間の変化とその意味がどう変わってきたのかについて、イギリスに軸足を置いて、社会とその文化、人びとの考え方や物の見方、感性とその変化などの視点から具体的に考えていく。その際、われわれを取り巻く現代世界との関わりをたえず念頭に置き、「過去と現在の対話」を試みたいと考えている。
準備学習	ヨーロッパ関連の政治・経済・社会・文化的なニュースを新聞やテレビ、インターネットなどでチェックし、そこに示された出来事や事件について、自分のコメントをまとめておくこと。講義の初めにそれらを回収し、評価対象としたいと考えている。
成績評価	講義の初めに毎回提出してもらおうヨーロッパ関連ニュース記事へのリアクション・ペーパー(30%)と、前期試験(70%)を総合的に評価する。
講義構成	<p>第1回 オリエンテーション——ヨーロッパとは何か？</p> <p>第2回 イギリス——ヨーロッパをながめ直す軸足</p> <p>第3回 ケルト世界とギリシャ・ローマ世界</p> <p>第4回 大陸国家イングランド——ヨーロッパ中世の光と影</p> <p>第5回 イスラムvsキリスト教</p> <p>第6回 「200年遅れ」のルネサンス</p> <p>第7回 大航海時代の文化認識——野蛮と文明</p> <p>第8回 ロシアはヨーロッパか？——ピョートル大帝のイングランド紀行</p> <p>第9回 奴隷貿易のヨーロッパ</p> <p>第10回 博物館のなかのヨーロッパ</p> <p>第11回 ナポレオンのヨーロッパ</p> <p>第12回 ヴィクトリア女王は「ヨーロッパの母」！</p> <p>第13回 ヨーロッパ統合の思想</p> <p>第14回 まとめ——ヨーロッパはどこへいく？</p>

	(なお、上記講義内容については、国際情勢や、毎回講義の初めに提出してもらおう予定のリアクション・ペーパーの内容に応じて変わる可能性があることをあらかじめ了承しておいていただきたい)
教科書	講義中に資料を配布する。特にテキストは指定しない。

授業コード	A1120		
授業科目名	倫理学(後)		
担当者名	森田美芽(モリタ ミメ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	授業前30分程度		

講義の内容	倫理学は、私たちが人として、人間らしく、よりよく生きるという主題を追求する学です。現代は、自由、平和、人権、人間性といった私たちの社会や生活を支える理念が揺さぶられています。そのなかで、時代の変化の根本を見つめ、私たちにとって見失ってはならない価値を追求し、それらを求めるために、先人の思想の足跡をたどり、現代の視点から問い直します。また、フェミニズム、ポストモダン、環境、生命、性倫理等現代倫理学上の諸問題を取り上げ、自分たち自身の課題として考えていきたいと思えます。
到達目標	現代を生きる人間として、同世代をより良く生きるための基本的な人間観を理解し、現代の倫理についての基礎知識を身につけ、その上で生命や人間へのよりよい感性、共感性を価値観の中に明晰に意識しかつ表現できるようにすることを目標とします。
講義方法	テキストを参考にし、そのテーマや内容を掘り下げて話します。その他必要な資料を随時配布します。
準備学習	テキストの関連項目を読み、自分なりの問題意識をもって授業に出席してください。また、生命や環境倫理に関する新しい新聞記事やニュース等にも関心を持って情報を見ておくと、より授業がわかりやすく、かつ自分のためにも有益です。
成績評価	学期末の筆記試験が80点、全授業のうち5回以上出席を取り、そのうち4回出席していれば、平常点約20点を加味した上での総合評価とします。従って、日常の出席回数と試験を受けたかどうかを見て、総合的に履修を放棄したとみなされる場合は「欠席」とします。
講義構成	<p>■講義構成</p> <p>第1回 人間て何や？—人間の場所としての現代—</p> <p>第2回 現代の倫理(1)生命の倫理 いのちは誰のもの？</p> <p>第3回 現代の倫理(2)生命の倫理 良き生と良き死</p> <p>第4回 現代の倫理(3)性と生殖の倫理 男女の共生のために</p> <p>第5回 現代の倫理(4)環境倫理を考える 西洋と東洋</p> <p>第6回 現代の倫理(5)環境倫理、非西洋編、そしていま</p> <p>第7回 現代の人間観の問題(1)私という不思議 (デカルト)</p> <p>第8回 現代の人間観の問題(2)「自分」って愛せるの？ (パスカル)</p> <p>第9回 現代の人間観の問題(3)平和なんてありえへん？ (カント)</p> <p>第10回 現代社会への問い(4)愛してれば平等？(ミル)</p> <p>第11回 現代社会への問い(5)私はひとりでない？(キェルケゴール再考)</p> <p>第12回 現代社会への問い(6)本当に「力は正義」か？(ニーチェとニヒリズム)</p> <p>第13回 現代社会への問い(7)再び絆を作り出すために(サルトル)</p> <p>第14回 現代社会への問い(8)ポストモダン、同世代を生きる</p> <p>第15回 試験</p>
教科書	石崎嘉彦編『ポストモダン時代の倫理』(ナカニシヤ出版、2007年)
参考書・資料	参考書:スタンレー・ローゼン(石崎嘉彦監訳)『政治学としての解釈学』(ナカニシヤ出版 1998年) 石崎嘉彦・山内廣隆・石田三千雄編『知の21世紀的課題』(ナカニシヤ出版 2001年) シリーズ<人間論の21世紀的課題>1～9巻(ナカニシヤ出版、2007年～)

担当者から一言	「倫理学てなんやむずかしそう」と思わず、積極的に参加してください。現代の問題や自分自身を深く考えるよい機会になります。
---------	---

授業コード	A1140
-------	-------

授業科目名	歴史(前)		
担当者名	三村昌司(ミムラ ショウジ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	<p>近代日本の形成期(19世紀後半)に、人びとがいかに自らを政治的に「正当」たらしめようとしてきたかについて、考察することをめざします。そこから「政治的に正当である」という言説の相対化を試みたうえで、社会のなかで「議論すること」の重要性と歴史性について、改めて考えていきたいと思えます。</p> <p>具体的には、(1)明治初年の議事機関である「公議所」という場所で、どのような議論の仕方がなされていたか、(2)明治20年前後に全国的に起こった「大同団結運動」という政治運動で語られていた論理、を対象にしたいと思えます。</p> <p>同時に、歴史史料を使って何かを調べるというのはどういうことかについても、触れていきたいと思っています。</p>
到達目標	<p>(1)歴史に対する理解 近代日本形成の歴史的過程について理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な社会の一員として必要な自覚と資質を養うことをめざします。</p> <p>(2)プロセスの重視 結果や結論だけを求めるのではなく、そこに至る過程を重視する視野の獲得をめざします。</p>
講義方法	必要に応じて史料レジュメを配布し、それに基づき講義を行う。また、時折課題を課すことがある。
準備学習	履修条件はとくにありません。 「歴史を学ぶことって、何か意味があるのかなあ？」と、ときどき考えてくれればそれでよいです。
成績評価	試験70%、出席および授業中の課題30%。
講義構成	<p>(1)明治初年の公議所にみる「議論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、兵庫県三田市にあった三田藩公議人の生活 2、公議所における「議論」 <p>(2)大同団結運動と政治的正当性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、兵庫県における大同団結運動の様相 2、大同団結運動にみられる政治的結合の様相 —個人結合と団体結合—
教科書	とくになし。進度に応じて資料を配布します。
担当者から一言	歴史とは、決まった問題に対して決まった正解がひとつあるわけではありません。講義を通じて、歴史的にものごとを考えるとはどういうことか、考えてもらうきっかけになればと思います。

授業コード	A2220		
授業科目名	歴史と経済(前)		
担当者名	小島修一(コジマ シュウイチ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	<p>「歴史の中の資本主義」というテーマで講義を行う。</p> <p>現在、「100年に一度」といわれる金融危機が進行している。これは世界経済の危機であるとともに、その中に生きる我々の生活の危機でもある。こうした一連の危機を真に理解するには、その奥底にある資本主義についての知識が不可欠であろう。</p> <p>資本主義は数百年かけて生成・発展・進化・変容してきた体制なので、まずこれを歴史的な展望において観察することが必要である。この講義は、こうした問題関心から「歴史の中の資本主義」について、できるだけ分かりやすく説明しようとするものである。現代という時代を、歴史的過去との「対話」を通して、より深く考えたいと思う。</p>
到達目標	資本主義に関する基礎知識の習得

講義方法	1. 講義資料を配布する。 2. 毎回、講義の最後に質問票を出してもらう。 3. 講義のテーマに関するドキュメンタリー・ビデオを見て、感想文を出してもらう。 4. レポートを提出してもらう。その内容については、講義の中で指示する。
準備学習	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと。
成績評価	レポートと定期試験の成績で評価する。また、ビデオの感想文や質問票の内容によって加点を行う。
講義構成	1. イントロダクション 2. 「資本主義」の概念 3. 大航海時代と商業革命(16世紀): 商業の資本主義 4. 重商主義と国民国家・国民経済(17-18世紀) 5. 産業革命の時代(19世紀): 工業の資本主義 6. 帝国の時代: 資本主義諸国間の対立 7. 資本主義体制への批判: 社会主義の思想と運動 8. 社会主義と修正資本主義の時代(20世紀) 9. 社会主義体制の崩壊と金融のグローバル資本主義 10. グローバル資本主義の危機と資本主義の多様化
教科書	開講時に指示する。
参考書・資料	参考書や関連文献は、授業の中で指示する。

授業コード	A2340		
授業科目名	歴史と文学(前)		
担当者名	佐藤愛弓(サトウ アユミ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	上代から中世までの物語とその時代背景について
到達目標	古典作品の性質は、その作品が成立した時代状況と深く関係する。時代の影響を受けない作品はない。この授業では日本古典文学の基礎的事項や歴史の変遷について学び、文学行為の背景にある日本文化について理解を深める。また古典文学のテキストとそれを生み出すに至った歴史を総合的に捉えることを目標とする。
講義方法	講義を中心とし、プリントはそのつど配布する。
準備学習	特になし。
成績評価	出席状況30%(授業態度を含む)、期末レポート70%(但し全授業数の3分の1を欠席した場合は、期末レポートの提出を認めません)
講義構成	1 オリエンテーション 時代区分概観 2 『古事記』『日本書紀』の成立(1) 3 『古事記』『日本書紀』の成立(1) 4 平安文学概観「国風暗黒時代」の文学 5 仮名の文学のはじまり(『土佐日記』) 6 日記文学の隆盛(『蜻蛉日記』『和泉式部日記』『紫式部日記』) 7 伝奇物語と歌物語(『竹取物語』と『伊勢物語』) 8 『源氏物語』の成立とその時代 9 『源氏物語』以降の物語(『とりかへばや物語』『浜松中納言物語』) 10 説話の時代(1)(『今昔物語集』『十訓抄』) 11 説話の時代(2)(『古今著聞集』『沙石集』) 12 軍記物語(1)(『平家物語』) 13 軍記物語(2)(『太平記』) 14 準軍記(『曾我物語』『義経記』) 15 芸能(能、狂言、幸若舞、説教節)
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	特に指定しない。
担当者から一言	授業全体の説明を第1回の授業の時に行うので、受講する気のある学生は、第1回から出席すること。

授業コード	A2250		
授業科目名	歴史と民族(後)		
担当者名	中田美絵(ナカタ ミエ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	<p>テーマ:ソグド人の東方進出と展開</p> <p>シルクロード貿易を支配した人々としてまず挙げられるのが、国際商人ソグド人であろう。ソグド人は、中央ユーラシアの広範囲にネットワークを張り巡らし遠隔地交易を行っていた。ただし、ソグド人＝商人というだけではない。中央ユーラシア東部の遊牧国家や中国においては、ソグド人は次第に政治・軍事・文化・宗教など様々な方面においても重要な役割を演じるようになっていった。ソグド人は、中央ユーラシアの歴史を語るうえで無視することはできない存在といえよう。</p> <p>また、近年、中国内地においてソグド人の墓が多数発見され、研究が進展したことにより、ソグド人の活動の具体像がより鮮明に浮かび上がってきている。本講義では、こういった近年の最新研究成果をとりいれつつ、中国をはじめとするユーラシア東方地域におけるソグド人の活動の歴史を、様々な方面から解説していきたい。</p>
到達目標	中央ユーラシア史に関する基礎的な知識を身につけるとともに、最新のソグド研究の成果を学ぶことで、ソグド人が歴史上果たした役割を理解し、具体的に説明することが出来る。
講義方法	板書と配布プリントとを併用した講義形式。適宜、写真なども用いる。
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・開講前に高校の世界史の教科書を復習しておくことが望ましい(とくに、9世紀頃までの中国・中央アジア・北アジアの歴史)。 ・講義中に紹介した書籍や、配布する参考プリントなどは積極的に読むこと。
成績評価	平常点(出席点+小レポートまたは小テスト)と期末試験によって総合的に評価する。詳細については、ガイダンスで説明する。
講義構成	<p>(1)ガイダンス</p> <p>(2)ソグド人が活躍した舞台</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央ユーラシアとは? ・シルクロードとは? ・オアシス国家とは? <p>(3)ソグド人と遊牧民</p> <p>(4)ソグディアナから中国へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔地交易とソグド人 ・中国内地におけるソグド人集落と中国王朝 ・中国で発見されたソグド人の墓 <p>(5)ソグド人と宗教</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゾロアスター教・マニ教・ネストリウス派キリスト教・仏教
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	講義中に適宜紹介する。また、プリントを適宜配布する。

授業コード	A3220		
授業科目名	歴史の中の現代(後)		
担当者名	廣川和花(ヒロカワ ワカ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		

講義の内容	<p>わたしたちにとって身近な現象である「病気」と、それに対応して発展してきた科学技術である「医療」の歴史を学ぶ。病気と医療は、自然と人間社会の相互作用であり、現代社会はその相互作用の歴史の重層として存在している。具体的には、結核、ハンセン病、梅毒、天然痘、ペスト、コレラ、AIDS、インフルエンザなど、それぞれの時代において重要な意味を持つ感染症を中心的な題材とする。</p>
-------	---

到達目標	(1)自然と人間社会の相互作用から作られる、私たちの身体とその病気の歴史の基本を学ぶ。 (2)現代の病気と医療の問題を考える視点の基本を身につける。
講義方法	配付資料をもとに講義を進める。特に、可能な限り実際の歴史史料を読むことを重視する。新聞記事などを用いて時事的な話題も提供する。毎回講義の終わりに感想用紙の提出を求め、それを元に、次回講義時に必要に応じて質疑応答を行う。
準備学習	授業で示した参考文献に親しむこと。その他にも、授業に関係すると思われる情報に意欲的に接することが望ましい。My KONANを用いて授業連絡をすることがあるので毎回確認すること。
成績評価	期末試験を基本に、授業時に提示する課題や小テスト、出席点を元に評価する。
講義構成	第1回 イントロダクション 第2・3回 人類の歴史と疾病(古代～近世) 第4・5回 植民地化と疾病 第6回 医療技術と器具の歴史 第7・8・9回 疾病と近代日本の社会—ハンセン病・ペストを中心に— 第10回 疾病と文化・環境—結核と梅毒を中心に— 第12回 現代の疾病と社会(1)AIDS 第13回 現代の疾病と社会(2)インフルエンザ 第14回 現代の疾病と社会(3)総括 第15回 試験
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	ウィリアム・H・マクニール(佐々木昭夫訳)『疫病と世界史』上/下(1985年、中公文庫) その他、授業中に適宜示す場合がある。

授業コード	A4260		
授業科目名	歴史の中の国際化(後)		
担当者名	東谷 智(ヒガンタニ サトシ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	木曜日12:20～14:20 東谷研究室(10号館5階)		

講義の内容	江戸時代の日本は「鎖国」と称され、対外的に国を鎖していたかのイメージがある。本講義では、いわゆる「鎖国」下の「日本」における国際交流の様相を紹介し、従来の「鎖国」イメージではなく、意外と閉ざされていなかった江戸時代について理解を深めることを目的としている。 文献資料の他、絵画資料や地図資料を用い、異国民の描かれ方や異国民に対する庶民のまなざし、異国民との接触などについて具体的な事例を紹介したい。 現代日本が置かれた国際的位置についても考える際、近代の開国から国際交流を考えるのではなく、江戸時代の国際交流の有り様を踏まえて理解できることを目指したい。
到達目標	江戸時代の外交について理解する。
講義方法	講義形式を中心とする。 配布プリントの他、絵図・地図・屏風など、画像資料も用いる。
準備学習	高等学校で日本史を履修した人もしていない人も、江戸時代について、日本史の教科書を再読しておくこと。
成績評価	期末試験の成績で評価する。
講義構成	以下の講義内容を予定している。 1.「鎖国」はどう考えられてきたのか 2.「日本」にやってきた異国人 3.庶民と異国人との接触 4.屏風の中の異国人 5.江戸時代の国際交流と「開国」 * 講義に関わるテーマで展示が行われている博物館を見学する機会を持ちたい(希望者のみ)。

教科書	特に指定しない。 必要な資料は配布します。
参考書・資料	講義中に指示する。
講義関連事項	必要に応じ、高等学校の教科書のコピーを配付し、高等学校で日本史を履修していない受講生も理解できるような講義にします。

担当者から一言	具体的に国際交流の様子を知ることのできる資料を見てもらいます。江戸時代の人々が国際交流をどう捉えたのかについて、豊かなイメージを持ってもらいたいと思います。
---------	--

授業コード	A1160		
授業科目名	論理学(前)		
担当者名	森 匡史(モリ マサフミ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	理工学部・知能情報学部は1年次から、他学部は2年次から履修してください。		
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	19世紀後半に始まり20世紀に著しく発展して、数学、計算機科学、言語学など、多くの科学に応用されている記号論理学の基礎を講義する。
到達目標	古典論理の観点から、論理的真理と推論の妥当性を判定でき、さらに、推論の演繹的証明を行なうことができる。
講義方法	通常の方式で行なう。ただし、理解度を知るために、講義中に適宜、小テストを実施する。
準備学習	準備学習:教科書の予習と復習。
成績評価	講義中のテストと期末試験の結果で評価する。
講義構成	第1章 はじめに 第2章 命題論理学:真理関数と恒真式のテスト 第3章 命題論理学:推論の妥当性判定 第4章 命題論理学:自然演繹法 第5章 アリストテレス論理学 第6章 ブールの論理代数 第7章 述語論理学の基礎 第8章 まとめ
教科書	飯田賢一・中才敏郎・中谷隆雄著『論理学の基礎』(昭和堂)
参考書・資料	内井惣七著『真理・証明・計算』(ミネルヴァ書房)

担当者から一言	論理学の各部分は鎖の輪のようにつながっています。輪が一つでも欠ける(欠席したりしてその部分を把握していない)と鎖が切れてしまい、後の部分が理解できなくなることにくれぐれも注意して下さい。
---------	---